BERNINA 720

made to create BERNINA

ベルニナユーザーの皆様へ

この度はベルニナミシンをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ベルニナミシンは、これから長年にわたってあなたの信頼にお応えしていくことでしょう。私の家族は100年以上にわたりユーザーの皆様にご満足いただける製品を作り続けてまいりました。精密で完成度が高く、将来を見据えたソーイングテクノロジーに培われて作り出されたスイスのミシンを、行き届いたカスタマーサービスと共にお届けできることを誇りに思っております。

ベルニナ7シリーズは、開発の際に最高級のテクノロジーと使いやすさだけでなく、デザインにもこだわった7つの現代的な機種からなる製品です。品質だけでなくデザインも重視される、クリエイティブなユーザーの皆様にご満足いただける製品であると自信を持ってお届けいたします。

あなたの新しいBERNINA 720でクリエイティブなソーイングや刺しゅう、キルティングをお楽しみください。また、ホームページ www.bernina.com で、多彩なアクセサリーについての情報や、無料でダウンロードできる作品の作り方などをぜひご覧ください。

経験豊富なベルニナ正規販売代理店が、皆様のアフターサービスを担当いたします。

ユーザーの皆様が新しいベルニナミシンでクリエイティブな時間を楽しんでいただけますよう、心から願っております。

H.P.ウェルチ

オーナー

ベルニナインターナショナル株式会社

CH-8266 シュテックボルン

奥付

グラフィック

www.sculpt.ch

テキスト、文およびレイアウト

ベルニナインターナショナル株式会社

写真

Patrice Heilmann, Winterthur

製品番号

2014/10 ja 036045.50.10

第一版

版権

2014 ベルニナインターナショナル株式会社

無断転載の禁止:技術的な理由および製品改良の為、ミシンの機能や部品、アクセサリー等が予告なく変更されることがあります。付属のアクセサリーの仕様は国により異なります。

目次

安全にご使用いただくために 12

1 マイベルニナ 15

1.1 イントロダクション 15

1.2 その他の情報について 15

1.3 記号について 15

1.4 各部名称 16
前面部 操作部分名称 16
前面部名称 17
側面部名称 18
後部名称 19

1.5 付属アクセサリー 20
電源コードの使用方法（アメリカ合衆国／カナダのみ） 21
フットコントローラー（アメリカ合衆国／カナダのみ） 22
押え金 22
アクセサリーボックス 23

1.6 左側の選択メニューについて（外部機能／表示） 24

1.7 下部の選択メニューについて（システム設定） 24

1.8 ボタンとアイコン 24

1.9 針、糸、布地 25
糸の選択 26
針の種類 27
針と糸の組み合わせ 27

2 ソーイングの準備 28

2.1 アクセサリーボックス 28
アクセサリーボックスを立てる 28
アクセサリーを保管する 28

2.2 接続と電源 29
フットコントローラーを接続する 29
ミシンを電源に接続する 29
押え上げレバーを取り付ける 30
タッチペンを取り付ける 30
ミシンの電源を入れる 30

2.3 フットコントローラー 30
ソーイングスピードのコントロール 30
針を上げる／下げる 31

2.4 糸立て棒 31
糸立て棒を立てる 31
糸こまクッションを取り付ける 32
糸こま押えを取り付ける 32
糸こまネットを使用する 32

2.5 フリーアーム 33
送り歯の設定 33
ソーイングテーブルを取り付ける 33

2.6 押え金 34
押え上げレバーで押え金の位置を変える 34
押え金 上／下ボタンで押え金の位置を変える 34
押え金を交換する 34
押え金表示 35
押え圧を調節する 35

2.7 送り歯を調節する 35

2.8 下糸残量をチェックする 35

2.9 針と針板 36

針位置 上／下を設定する 36
針基線 左／右を設定する 36
針停止 上／下（常時）を設定する 36
針を交換する 36
針を選択する 37
針のタイプと番手を選択する 37
針板を交換する 38
針板を選択する 39

2.10 糸をかける 39
糸かけの準備をする 39
上糸をかける 39
二本針に糸を通す 42
三本針に糸を通す 42
下糸を巻く 43
下糸をかける 44

2.11 チュートリアルを開く 46

2.12 ヘルプを開く 46

2.13 ソーイングアドバイザーを開く 47

3 セットアッププログラム 48

3.1 ソーイング機能の設定 48
上糸調子を設定する 48
ソーイングスピードの最高速度を設定する 48
留め縫いを設定する 48
押え金の高さを設定する 48
《模様終わり》ボタンをプログラムする 49
《糸切り》ボタンをプログラムする 49
針停止が下の際の押え金の位置を設定する 50
《返し縫い》ボタンをプログラムする 50

3.2 刺しゅう機能の設定 51
上糸調子を設定する 51
刺しゅうスピードの最高速度を設定する 51
刺しゅう枠の調整 51
布地の厚さを設定する 52
留め縫い機能をオフにする 52
糸取り機能をオフにする 52
自動糸切り機能を設定する 53

3.3 パーソナル画面を設定する 53

3.4 センサー機能 54
上糸センサーを設定する 54
下糸センサーを設定する 54

3.5 操作音の設定をする 54

3.6 ミシンの設定 55
言語の設定 55
ディスプレイの明るさを設定する 55
ソーイングライトの設定 56
ディスプレイの調整 56
標準設定に戻す 56
ユーザーデータを消去する 57
ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）のデータを消去する 57
布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを調整する 58
ソフトウェアを更新する 58
保存したデータを復元する 59
ミシンのクリーニングをする 60
ミシンに注油をする 60
刺しゅう機を収納する 61
ソフトウェアのバージョンを確認する 61
総ステッチ数を確認する 61
代理店情報を登録する 62

サービスデータを保存する 62

4 クリエイティブなソーイング 64

4.1 ソーイング機能について 64
ステッチパターンを選択する 64

4.2 ソーイングスピードを調節する 64

4.3 ステッチパターンの編集 65
振り幅を変更する 65
送り長さを変更する 65
上糸調子を設定する 65
バランスを調整する 66
模様繰り返し機能を設定する 66
ステッチパターンを反転させる 66
ステッチパターンの長さを変更する 67
返し縫い 67
続けて返し縫いをする 67

4.4 留め縫い 68
《模様終わり》ボタンを押して留め縫いをする 68
《留め縫い》アイコンで留め縫いをする 68

4.5 ステッチパターンを編集する 68
ステッチパターンの設定を保存する 68
ステッチパターンをユーザーメモリーに保存する 68
ユーザーメモリー内のステッチパターンを上書きする 68
ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを呼び出す 69
ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを消去する 69
全ての変更を消去する 69

4.6 コンビネーションモード 70
コンビネーションモードについて 70
ステッチパターンのコンビネーションを作成する 70
ステッチパターンのコンビネーションを保存する 70
ステッチパターンのコンビネーションを呼び出す 71
ステッチパターンのコンビネーションを上書きする 71
ステッチパターンのコンビネーションを消去する 71
単独のステッチパターンを編集する 72
単独のステッチパターンを消去する 72
単独のステッチパターンを追加する 73
ステッチパターンのコンビネーションを反転させる 73
ステッチパターンのコンビネーションを分割する 73
ステッチパターンのコンビネーションを途中で区切る 74
ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする 74
模様繰り返し機能を設定する 74

4.7 布地の高さを調節する 75

4.8 角を縫う 75

4.9 エコモードについて 76

5 実用縫い 77

5.1 実用縫い一覧 77

5.2 直線縫い 79

5.3 自動留め縫いプログラムで留め縫いをする 79

5.4 ファスナーを縫い付ける 80

5.5 ファスナーの両側を下から上に縫い付ける 81

5.6 トリプル直線縫い 81

5.7 トリプルジグザグ縫い 82

5.8 マニュアル式繕い縫い 82

5.9 自動繕い縫い 84

5.10 自動補強繕い縫い 85

5.11　布端の処理をする　85
5.12　ダブルオーバーロック　86
5.13　布端のトップステッチ（小幅）　86
5.14　布端のトップステッチ（大幅）　87
5.15　シームガイドを使用したトップステッチ　87
5.16　裾を縫う　88
5.17　まつり縫い　88
5.18　飾りヘムステッチ　89
5.19　フラット縫い　90
5.20　しつけ縫い　90

6　飾りステッチ　91
6.1　飾りステッチについて　91
6.2　ボビンマジック　91
6.3　クロスステッチ　92
6.4　ピンタック　93
コード芯をセットする　93
ピンタックを縫う　94

7　アルファベット　95
7.1　アルファベットについて　95
7.2　文字列を入力する　95

8　ボタンホール　97
8.1　ボタンホールについて　97
8.2　高さ調節板を使用する　98
8.3　ボタンホール用布送りサポートを使用する　98
8.4　ボタンホールの印をつける　98
8.5　ボタンホール芯　99
ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aと一緒に使用する　99
ボタンホール芯をボタンホール押えNo.3（オプションアクセサリー）と一緒に使用する　100
8.6　試し縫いをする　101
8.7　ボタンホールの穴幅を設定する　101
8.8　ボタンホールの長さを設定する　102
8.9　ステッチカウンター機能を使用する　102
8.10　ボタンホールを自動で縫う　103
8.11　7ステップ自動ボタンホールを縫う　103
8.12　５ステップ自動ボタンホールを縫う　104
8.13　ボタンホールをシームリッパーで切り開く　105
8.14　ボタンホールカッター（オプションアクセサリー）でボタンホールを切り開く　106
8.15　ボタンを縫い付ける　106
8.16　アイレットを縫う　106

9　キルティング　107
9.1　キルトステッチについて　107
9.2　キルター用留め縫いプログラム　107
9.3　手縫い風ステッチを縫う　108
9.4　フリーモーションキルティング　108

10 ベルニナステッチレギュレーター(BSR) 110
10.1 BSRモードを使用する 110
10.2 BSRモード１ 110
10.3 BSRモード2 111
10.4 BSR機能を直線縫いNo.1で使用する 111
10.5 BSR機能をジグザグ縫いNo.2で使用する 111
10.6 ソーイングの準備 111
BSR押えを取り付ける 111
押え底を交換する 112
10.7 留め縫い 113
BSR1モードで、《スタート／ストップ》ボタンを使用して留め縫いする 113
BSR2モードでの留め縫い 113

11 刺しゅう 114
11.1 刺しゅう機について 114
11.2 付属アクセサリー 114
11.3 刺しゅうについての重要事項 115
刺しゅうモチーフの選択 115
試し縫い 115
刺しゅうモチーフの大きさ 115
アンダーレイステッチ 115
リーフステッチおよびサテンステッチ 116
たたみ縫い 116
つなぎステッチ 116
上糸 117
下糸 117
破り取る安定紙 117
切り取る安定紙 117
11.4 刺しゅう機能について 118
11.5 刺しゅうの準備 118
刺しゅう押え No.26を取り付ける 118
刺しゅう押え No.26を選択する 118
刺しゅう針を取り付ける 119
刺しゅう針を選択する 120
針のタイプと番手を選択する 120
カットワーク／直線縫い用針板を取り付ける 121
カットワーク／直線縫い用針板を選択する 121
刺しゅう機を取り付ける 122
刺しゅう枠を準備する 122
スプレーのりを使用する 123
スプレー洗濯のりを使用する 123
アイロン接着芯を使用する 123
のり付き安定紙を使用する 124
水溶性安定紙を使用する 124
刺しゅう枠を取り付ける 124
11.6 刺しゅうモチーフを選択する 124
11.7 刺しゅう枠 126
刺しゅう枠の表示について 126
刺しゅうモードで上糸を交換する 126
刺しゅうモードで下糸を交換する 126
刺しゅう機を接続したままでソーイングをする 126
補助線の設定 127
刺しゅうモチーフの中心を選択する 127
刺しゅう枠の位置を変える 127
11.8 刺しゅうモチーフを編集する 128
刺しゅうモチーフの編集について 128
刺しゅう時間を確認する 129

上糸調子を設定する 129
表示を変更する 129
刺しゅうモチーフを移動する 130
刺しゅうモチーフを回転させる 130
サイズを比例的に変更する 130
刺しゅうモチーフを反転させる 131
刺しゅうモチーフの大きさを確認する 131
サテンステッチをたたみ縫いに変更する 131
ステッチの密度を変更する 132

11.9 刺しゅうモチーフの管理 132
刺しゅうモチーフをユーザーメモリーに保存する 133
刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーに保存する 133
ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする 133
ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする 133
刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す 134
刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び出す 134
ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する 134
ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去する 135

11.10 刺しゅうメニュー 135
刺しゅうメニュー一覧 135
刺しゅうモチーフの色を変更する 135
糸メーカーを変更する 136
しつけ縫いステッチを追加する 136
刺しゅう枠の移動 136
針の位置を直す 137
つなぎステッチを切る 137
単色で刺しゅうをする 137
色ごとに刺しゅうをする 137

11.11 《スタート／ストップ》ボタンを使って刺しゅうをする 137

11.12 フットコントローラーを使って刺しゅうをする 138

11.13 文字列を入力する 138

12 付記 140

12.1 お手入れとクリーニング 140
ディスプレイを掃除する 140
送り歯を掃除する 140
ミシンに注油をする 140
釜を掃除する 141
釜に注油をする 142

12.2 トラブルシューティング 143

12.3 エラー表示 146

12.4 収納と処分 149
ミシンを収納する 149
ミシンを処分する 149

12.5 機械仕様 150

13 ステッチパターン一覧 151

13.1 実用縫い 151

13.2 ボタンホール 151

13.3 飾りステッチ 152
自然 152
クロスステッチ 152
サテンステッチ 152
幾何学模様ステッチ 152
伝統柄ステッチ 153
キッズ柄ステッチ 153
キルトステッチ 154

14 刺しゅうモチーフ一覧 155

14.1　刺しゅうモチーフを編集する 155
14.2　キルト 155
14.3　飾りステッチ 156
14.4　花 157
14.5　キッズ 158
14.6　ボーダーとレース 160
14.7　季節 161
14.8　クリスタルワーク 162

索引 163

安全にご使用いただくために

ミシンをご使用になる際には以下の基本的な安全に関する注意事項をお守りください。当ミシンをご使用の前には、必ず取扱説明書をよくお読みください。

危険！

感電の危険を避けるために：

- 電源プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないでください。
- ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントから電源プラグを外してください。

LEDライトの光について：

- LEDライトを光学機器など（ルーペなど）を使って直接見ないようご注意ください。当製品はクラス１MのLEDです。

警告

火傷、火事、感電および怪我の危険を避けるために：

- 当ミシンはこの取扱説明書の記載内容に従ってご使用ください。
- ミシンを戸外で使用しないでください。
- ミシンをおもちゃとして使用しないでください。ミシンをお子様がご使用になる際、およびお子様の側でご使用になる際には、十分にご注意ください。
- 8歳以下のお子様、身体的および感覚的に不自由な方、意思疎通が上手にできない方、およびミシンの使用方法が理解できない方は、保護者または安全に対する責任者による指示の下以外では、ミシンのご使用を避けてください。
- ミシンはお子様の手の届かないところへ保管してください。
- 掃除や調整の作業をお子様が行う際には、保護者の方の監督の下に行ってください。

- コードや電源プラグに傷があるとき、正常に作動しないとき、落としたり損傷したとき、および水の中に落としたときには、ミシンをご使用にならないでください。このような場合には、ミシンをお近くのベルニナミシン専門店へお持ちいただき、修理や調整を行ってください。
- ベルニナ社がおすすめするアクセサリーのみをご使用ください。
- ご使用の際に、通気孔が塞がれていないか確認してください。ミシンやフットコントローラーに糸くずやほこり、布切れがついたままにしないでください。
- ミシンの隙間からものを差し込んだりしないでください。
- 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では使用しないでください。
- 操作中は動く部品に指などを近づけないでください。特にミシン針の周囲では、細心の注意を払ってください。
- 裁縫中に布地を引っ張ったり押し込んだりすると、針折れの原因になります。
- 針に糸を通す、針を交換する、下糸を通す、押え金を交換するなど、針の周りで作業する場合には、ミシンの電源をお切りください。
- 曲がった針は使用しないでください。
- 常に専用の針板をお使いください。間違った針板のご使用は、針折れの原因になります。
- 電源プラグをコンセントから外す前に、必ずミシン本体の電源をお切りください。電源プラグを外す際には、コードを引っ張らずに、電源プラグを持って外してください。
- ミシンのカバーを開ける、注油をするなどの取扱説明書に記載された掃除・調整作業を行う際には、必ず電源プラグをコンセントから外してください。

・ このミシンは、二重絶縁構造を採用して製造しています。（アメリカ合衆国、カナダを除く）ベルニナ純正部品のみをお使いください。詳しくは、「二重絶縁構造の製品のメンテナンスについて」をご覧ください。

二重絶縁構造の製品のメンテナンスについて

二重絶縁構造の製品には、アースをとる方法の代わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品にはアースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁構造の製品のメンテナンスには細心の注意と豊富な知識が必要です。資格のある専門の方のみが行ってください。メンテナンス・修理の際には純正部品のみを使用してください。製品には«二重絶縁»または«二重絶縁構造»と表示されています。

回 二重絶縁構造の製品にはこの表示がされています。

取扱説明書は大事に保管してください

使用目的について

当ベルニナミシンは、ご家庭での使用を対象として、布地または取扱説明書に記載されているその他の素材の生地を縫うために構想、製造されています。その他の使用方法は当ミシンの使用目的に適用されず、ベルニナはその責を一切負いません。

1　マイベルニナ

1.1　イントロダクション

あなたのBERNINA 720ではソーイング、刺しゅう、そしてキルティングが楽しめ、シルクやサテンのような薄地から、麻、フリースそしてデニムなどの厚地まで、簡単に縫うことができます。多彩な実用縫いステッチ、飾りステッチ、ボタンホールや刺しゅうモチーフも搭載されています。

この取扱説明書に加えて、３つのヘルププログラムがディスプレイに表示されます。

チュートリアルでは、ソーイングと刺しゅう、および様々なステッチの情報や説明を見ることができます。

ソーイングアドバイザーでは、作品製作のお手伝いをします。使用する生地や作りたい作品を入力すると、お勧めの針や押え金などが表示されます。

ヘルププログラムでは、それぞれのステッチパターンや機能、用途などを見ることができます。

1.2　その他の情報について

この取扱説明書に加えて、あなたのBERNINA 720には以下のお知らせ用製品が付属しています。

- ビデオ説明付きDVD
- アクセサリーカタログ

最新の取扱説明書、および更なるソーイング情報はhttp://www.bernina.comをご覧ください。

1.3　記号について

⚠ 危険　誤った扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が非常にあります。

⚠ 警告　誤った扱いをすると、死亡または重傷を負う危険があります。

⚠ 注意　誤った扱いをすると、軽症から中度の傷害を負う危険があります。

注意　誤った扱いをすると、物的損害が発生する恐れがあります。

ヒントベルニナソーイングエキスパートからのヒントを得られます。

この取扱説明書では、わかりやすいように、説明写真が使われています。写真に使われているミシンやアクセサリーは、必ずしもお使いのミシンやその付属アクセサリーであるとは限りません。

1.4 各部名称

前面部 操作部分名称

1	返し縫い	6	針 上／下
2	糸切り	7	多機能ボタン 上
3	押え金 上／下	8	多機能ボタン 下
4	スタート／ストップ	9	針 左／右
5	模様終わり		

前面部名称

1	刺しゅう機接続部	8	スピードコントローラー
2	釜カバー	9	天秤保護カバー
3	アクセサリー取付部（オプション）	10	天秤
4	押え金	11	針止めネジ
5	糸通し	12	ソーイングテーブル取付部
6	ソーイングライト	13	押え上げレバー取付部
7	糸ガイド		

側面部名称

1	フットコントローラー接続部	7	電源
2	PC接続部	8	電源コード用ソケット
3	糸立て棒	9	タッチペン用マグネット式ホルダー
4	糸切り	10	通気溝
5	折りたたみ式糸立て棒	11	USB接続部
6	はずみ車	12	送り歯 上／下

後部名称

1	ソーイングテーブル取付部	9	テンション付き糸ガイド
2	縫い縫いアタッチメント取付部	10	天秤
3	BSR接続部	11	糸ガイド
4	アクセサリー取付部（オプション）	12	針止めネジ
5	通気溝	13	糸切り
6	糸ガイド	14	送り歯
7	下糸巻き装置	15	針板
8	キャリングハンドル		

1.5　付属アクセサリー

その他のアクセサリーについてはwww.bernina.comをご覧ください。

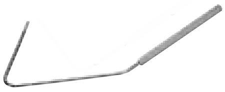
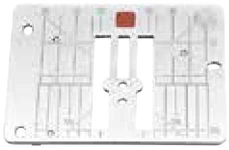
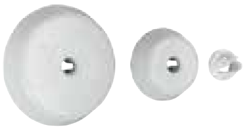
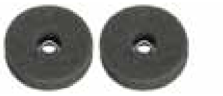
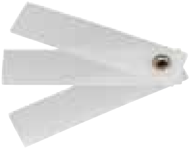
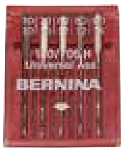
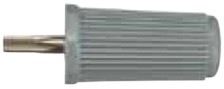
図	名称	用途
	保護カバー	ほこりや汚れからミシンを守ります。
	アクセサリーボックス	アクセサリーを保管します。
	押え上げレバー	押え金の上げ下げをします。
	ソーイングテーブル	フリーアームの機能を残したまま作業台を広くすることができます。
	直線縫い／カットワーク用針板	小さなステッチ穴が針の動きを最適にし、美しいステッチが仕上がります。
	糸こま押え3種類	糸こまから均等な糸送りをします。
	ボビン3個およびボビンケースに1個	下糸を巻きます。
	糸こまクッション2個	糸が糸立て棒に絡まるのを防ぎます。
	タッチペン	指を使用した場合より、ディスプレイ上の操作をより正確にすることができます。
	シームリッパー	縫い目を解いたり、ボタンホールを作る際に大変便利です。

図	名称	用途
	高さ調節板	布地の厚みの差を補い、押え金が斜めになるの防ぎ、布の動きをスムーズにします。
	針セット	様々な用途に合わせた針のセットです。
	キルターガイド 右	針の右側の布地の位置をガイドします。簡単に規則正しいステッチの間隔を維持することができます。
	灰色の特殊ドライバー	針の交換の際に使用します。
	赤色の小型ドライバー	様々な用途に使用します。
	特殊L型レンチ	トップカバーを開ける際に使用します。
	ブラシ	送り歯や釜周辺を掃除する際に使用します。
	オイル	注油の際に使用します。
	電源コード	ミシンと電源を接続します。
	フットコントローラー	ミシンをスタート、ストップさせます。またミシンのスピードをコントロールします。

電源コードの使用方法（アメリカ合衆国／カナダのみ）

ミシンのプラグは有極プラグです。（二つの端子の幅が異なります）感電のリスクを低くするために、プラグはコンセントに正しく差し込んでください。プラグがコンセントに差し込めない場合は、プラグの向きを変えてください。それでも差し込めない場合には、電気工事士に依頼して、プラグに合ったコンセントを設置してください。プラグを改造することは絶対にしないでください。

フットコントローラー（アメリカ合衆国／カナダのみ）

BERNINA 720では常にタイプLV1のフットコントローラーを使用してください。

押え金

図	番号	名称	用途	例
	1	標準押え	上送りのない標準押え金。	
	3A	布ガイド付き自動ボタンホール押え	ボタンホールに。	
	4	ファスナー押え	上送り付き。ファスナーの縫い付けに。	
	8	ジーンズ押え	上送り付き。デニム地に。	
	20	オープン刺しゅう押え	アップリケや飾り縫いに。	

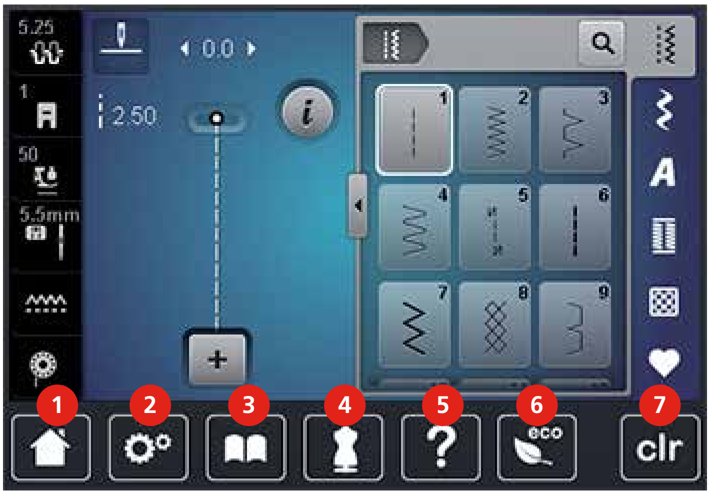
アクセサリーボックス

1	引出し 大	4	標準針セット
2	引出し 小	5	ボビン
3	布ガイド付き自動ボタンホール押え	6	押え金

1.6　左側の選択メニューについて（外部機能／表示）

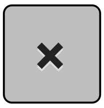
1	上糸調子	4	針板／針選択
2	押え金表示	5	送り歯　上／下
3	押え圧	6	下糸残量表示

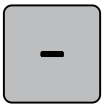
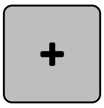
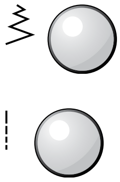
1.7　下部の選択メニューについて（システム設定）



1	ホーム	5	ヘルプ
2	セットアッププログラム	6	エコモード
3	チュートリアル	7	標準設定に戻す
4	ソーイングアドバイザー		

1.8　ボタンとアイコン

アイコン	名称	用途
	閉じる	変更内容を保存して、ウィンドウを閉じます。
	決定	変更した内容を確認して、ウィンドウを閉じます。

アイコン	名称	用途
	キャンセル	作業を中断します。変更内容は保存されずにウィンドウを閉じます。
 	アイコン«–/+»	アイコン«–»および«+»で設定内容を変更します。
	«多機能ボタン 上»および«多機能ボタン 下»	«多機能ボタン 上»および«多機能ボタン 下»で設定内容を変更します。
	スライダー	設定内容の変更をします。
	スイッチ	機能のオン／オフをします。
	履歴ナビゲーション	履歴ナビゲーションを使用すると、ディスプレイを前に戻すことができます。
	ワイプ機能	タッチペンまたは指で画面を上下にスライドさせて、その他の機能を表示することができます。

1.9 針、糸、布地

使用するごとに針は劣化していきます。針は定期的に交換してください。針先の鋭い針を使用することによって、きれいなステッチが仕上がります。基本的に、薄い布地であればあるほど、細い針を使用してください。以下の針は、ミシンの機種によって標準またはオプションとなります。

- 70番、75番：薄地に。
- 80番、90番：中厚地に。
- 100番、110番および120番：厚地に。

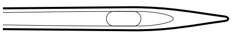
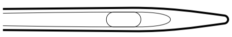
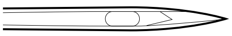
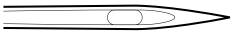
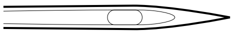
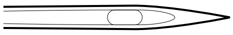
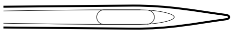
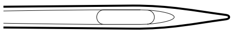
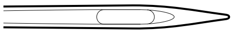
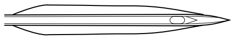
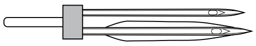
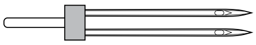
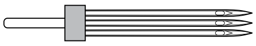
図	針の名称	針の特徴	用途
	標準針 130/705 H/60-100	標準の針先で、少し丸みを帯びている	ほぼ全ての天然および合成繊維（織地およびニット）に。
	ジャージー／ストレッチ針 130/705 H-S、H-SES、H-SUK/70-90	ボールポイント針	ジャージー、トリコット、ニットおよびストレッチ素材に。
	レザー針 130/705 H-LL、H-LR/90-100	カッティングポイント	全ての皮、ビニール、合成皮革、プラスティック素材およびフォイル地に。

図	針の名称	針の特徴	用途
	ジーンズ針 130/705 H-J/80-110	非常に細く鋭い針先	ジーンズや帆布などの厚地に。
	マイクロテックス針 130/705 H-M/60-90	特に細く鋭い針先	マイクロファイバー地やシルクに。
	キルティング針 130/705 H-Q/75-90	細く鋭い針先	直線縫いやトップステッチに。
	刺しゅう針 130/705 H-SUK/70-90	大きな針穴で、少しボールポイントの針	全ての天然繊維および合成繊維での刺しゅうに。
	メタフィル針 130/705 H-MET/75-80 またはH-SUK/90-100	大きな針穴	メタリック糸に。
	コルドネット針 130/705 H-N/80-100	小さなボールポイント針で、針穴が長い	太い糸を使ってのトップステッチに。
	ウィング針（ヘムステッチ針） 130/705 HO/100-120	幅の広い針（羽付き針）	ヘムステッチに。
	ダブルウィング針 130/705 H-ZWI-HO/100		ヘムステッチ刺しゅうの特殊効果に。
	二本針 130/705 H-ZWI/70-100	針の幅： 1.0/1.6/2.0/ 2.5/3.0/4.0	ストレッチ素材の裾やピンタック、飾り縫いに。
	三本針 130/705 H-DRI/80	針の幅：3.0	ストレッチ素材の裾や飾り縫いに。

糸の選択

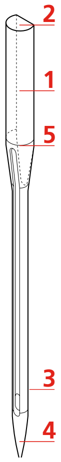
仕上がりをよりよくするためには、針、糸および布地の質が重要です。

よりよい作品を作っていただくために、高品質な糸を使用されることをお勧めします。

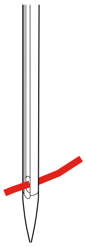
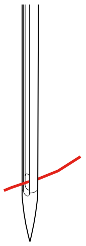
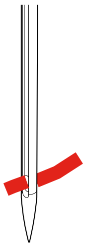
- コットン糸（木綿糸）は天然繊維を使用した糸で、綿素材の布地を縫う際に最適です。
- シルケット加工されているコットン糸は、軽く光沢があり、洗濯をしても変わりません。
- ポリエスエテル糸は耐久性が高く、特に色あせない性質を持っています。
- ポリエステル糸はコットン糸より伸縮性があり、強度や伸縮性が必要な作品に適しています。
- レーヨン／ビスコーゼ糸は天然繊維を使った、非常に光沢のある糸です。
- レーヨン／ビスコーゼ糸は飾り縫いに適していて、美しい仕上がりを得られます。

針の種類

家庭用ミシンで使われる130/705システムの針について、以下のジャージー／ストレッチ針の図を例に挙げて説明します。

	130/705 H-S/70 130 = 針の柄の長さ(1) 705 = 針の柄がフラットになっている(2) H = 糸穴(3) S = 針先の形状（この例では中程度のボールポイント）(4) 70 = 針の番手（柄の太さ）(5)

針と糸の組み合わせ

	糸が針の前面の溝と糸穴を滑らかに通るようであれば、針と糸の組み合わせが正 しく、きれいな縫い目ができます。
	糸が細すぎると、溝と糸穴の中で糸が不安定になり、糸が切れたり、縫い目が乱れたりします。
	糸が太すぎると、糸が溝の端とすれたり、糸穴を滑らかに通らないので、糸が切れたり、絡んだりします。

2　ソーイングの準備

2.1　アクセサリーボックス

アクセサリーボックスを立てる

> アクセサリーボックスの後ろにある2つのついたてを完全に引き出します。

アクセサリーを保管する

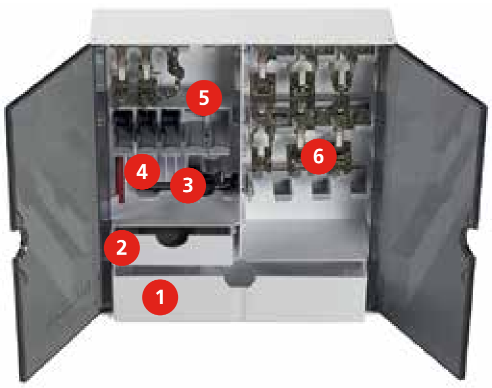
注意

ボビンを間違って保管すると

ボビンの銀色のセンサー部分が傷つくおそれがあります。

> ボビンをアクセサリーボックスに入れる際、銀色のセンサー部分が右側にくるようにします。

> 小さなパーツは引き出し(1)および(2)に保管します。
> 布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aは、(3)に入れます。
> 付属の針セットは、(4)に保管します。
> ボビンは、銀色のセンサー部分が右側にくるように(5)に入れます。
> ボビンを取り出すときはボビン入れの手前部分を下に押します。
> 押え金は(6)に保管します。



2.2　接続と電源

フットコントローラーを接続する

> フットコントローラーのコードを使用する長さに引き出します。

> フットコントローラーのコードを接続部(1)に差し込みます。

ミシンを電源に接続する

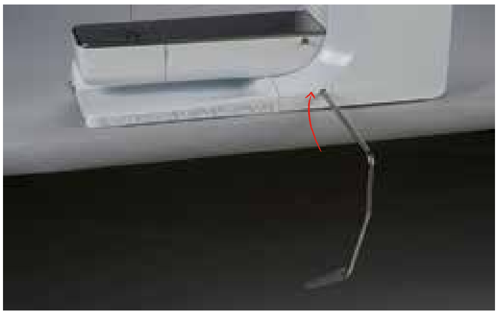
> 電源コードをソケット(1)に差し込みます。

> 電源コードをコンセントに差し込みます。

押え上げレバーを取り付ける

押え上げレバーの角度は、使いやすさに合わせて、ベルニナミシン専門店で調節することができ ます。

> 押え上げレバーをミシン前面の取り付け穴に差し込みます。



タッチペンを取り付ける

> タッチペンをマグネット式ホルダー(1)に取り付けます。

ミシンの電源を入れる

> 主電源(1)をIに入れます。

2.3　フットコントローラー

ソーイングスピードのコントロール

フットコントローラーでソーイングスピードを自由にコントロールすることができます。

> フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ミシンを動かします。
> フットコントローラーをさらに踏み込んでいくと、ソーイングスピードが早くなります。

> フットコントローラーを踏むのをやめると、ミシンは停止します。

針を上げる／下げる

> フットコントローラーのかかとの部分を押すと、針の上げ下げができます。

2.4　糸立て棒

糸立て棒を立てる

メタリック糸やその他の特殊な糸には、折りたたみ式糸立て棒と、メタリック糸／絹糸ストッパー（オプション）の使用をお勧めします。

折りたたみ式糸立て棒は、二本針でのソーイングの際や、ソーイングの途中に下糸を巻く際に使用します。

> 糸立て棒を上まで完全に上げます。

糸こまクッションを取り付ける

糸こまクッションは、糸が糸立て棒に絡まるのを防ぎます。

> 糸こまクッションを、折りたたみ式糸立て棒に取り付けます。

糸こま押えを取り付ける

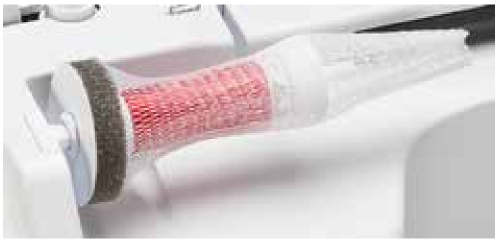
糸こま押えを使用すると、糸こまから均等な糸送りができます。

> 糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
> 糸こまを糸立て棒に取り付けます。
> 糸こま押えと糸こまの間に隙間が開かないように、ぴったり合った糸こま押えを取り付けます。

糸こまネットを使用する

糸こまネットは、糸がよれたり切れたりするのを防止します。

> 糸こまを糸立て棒に取り付けます。
> 糸こまネットを糸こまの上にかぶせます。



2.5　フリーアーム

送り歯の設定

注意

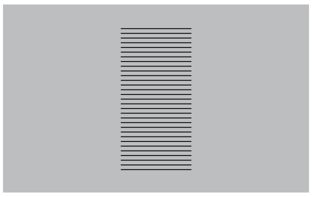
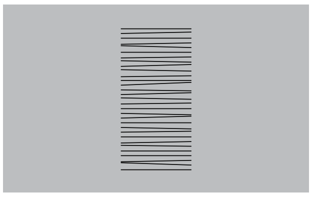
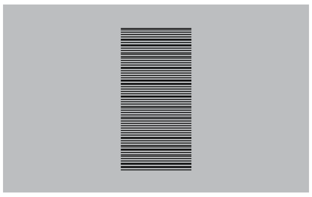
ソーイング中の布地の操作にご注意ください

間違った布地の操作は、針と針板を傷つけるおそれがあります。

> 布送りは均一に行ってください。

針が一目動くたびに、送り歯も動きます。送り長さは設定で変更することができます。

例えば、ボタンホールやサテンステッチを縫う際などに、送り長さを短くすると、布送りの動きは小さくなります。この場合、ソーイングスピードが最速であっても、布送り自体はゆっくりになります。

	布送りを均一にすることで、きれいなステッチを縫うことができます。
	布地を後方にひっぱったり押し込んだりすると、ステッチが荒く乱れてしまいます。
	布地を手前に引っ張ったり押さえたりすると、ステッチの目がつまり、乱れてしまいま す。

> «送り歯 上／下»ボタン(1)を押すと、送り歯が下がります。

> ボタンをもう一度押すと、送り歯が上がります。

ソーイングテーブルを取り付ける

> 針を上げます。
> 押え金を上げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

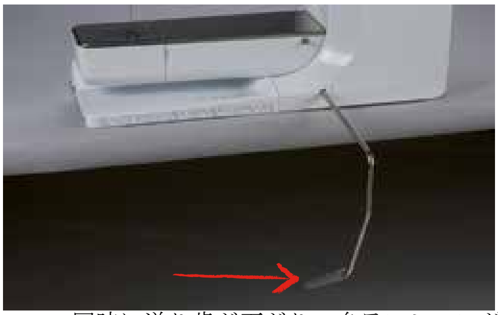
> ソーイングテーブルがカチッとはまるまで右にスライドさせます。

> ボタンを押してソーイングテーブルを左にスライドさせると、ソーイングテーブルが外れます。

2.6 押え金

押え上げレバーで押え金の位置を変える

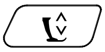
> 押え上げレバーをひざで操作できるように、いすの高さなどを調節してください。
> 押え上げレバーを右に押すと、押え金が上がります。



- 同時に送り歯が下がり、糸テンションが緩みます。

> 押え上げレバーからゆっくりとひざを離すと、押え金が下がります。

押え金 上／下ボタンで押え金の位置を変える



> «押え金 上／下»ボタンを押すと、押え金が上がります。
> もう一度«押え金 上／下»ボタンを押すと、押え金が下がります。

押え金を交換する

> 針を上に上げます。
> 押え金を上に上げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 取り付けレバーを上に上げます。

> 押え金を取り外します。

> 取り付けたい押え金を下から差し込みます。
> 取り付けレバーを下に下げます。

押え金表示

押え金を交換すると、その押え金が選択したステッチパターンに合っているかどうかが確認され、そのステッチパターンに合ったお勧めの押え金が表示されます。

> ミシンの電源を入れます。
> ステッチパターンを選択します。
> «押え金表示»アイコンをタッチします。
> タッチペンまたは指で押え金が表示されている範囲を上にスライドすると、その他の押え金が表示されます。

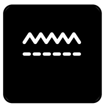
- 取り付けられている押え金が使用可能な場合は、ソーイングを始めることができます。

押え圧を調節する

厚地を縫う際は、押え圧を弱くすると押え金がわずかに上がり、布地を動かしやすくなります。

> «押え圧»アイコンをタッチします。
> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、押え圧を設定します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

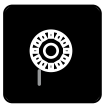
2.7　送り歯を調節する



> «送り歯　上／下»アイコンをタッチすると、表示された図に応じて、送り歯が上下します。

2.8　下糸残量をチェックする

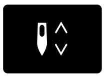
下糸の残量が表示されます。



> «下糸残量表示»アイコンをタッチします。
> 下糸を図に従ってかけます。

2.9　針と針板

針位置 上／下を設定する



> «針 上／下»アイコンをタッチすると、針が下に下がります。
> «針 上／下»アイコンをもう一度タッチすると、針が上に上がります。

針基線 左／右を設定する

全部で11の針基線があります。針基線はディスプレイに番号で表示されます。

> «針 左»ボタン(1)を押すと、針基線は左に移動します。
> «針 右»ボタン(2)を押すと、針基線は右に移動します。

針停止 上／下（常時）を設定する

> «針停止 上／下（常時）»アイコンをタッチすると、常に針が停止する位置を設定することができます。
- フットコントローラーから足を離すか、«スタート／ストップ»ボタンを押してミシンを停止させると、針の位置は下になります。

> «針停止 上／下（常時）»アイコンをもう一度タッチします。
- フットコントローラーから足を離すか、«スタート／ストップ»ボタンを押してミシンを停止させると、針の位置は上になります。

針を交換する

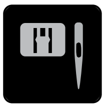
> 針を上に上げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 押え金を外します。

> 針止めネジを灰色の特殊ドライバーで緩めます。

> 針を下に引っ張ります。
> 新しい針を平らな面を後ろ側にして持ちます。
> 針を上までしっかりと差し込みます。
> 針止めネジを灰色の特殊ドライバーで締めます。

針を選択する

針を交換すると、その針が選択した針板に適しているかどうかを確認します。

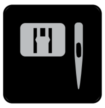


> «針板／針選択»アイコンをタッチします。

> 取り付けた針を選択します。

針のタイプと番手を選択する

便利なメモリー機能：針のタイプと針の番手を、ミシンに保存することができます。保存した針のタイプと番手はいつでも確認することができます。



> «針板／針選択»アイコンをタッチします。

> «針のタイプ／針の番手»アイコンをタッチします。
> 現在取り付けられている針のタイプ(1)を選択します。

> 現在取り付けられている針の番手(2)を選択します。

針板を交換する

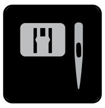
針板は縦、横および斜めのガイド用マーキングがミリメートル（mm）およびインチ（inch）で表示されています。これらのマーキングは布ガイドとして、また正確なトップステッチをするのに便利です。

> 送り歯を下げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 針を取り外します。
> 押え金を外します。
> 針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。

> 針板を取り外します。
> 針板の穴をそれぞれの突起部分に合わせ、しっかりはまるまで下に押します。

針板を選択する

針板を交換すると、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認します。



> «針板／針選択»アイコンをタッチします。
> 現在取り付けられている針板を選択します。

- 選択した針板が取り付けられている針に適している場合、ソーイングを始めることができます。
- 選択した針板が取り付けられている針に適していない場合には、自動的にミシンが動かないようになります。

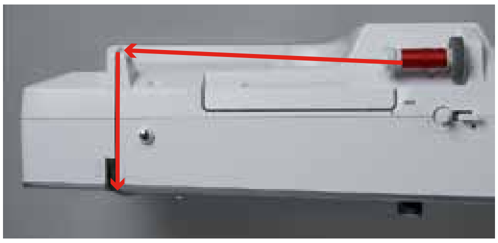
2. 10 糸をかける

糸かけの準備をする

> 針を上に上げます。
> 押え金を上げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

上糸をかける

> 糸こまクッションを糸立て棒にセットします。
> 糸が時計回りに出てくるように、糸こまを糸立て棒にセットします。
> 適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
> 糸を矢印の方向に引き出し、ミシン後部の糸ガイドに通します。その際糸がピンと張るように、手でしっかりと押さえます。
> 糸を糸ガイドから矢印の方向に引き、テンションディスクにかけます。



> 糸を天秤保護カバー(2)に沿って、矢印(1)の方向に通します。
> 糸を矢印(3)のように上方向に通し、天秤にかけます。

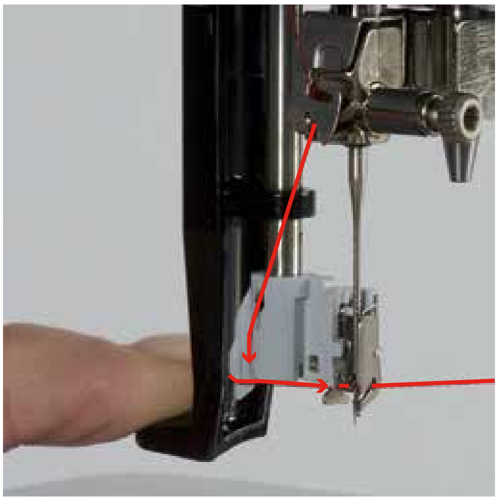
> 糸を再び矢印(4)のように下方向へ引っ張ります。

> 糸を押え金上部の糸ガイドに通します。

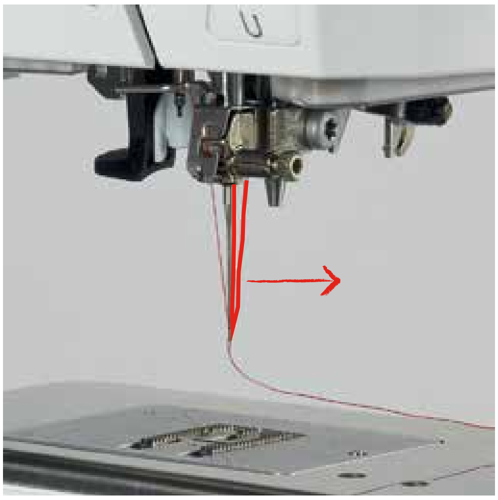
> ミシンの電源を入れます。

> レバーを下に押し下げたまま、糸を左に引っ張ります。

> 糸を灰色のフックの左から右へ引っかけます。
> 糸を前方から糸ガイドへ通し、針金フックにひっかけます。



> レバーと糸から同時に手を離すと、針に糸が通ります。
> 糸の輪になっている部分を後方へ引っ張ります。



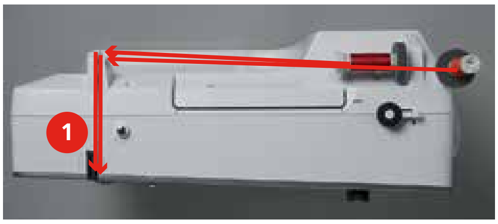
> 糸を押え金の下に通し、そこから矢印のように糸切りへ引っ張り、糸切りの後ろから前へと糸を引っ掛け、糸を切ります。

二本針に糸を通す

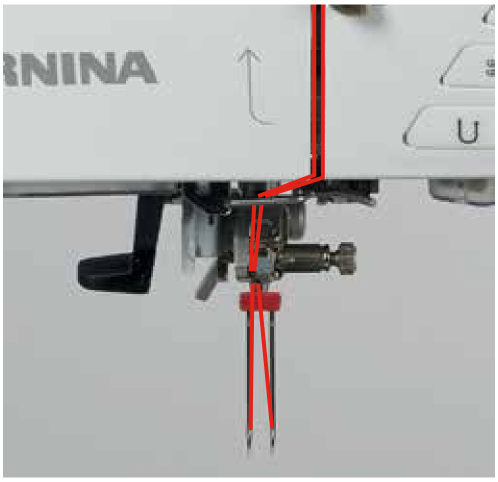
前提条件：

- 二本針を取り付けます。

> 一本目の糸を、矢印のようにテンションディスク (1) の右側にかけます。
> 二本目の糸を、矢印のようにテンションディスク (1) の左側にかけます。



> 一本目と二本目の糸を針の上の糸ガイドまで通します。 （参照ページ：39）
> 一本目の糸を右の針に通します。
> 二本目の糸を左の針に通します。



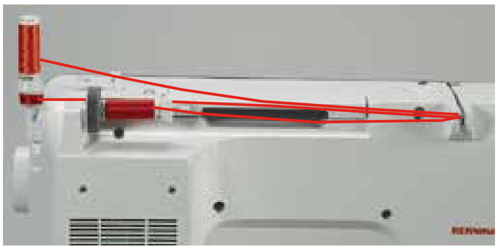
三本針に糸を通す

折りたたみ式糸立て棒を使用する際には常に糸こまクッションを取り付けます。糸こまクッションは糸が糸立て棒に絡まるのを防ぎます。

前提条件：

- 三本針を取り付けます。

> 糸立て棒に糸こまクッション、糸こまおよび適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
> 糸を巻いたボビンを、折りたたみ式糸立て棒に取り付けます。
> 適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
> 糸こまを取り付けます。
> 三本の糸を一緒に上部の糸ガイドまで通します。



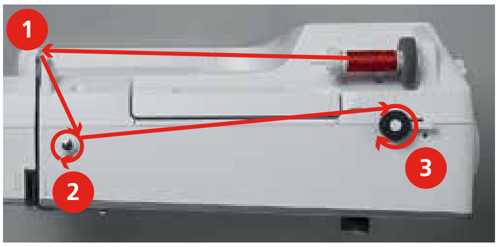
> 二本の糸をテンションディスクの左側に通し、針の上の糸ガイドまで通します。 (参照ページ：39)
> 残りの一本をテンションディスクの右側に通し、針の上の糸ガイドまで通します。 (参照ページ：39)
> 一本目の糸を左の針に通します。
> 二本目の糸を真ん中の針に通します。
> 三本目の糸を右の針に通します。 (参照ページ：42)

下糸を巻く

折りたたみ式糸立て棒を使用すれば、ソーイング中でも下糸を巻くことができます。

> 糸こまクッションを糸立て棒に取り付けます。
> 糸こまを糸立て棒に取り付けます。
> 糸立て棒に適当なサイズの糸こま押えを取り付けます。
> 空のボビンを銀色のセンサー部分が下に来るように、下糸巻き装置(1)に取り付けます。

> 糸を矢印のように、後方の糸ガイドに通します(1)。
> 糸をテンション付き糸ガイドに、時計回りに巻きつけます(2)。
> 糸を空のボビンに時計回りに２、３周巻きます(3)。



> 残りの糸を糸巻きスイッチにある糸切りで切ります。

> 糸巻きスイッチをボビンの方向に押します。

- ミシンが下糸を巻き、ディスプレイにボビンが表示されます。

> ディスプレイ上のスライダーを、タッチペンまたは指でスライドさせると、糸巻きのスピードを設定することができます。
> 糸巻きスイッチを右に押すと、糸巻きがストップします。
> 糸巻きスイッチをもう一度ボビンの方向に押すと、再び糸巻きがスタートします。
- ボビンがいっぱいになると、ミシンは自動的に糸巻きを終了します。

> ボビンを取り外して、糸を糸巻きスイッチの糸切りで切ります。

下糸をかける

> 針を上に上げます。
> ミシンの電源を切ります。
> 釜カバーを開けます。
> ボビンケースの取り出しレバー(1)を押します。

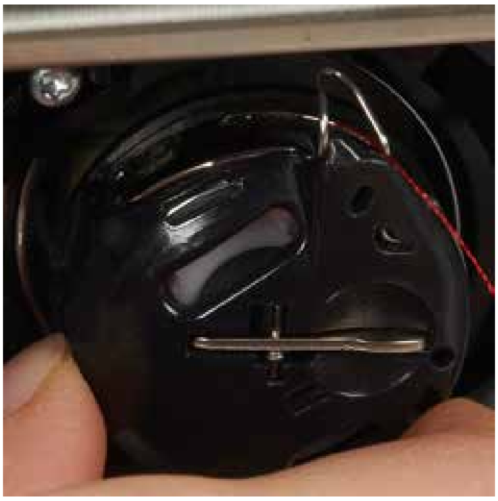
> ボビンケースを取り出します。
> ボビンケースからボビンを外します。

> 新しいボビンを、銀色のセンサー部分を奥側にして取り付けます。

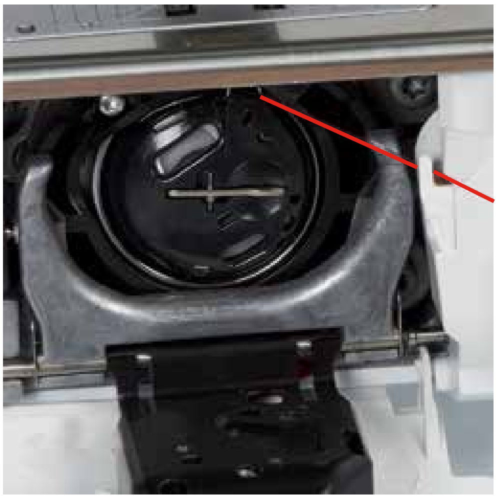
> 糸を左から溝に通します。

> 糸を糸調子バネ（1）の下に通して右に引き、さらに糸ガイドに通して上に引きます。

> ボビンケースを、糸ガイドが上にくるようにして持ちます。



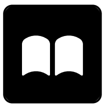
> ボビンケースを取り付けます。
> ボビンケースの中央を押して、しっかりとはめ込みます。
> 余分な糸を糸切りで切ります。



> 釜カバーを閉じます。

2.11 チュートリアルを開く

チュートリアルでは、ソーイングや刺しゅう、および様々なステッチに関する情報や説明を見ることができます。



> «チュートリアル»アイコンをタッチします。
> ご覧になりたいテーマを選択します。

2.12 ヘルプを開く

> ヘルプが必要な場合には、ディスプレイにヘルプを表示させます。
> «ヘルプ»アイコンを押して、ヘルプモードを開きます。
> ディスプレイ上で、必要なヘルプ情報のアイコンを押します。
- ヘルプ情報が表示されます。

2.13 ソーイングアドバイザーを開く

ソーイングアドバイザーは作品製作のお手伝いをします。使用する生地や作りたい作品を入力すると、お勧めの針や押え金などが表示されます。

> «ソーイングアドバイザー»アイコンをタッチします。
> 使用する布地を選択します。
> 作りたい作品を選択します。

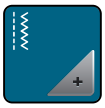
3　セットアッププログラム

3.1　ソーイング機能の設定

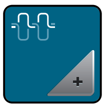
上糸調子を設定する

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、全てのステッチパターンに有効になります。それぞれのステッチパターンに合わせた上糸調子を設定することも可能です。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



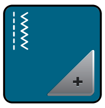
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



> «上糸調子を変更する»アイコンをタッチします。
> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、上糸調子を変更します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

ソーイングスピードの最高速度を設定する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



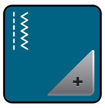
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。

> «ソーイングスピードの最高速度の変更»アイコンをタッチします。
> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、ソーイングスピードの最高速度を変更します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

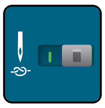
留め縫いを設定する

この機能がオンになっていると、パターンの始めに自動的に糸切りをした後、4針の留め縫いがされます。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



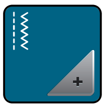
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。



> スイッチをタッチペンまたは指でタッチすると、留め縫い機能がオフになります。
> スイッチをもう一度タッチすると、留め縫い機能がオンになります。

押え金の高さを設定する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



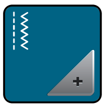
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。

> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。

> «押え金の高さ（中央）をプログラムする»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回すか、«−»および«+»アイコンを押して、布地と押え金の距離を設定します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

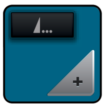
《模様終わり》ボタンをプログラムする

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



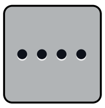
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。

> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。

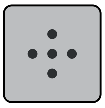


> «模様終わりボタンをプログラムする»アイコンをタッチします。

> «留め縫い»アイコンをタッチして、同位置で留め縫いを4針縫うように設定します。



> «留め縫いの針数を変更する»アイコンをタッチして、糸切りの後の留め縫いの針数を設定します。
> «−»および«+»をタッチして、模様終わりの留め縫いの針数を設定します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。



> «同位置で留め縫いをする»アイコンをタッチして、同位置で留め縫いを4針縫うように設定します。

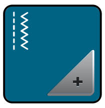
> «糸切り»アイコンをタッチすると、留め縫い後の自動糸切り機能がオフになります。
> «糸切り»アイコンをもう一度タッチすると、留め縫い後の自動糸切り機能がオンになります。

> «押え金の位置を決める»アイコンをタッチすると、押え金は留め縫いの後下りたままになります。
> «押え金の位置を決める»アイコンをもう一度タッチすると、押え金は留め縫いの後上がります。

> «留め縫い»アイコンをタッチすると、自動留め縫い機能がオフになります。
> «留め縫い»アイコンをもう一度タッチすると、自動留め縫い機能がオンになります。

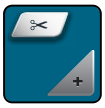
《糸切り》ボタンをプログラムする

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



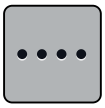
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。

> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。

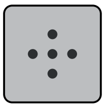


> «糸切りボタンをプログラムする»アイコンをタッチします。

> «留め縫い»アイコンをタッチして、同位置で留め縫いを4針縫うように設定します。



> «留め縫いの針数を変更する»アイコンをタッチして、糸切りの後の留め縫いの針数を設定します。
> «−»および«+»アイコンをタッチして、留め縫いの針数を設定します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。



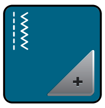
> «同位置で留め縫いをする»アイコンをタッチして、同位置で4針の留め縫いをするように設定します。

> «留め縫い»アイコンをタッチすると、自動留め縫い機能がオフになります。
> «留め縫い»アイコンをもう一度タッチすると、自動留め縫い機能がオンになります。

針停止が下の際の押え金の位置を設定する

針が下がっている場合には、押え金の位置を3段階：下、中央および上の3つから選択することができます。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。

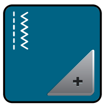
> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。

> «針停止が下の際の押え金の位置を設定する»アイコンをタッチします。

> 押え金の位置を選択します。

《返し縫い》ボタンをプログラムする

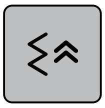
> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



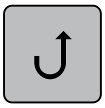
> «ソーイング機能の設定»アイコンをタッチします。

> «ボタンとアイコンをプログラムする»アイコンをタッチします。

> «返し縫いボタンをプログラムする»アイコンをタッチします。



> «バックステップ縫い»アイコンをタッチして、バックステップ縫いを設定します。



> «連続返し縫い»アイコンをタッチして、連続返し縫いの設定をします

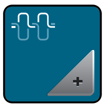
3.2　刺しゅう機能の設定

上糸調子を設定する

セットアッププログラムで変更した上糸調子は、全ての刺しゅうモチーフに有効になります。それぞれのモチーフに合わせた上糸調子を設定することも可能です。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



> «上糸調子を変更する»アイコンをタッチします。
> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、上糸調子を変更します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

刺しゅうスピードの最高速度を設定する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。

> «刺しゅうスピードの最高速度を設定する»アイコンをタッチします。
> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、刺しゅうスピードの最高速度を変更します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

刺しゅう枠の調整

前提条件：

・ 刺しゅう機を接続して、刺しゅう枠に必要なテンプレートを取り付けます。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう枠の調整»アイコンをタッチします。
> 使用する刺しゅう枠を選択して、ディスプレイの指示に従ってください。

> ディスプレイ上の矢印を使って針を中央に設置します。

布地の厚さを設定する

ミシンの電源を切ると、変更した設定は基本設定の４mmに戻ります。タオル地などの4mm以上の厚さの布地の場合には、7.5mmまたは10mmに設定することをお勧めします。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

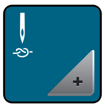
> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。

> «布地の厚さを設定する»アイコンをタッチします。
> 布地の厚さを設定します。

留め縫い機能をオフにする

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



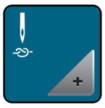
> «留め縫い機能　オン／オフ»アイコンをタッチします。
> 右上のスイッチをタッチすると、留め縫い機能がオフになります。
- 留め縫い機能をオフにすると、留め縫いは自動的にされないので、刺しゅうの始めに下糸を手で出し、押さえる必要があります。

> スイッチをもう一度タッチすると、留め縫い機能がオンになります。

糸取り機能をオフにする

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。



> «留め縫い機能 オン／オフ»アイコンをタッチします。
> 右下のスイッチをタッチすると、糸取り機能がオフになります。
> スイッチをもう一度タッチすると、糸取り機能がオンになります。

自動糸切り機能を設定する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう機能の設定»アイコンをタッチします。

> «糸切り機能の設定»アイコンをタッチします。

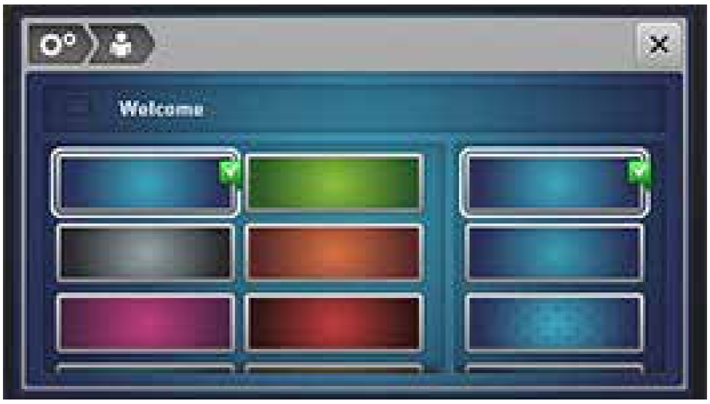
> ディスプレイの上側にあるスイッチ(1)をタッチすると、糸交換後の自動糸切り機能がオフになります。
> ディスプレイの上側にあるスイッチ(1)をもう一度タッチすると、糸交換後の自動糸切り機能がオンになります。
> ディスプレイの下側にあるスイッチ(2)をタッチすると、刺しゅう開始後の自動糸切り機能がオフになります。
> ディスプレイの下側にあるスイッチ(2)をもう一度タッチすると、刺しゅう開始後の自動糸切り機能がオンになります。

3.3　パーソナル画面を設定する

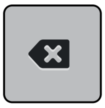
> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «パーソナル画面»アイコンをタッチします。
> お好みのディスプレイの色および背景を選択します。

> 色設定の上にあるテキストアイコンをタッチします。



> ウェルカムメッセージを入力します。
> «ABC»アイコンをタッチすると（標準設定)、大文字の入力ができます。
> «abc»アイコンをタッチすると、小文字の入力ができます。
> «123»アイコンをタッチすると、数字および算術記号の入力ができます。
> «@&!»アイコンをタッチすると、特殊文字の入力ができます。
> キーボードの上のテキストアイコンをタッチすると、入力したメッセージが全削除されます。
> 一文字ずつ削除するには«DEL»アイコンをタッチします。



> «決定»アイコンをタッチします。

3.4 センサー機能

上糸センサーを設定する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «センサー機能の設定»アイコンをタッチします。

> ディスプレイの上側にあるスイッチをタッチすると上糸センサーがオフになります。
> スイッチをもう一度タッチすると、上糸センサーがオンになります。

下糸センサーを設定する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

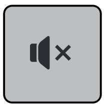
> «センサー機能の設定»アイコンをタッチします。

> ディスプレイの下側にあるスイッチをタッチすると下糸センサーがオフになります。
> スイッチをもう一度タッチすると、下糸センサーがオンになります。

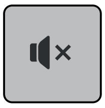
3.5 操作音の設定をする

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

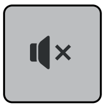
> «操作音の設定»アイコンをタッチします。
> スイッチ(1)をタッチすると、全ての操作音がオフになります。
> スイッチ(1)をもう一度タッチすると、全ての操作音がオンになります。
> (2)の枠内の«1-4»のアイコンをタッチして、ステッチパターン選択の際の操作音を設定することができます。



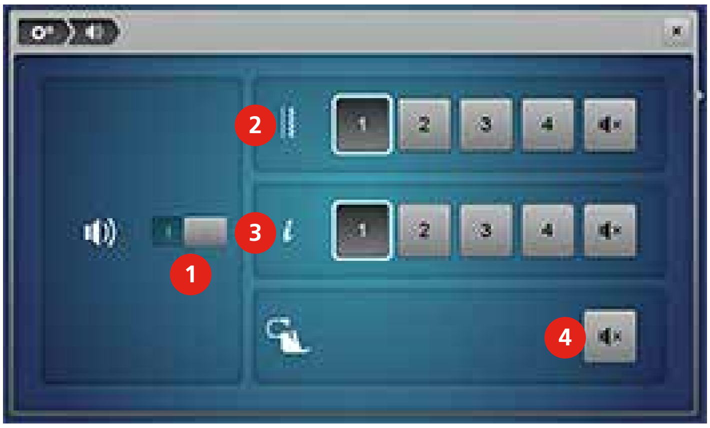
> (2)の枠内の«スピーカー»アイコンをタッチすると、ステッチパターン選択の際の操作音がオフになります。
> (2)の枠内の«スピーカー»アイコンをもう一度タッチすると、ステッチパターン選択の際の操作音がオンになります。
> (3)の枠内の«1-4»アイコンをタッチすると、機能選択の際の操作音を設定することができます。



> (3)の枠内の«スピーカー»アイコンをタッチすると、機能選択の際の操作音がオフになります。
> (3)の枠内の«スピーカー»アイコンをもう一度タッチすると、機能選択の際の操作音がオンになります。



> (4)の枠内の«スピーカー»アイコンをタッチすると、BSRモード使用の際の操作音がオフになります。
> (4)の枠内の«スピーカー»アイコンをもう一度タッチすると、BSRモード使用の際の操作音がオンになります。



3.6 ミシンの設定

言語の設定

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «言語選択»アイコンをタッチします。
> 言語を選択します。

ディスプレイの明るさを設定する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

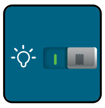
> «ディスプレイの設定»アイコンをタッチします。
> ディスプレイの上側のスライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、ディスプレイの明るさを変更します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

ソーイングライトの設定

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «ディスプレイの設定»アイコンをタッチします。
> ディスプレイの下側のスライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、ソーイングライトの明るさを変更します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

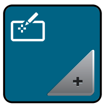


> スイッチをタッチすると、ソーイングライトがオフになります。
> スイッチをもう一度タッチすると、ソーイングライトがオンになります。

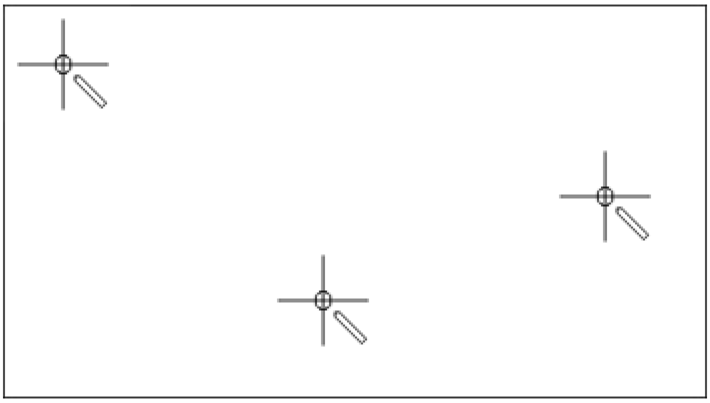
ディスプレイの調整

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

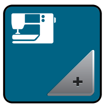


> «ディスプレイの調整»アイコンをタッチします。
> 十字をひとつずつタッチペンでタッチします。



標準設定に戻す

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定ソーイング»アイコンをタッチします。

> «標準設定»アイコンをタッチします。

> «ソーイングの標準設定»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンをタッチすると、ソーイングの設定が標準設定に戻ります。

> «刺しゅうの標準設定»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンをタッチると、刺しゅうの設定が標準設定に戻ります。

> «全ての標準設定»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンをタッチすると、全ての設定が標準設定に戻ります。

ユーザーデータを消去する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «標準設定»アイコンをタッチします。

> «ユーザーメモリーからデータを消去する»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンをタッチすると、ユーザーメモリーのデータが全て消去されます。

> «刺しゅうデザインを消去する»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンをタッチすると、ユーザーメモリーの刺しゅうデザインがすべて消去されます。

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）のデータを消去する

ベルニナUSBメモリーに保存したデータが必要なくなった場合には、USBメモリーをミシンに接続して消去することができます。

> ベルニナUSBメモリーを、接続部(1)に差し込みます。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «標準設定»アイコンをタッチします。

> «USBメモリーのデータを消去する»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンをタッチすると、ベルニナUSBメモリーに保存された全てのデータが消去されます。

布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを調整する

布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aは調整をしたミシンでのみ使用できます。

前提条件：

- 布ガイド付き自動ボタンホール押えを取り付けます。
- 針には糸を通さないでおきます。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «メンテナンス／アップデート»アイコンをタッチします。

> «布ガイド付き自動ボタンホール押え3A»アイコンをタッチします。

> «スタート／ストップ»ボタンを押して、調整を始めます。

ソフトウェアを更新する

注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）を取り外すのが早すぎると

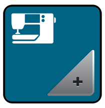
ソフトウェアが正しく更新されず、ミシンを使用できません。

> ベルニナUSBメモリーは、更新が完全に終了してから取り外してください。

最新のソフトウェアおよびソフトウェアの更新の詳しい説明書は、ホームページwww.bernina.comでダウンロードすることができます。基本的にアップデートの際、ユーザーデータや設定は自動的に引き継がれますが、バックアップとしてデータや設定をベルニナUSBメモリーに保存しておくことをお勧めします。万が一ユーザーデータや設定がソフトウェアのアップデートの際に失われてしまった場合に、復元させることができます。

> 新しいバージョンのソフトウェアを保存したFAT32形式でフォーマットされたUSBメモリー(オプションアクセサリー) を接続部(1)に差し込みます。

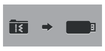
> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «メンテナンス／アップデート»アイコンをタッチします。

> «ミシンのアップデート»アイコンをタッチします。



> «データをUSBメモリーに保存する»アイコンをタッチします。

Update

> «アップデート»アイコンをタッチして、ソフトウェアの更新を始めます。

保存したデータを復元する

注意

ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）を取り外すのが早すぎると

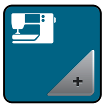
保存したデータがが正しく読み込まれず、ミシンを使用できません。

> ベルニナUSBメモリーは、保存したデータの読み込みが完全に終了してから取り外してください。

ユーザーデータや設定がソフトウェアのアップデートの際に失われてしまった場合に、再び復元させることができます。

> データと設定を保存したベルニナUSBメモリーを、接続部(1)に差し込みます。

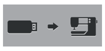
> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «メンテナンス／アップデート»アイコンをタッチします。

> «ミシンのアップデート»アイコンをタッチします。

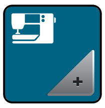


> «保存したデータをミシンに取り込む»アイコンをタッチします。

ミシンのクリーニングをする

セットアッププログラムでは、ミシンのクリーニング方法をアニメーションで見ることができます。チャプター«お手入れとクリーニング»では、ワンステップずつ図に表した説明も見ることができます。(参照ページ：140)

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

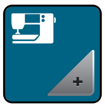
> «メンテナンス／アップデート»アイコンをタッチします。

> «ミシンをクリーニングする»アイコンをタッチします。
> ディスプレイ表示に従って、ミシンをクリーニングします。

ミシンに注油をする

セットアッププログラムでは、ミシンの注油方法をアニメーションで見ることができます。チャプター«お手入れとクリーニング»では、ワンステップずつ図に表した説明も見ることができます。 (参照ページ：140)注油には必ずベルニナのオイルを使用してください。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «メンテナンス／アップデート»アイコンをタッチします。

> «ミシンに注油をする»アイコンをタッチします。
> ディスプレイ表示に従って、ミシンに注油をします。

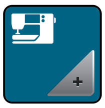
刺しゅう機を収納する

刺しゅう機を元のパッケージに収納する際には、刺しゅうアームは手で動かさずに、プログラムから収納位置に動かします。

前提条件：

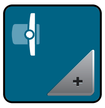
・ 刺しゅう機がミシンに接続されています。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «メンテナンス／アップデート»アイコンをタッチします。



> «刺しゅう機を収納位置へ動かす»アイコンをタッチします。
> ディスプレイの指示に従って操作します。

ソフトウェアのバージョンを確認する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

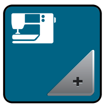
> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «インフォメーション»アイコンをタッチします。

> «バージョン»アイコンをタッチします。

総ステッチ数を確認する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。



> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «インフォメーション»アイコンをタッチします。

> «バージョン»アイコンをタッチします。

代理店情報を登録する

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «インフォメーション»アイコンをタッチします。

> «代理店情報»アイコンをタッチして、代理店情報を登録します。

> «店舗名»アイコンをタッチして、ベルニナ販売代理店名を登録します。

> «住所»アイコンをタッチして、住所を登録します。

> «電話»アイコンをタッチして、電話番号を登録します。

> «インターネット»アイコンをタッチして、ホームページまたはメールアドレスを登録します。

サービスデータを保存する

ミシンの現在の状態をベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に保存して、ベルニナ販売代理店でのサービス時に提供することができます。

> 十分な空き容量のあるUSBメモリーを、接続部(1)に差し込みます。

> «セットアッププログラム»アイコンをタッチします。

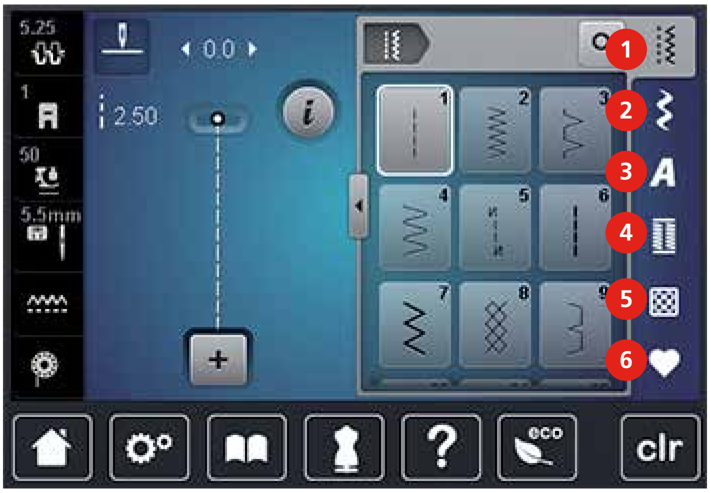
> «ミシンの設定»アイコンをタッチします。

> «インフォメーション»アイコンをタッチします。

> «サービスデータ»アイコンをタッチします。
> «LOG»アイコンをタッチします。
  - 《LOG》アイコンは白い枠で囲まれています。
> 白い枠が消えたのを確認して、USBメモリーを外します。

4　クリエイティブなソーイング

4.1　ソーイング機能について



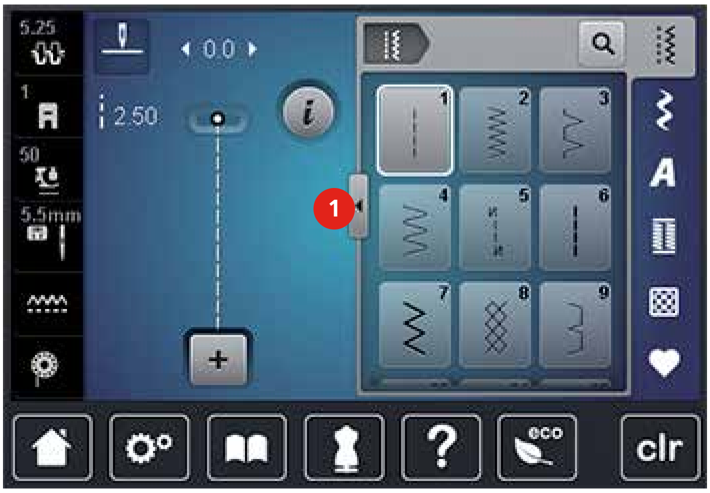
1	実用縫い	4	ボタンホール
2	飾りステッチ	5	キルトステッチ
3	アルファベット	6	ユーザーメモリー

ステッチパターンを選択する

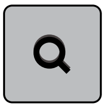
> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。

> タッチペンまたは指で実用縫いステッチが表示されている範囲を上にスライドすると、そのほかのステッチパターンが表示されます。

> «全てのステッチパターンを表示する»アイコン(1)をタッチすると、表示部分が拡大されます。



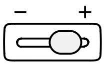
> «全てのステッチパターンを表示する»アイコン(1)をもう一度タッチすると、表示部分が再び縮小されます。



> «ステッチパターンを番号で選択する»アイコンをタッチすると、ステッチ番号を直接入力することでステッチパターンを選択できます。

4.2　ソーイングスピードを調節する

スピードコントローラーで、ソーイングスピードを自由に調節することができます。



> スピードコントローラーを左にスライドさせると、スピードが遅くなります。

> スピードコントローラーを右にスライドさせると、スピードが速くなります。

4.3　ステッチパターンの編集

振り幅を変更する

> «多機能ボタン　上»を左に回すと、振り幅が小さくなります。
> «多機能ボタン　上»を右に回すと、振り幅が大きくなります。
> «振り幅»アイコン(1)をタッチします。

> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

送り長さを変更する

> «多機能ボタン　下»を左に回すと、送り長さが短くなります。
> «多機能ボタン　下»を右に回すと、送り長さが長くなります。
> «送り長さ»アイコン(1)をタッチします。

> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

上糸調子を設定する

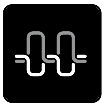
上糸調子の標準設定はステッチパターンおよび刺しゅうモチーフによって自動的に設定されています。

上糸調子はベルニナの製造所で最適な状態に設定されています。上糸および下糸調子の初期設定に使われた糸は、メトロシーン／セラロン100/2（スイス、メトラー社）です。

その他のミシン糸または刺しゅう糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあるので、布地およびステッチパターンに合わせて、上糸調子を調整してください。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更（参照ページ: 51)それぞれ選択したステッチパターンまたは刺しゅうモチーフに有効です。上糸調子を全てのソーイングステッチまたは刺しゅうモチーフに有効にするには、セットアッププログラムから、それぞれのモードの上糸調子を設定する（参照ページ: 48）で変することができます。



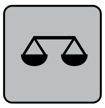
> «上糸調子»アイコンをタッチします。
> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、上糸調子を変更します。

> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

バランスを調整する

ミシンはベルニナの製造所でテストされ、適正に調整されていますが、布地や糸、芯地の種類によっては、バランスの調整が必要な場合があります。バランスを調整することで、布地に合ったきれいなステッチパターンを縫うことができます。

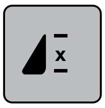
> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «バランス»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 下»を回して、ステッチパターンの縦方向のバランスを調整します。

模様繰り返し機能を設定する

> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «模様繰り返し機能»アイコンを一回タッチすると、ステッチパターンが連続して縫われます。
> «模様繰り返し機能»アイコンをもう一回タッチして、9回までステッチパターンを繰り返して縫うことができます。
> «模様繰り返し機能»を長くタッチすると、模様繰り返し機能がオフになります。

ステッチパターンを反転させる

> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

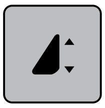
> «模様反転 左／右»アイコンをタッチすると、ステッチパターンが左から右へ反転します。

> «模様反転 上／下»アイコンをタッチすると、ステッチパターンが上から下へ反転します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

ステッチパターンの長さを変更する

ステッチパターンの長さを長くしたり、短くしたりすることができます。

> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

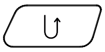


> «ステッチパターンの長さをを変更する»アイコンをタッチします。
> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、ステッチパターンの長さを設定します。
> «+100%»アイコン(1)をタッチすると、パターンの長さを100%単位で長くできます。

> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

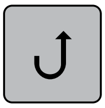
返し縫い

> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
> 針停止位置（常時）を下に設定すると、«返し縫い»ボタンを押した際にすぐ返し縫いができるようになります。
> 針停止位置（常時）を上に設定すると、もう一針縫ってから、返し縫いがされます。
> «返し縫い»ボタンを押したままにします。



続けて返し縫いをする

> ステッチパターンまたはアルファベットを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «連続返し縫い»アイコンをタッチすると、続けて返し縫いをすることができます。

4.4　留め縫い

《模様終わり》ボタンを押して留め縫いをする

《模様終わり》ボタンには色々な機能をプログラムすることができます。

> «模様終わり»ボタンを、縫い始める前または縫っている途中に押します。
  - 留め縫い機能がオンになり、ソーイング中にストップマークが表示され、縫い終わりにコンビネーションの場合は現在縫っているステッチパターンで、プログラムされた針数の留め縫いをします。

《留め縫い》アイコンで留め縫いをする

コンビネーション内の全てのパターンの始めと終わりを留め縫いすることができます。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

> 縫い始める前に«留め縫い»アイコンをタッチします。
  - ステッチパターン／ステッチパターンコンビネーションの最初に、４針の留め縫いがされます。

> ソーイング中に«留め縫い»アイコンをタッチします。
  - ステッチパターンまたはコンビネーションの場合は現在縫っているパターンの終わりに、４針の留め縫いがされます。

4.5　ステッチパターンを編集する

ステッチパターンの設定を保存する

> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを編集します。

> «ステッチパターンの設定を保存する»アイコンをタッチすると、変更が保存されます。

> «標準設定に戻す»アイコンをタッチすると、全ての変更が元に戻ります。

ステッチパターンをユーザーメモリーに保存する

«ユーザーメモリー»ファイルには、お気に入りのステッチパターンや個々に編集したステッチパターンを保存することができます。それぞれのファイルには最大100個のステッチパターンを保存することができます。

> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。

> ステッチパターンを編集します。

> «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。

> «ステッチパターンの保存»アイコンをタッチします。

> ステッチパターンを保存したいファイルを選択します。

> «決定»アイコンをタッチします。

ユーザーメモリー内のステッチパターンを上書きする

前提条件：

・ ユーザーメモリーにステッチパターンが保存されている。

> ステッチパターン、アルファベットまたはボタンホールを選択します。
> ステッチパターンを編集します。
> «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。

> «ステッチパターンの保存»アイコンをタッチします。
> 上書きしたいステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
> 上書きしたいステッチパターンを選択します。
> «決定»アイコンをタッチします。

ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを呼び出す

前提条件：

・ ユーザーメモリーにステッチパターンが保存されている。

> «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。

> «ステッチパターンの選択»アイコンをタッチします。
> ステッチパターンが保存されているファイルを選択します。
> ステッチパターンを選択します。

ユーザーメモリー内にあるステッチパターンを消去する

前提条件：

・ ユーザーメモリーにステッチパターンが保存されている。

> «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。

> «消去»アイコンをタッチします。
> ステッチパターンの保存されているファイルを選択します。
> ステッチパターンを選択します。
> «決定»アイコンをタッチすると、ステッチパターンが消去されます。

全ての変更を消去する

ユーザーメモリーに保存されたステッチパターン以外の、全てのステッチパターンの変更を標準設定に戻すことができます。

> «クリア»アイコンをタッチします。

4.6　コンビネーションモード

コンビネーションモードについて

1　現在選択されているステッチパターンの振り幅

2　現在選択されているステッチパターンの送り長さ

3　コンビネーションモード／シングルモード

4　コンビネーションの中の個々のステッチパターン

ステッチパターンのコンビネーションを作成する

コンビネーションモードでは、ステッチパターンとアルファベットを自由に組み合わせることができます。アルファベットを組み合わせて、BERNINAなどの単語を作成することができます。

> «シングル／コンビネーションモード»アイコンをタッチします。
> 使用したいステッチパターンを選択します。

> «シングル／コンビネーションモード»アイコンをもう一度タッチすると、シングルモードに戻ります。

ステッチパターンのコンビネーションを保存する

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。

> «ステッチパターンの保存»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンまたは黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、ステッチパターンのコンビネーションが保存されます。

ステッチパターンのコンビネーションを呼び出す

> «シングル／コンビネーションモード»アイコンをタッチします。

> «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。

> «ステッチパターンのコンビネーションを選択する»アイコンをタッチします。

> ステッチパターンのコンビネーションを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを上書きする

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。

> «ユーザーメモリー»アイコンをタッチします。

> «ステッチパターンの保存»アイコンをタッチします。

> 上書きしたいステッチパターンのコンビネーションを選択します。

> «決定»アイコンをタッチすると、ステッチパターンのコンビネーションが上書きされます。

ステッチパターンのコンビネーションを消去する

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

> «コンビネーション全体を編集する»アイコンをタッチします。

> «消去»アイコンをタッチします。

> «決定»アイコンをタッチします。

単独のステッチパターンを編集する

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> タッチペンまたは指で、コンビネーションの内の選択したいステッチパターン（1）をタッチします。

> «i»ダイアログアイコンをタッチすると、個々のステッチパターンを編集することができます。

単独のステッチパターンを消去する

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> タッチペンまたは指で、コンビネーションの内の選択したいステッチパターン（1）をタッチします。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

> «消去»アイコンをタッチすると、単独のステッチパターンが消去されます。

単独のステッチパターンを追加する

新しいステッチパターンは常に、選択されたステッチパターンの下に追加されます。

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。

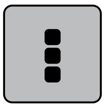
> タッチペンまたは指で、コンビネーションの内の選択したいステッチパターン(1)をタッチします。

> 新しいステッチパターンを選択します。

ステッチパターンのコンビネーションを反転させる

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «コンビネーション全体を編集する»アイコンをタッチします。

> «模様反転 左／右»アイコンをタッチすると、ステッチパターンのコンビネーション全体が左から右に反転します。

> «模様反転»アイコンをもう一度タッチすると標準設定に戻ります。

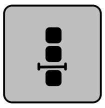
ステッチパターンのコンビネーションを分割する

ステッチパターンのコンビネーションを分割することができます。分割位置はカーソルの下になります。カーソル位置までのコンビネーションをを縫うことができます。次のコンビネーションを縫うには、カーソルの位置を移動させせます。

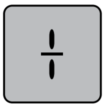
> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。

> タッチペンまたは指で、分割したいコンビネーションの位置をタッチします。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «コンビネーションをカーソル位置で編集する»アイコンをタッチします。



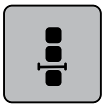
> «コンビネーションを分割する»アイコンをタッチします。

ステッチパターンのコンビネーションを途中で区切る

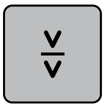
ステッチパターンのコンビネーションは自由な位置で区切ることができます。分割位置はカーソルの下になります。

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> タッチペンまたは指で区切りたいコンビネーションの位置をタッチします。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

> «コンビネーションをカーソル位置で編集する»アイコンをタッチします。



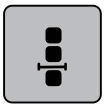
> «コンビネーションを途中で区切る»アイコンをタッチします。
> 区切った部分までが縫われたら、布地を置き換えます。



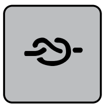
ステッチパターンのコンビネーションを留め縫いする

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> タッチペンまたは指で、留め縫いしたいコンビネーションの位置をタッチします。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

> «コンビネーションをカーソル位置で編集する»アイコンをタッチします。



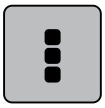
> «留め縫い»アイコンをタッチします。
- コンビネーション内の全てのパターンの始めと終わりを留め縫いすることができます。



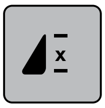
模様繰り返し機能を設定する

> ステッチパターンのコンビネーションを作成します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

> «コンビネーション全体を編集する»アイコンをタッチします。



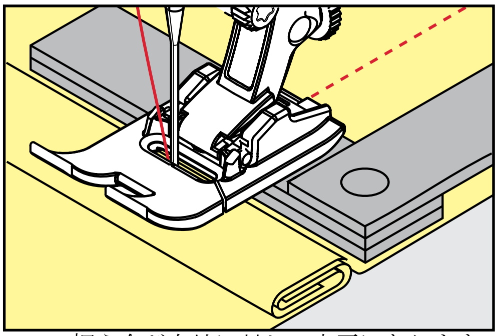
> «模様繰り返し機能»アイコンを一回タッチすると、コンビネーションが繰り返されます。
> «模様繰り返し機能»を複数回タッチすると、模様を９回まで繰り返すことができます。
> «模様繰り返し機能»アイコンを長くタッチすると、模様繰り返し機能がオフになります。



4.7 布地の高さを調節する

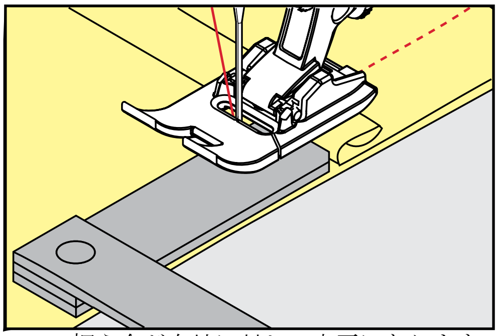
厚みのある部分を縫う際に押え金が斜めになっていると、送り歯がうまく布地を送ることができず、縫い目にばらつきができてしまいます。

> 1 - 3枚ほどの高さ調節板を、後ろから押え金の下の、針の少し手前の位置に入れます。



- 押え金が布地に対して水平になります。

> 1 - 3枚ほどの高さ調節板を、前から押え金の下の、針の少し手前の位置に入れます。



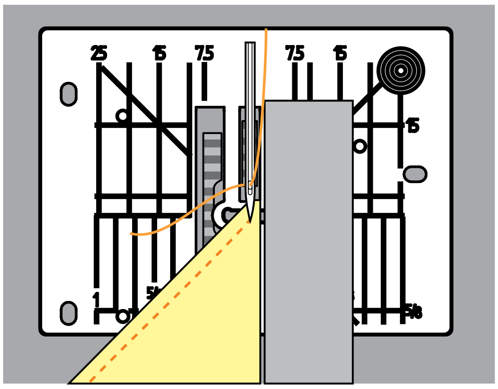
- 押え金が布地に対して水平になります。

> 押え金が厚みのある部分を完全に通りすぎるまで縫います。
> 高さ調節板を外します。

4.8 角を縫う

角を縫う際、送り歯には布地のほんの一部のみしか接触しないので、布送りがしっかりできません。この場合、高さ調節板を使用することで、布送りを均等にすることができます。

> 角まで縫ったら、針位置を下にし、ミシンを一旦ストップします。
> 押え金を上げます。
> 布地を次のソーイング方向に回します。
> 1 - 3枚ほどの高さ調節板を、押え金の右側の針の少し手前の位置に入れます。
> 押え金を下げます。



> 布地が送り歯全体にかかる位置まで、高さ調節板を置いたまま縫います。

4.9　エコモードについて

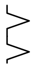
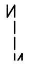
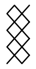
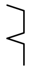
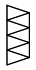
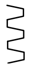
作業を長く中断する場合には、ミシンを節電モードにすることができます。節電モードはチャイルドセーフモードとしても使用できます。節電モードになると、ディスプレイの操作は無効になり、ミシンは動かなくなります。

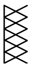
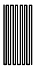
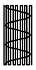
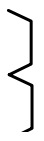
> «エコ»アイコンをタッチします。
- ディスプレイが消えます。節電モードになり、ソーイングライトが消えます。

> «エコ»アイコンをもう一度タッチします。
- ミシンが通常モードに戻ります。

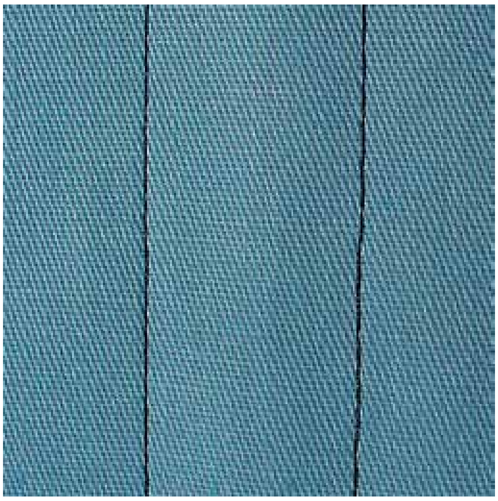
5　実用縫い

5.1　実用縫い一覧

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	説明・用途
	1	直線縫い	縫い合わせ、トップステッチに。
	2	ジグザグ縫い	縫い目の補強や布端のかがり縫い、伸縮性の必要なステッチ、レースの縫い付けに。
	3	バリオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと布端のかがりが同時にできます。
	4	ランニングステッチ	繕い縫いや継ぎはぎ、布端の補強などに。
	5	留め縫いプログラム	直線縫いの縫い始めと終わりの留め縫いに。
	6	トリプル直線縫い	厚地を縫う際の補強縫いやトップステッチ、 飾り縫いに。
	7	トリプルグザグ縫い	厚地を縫う際の補強縫いやトップステッチ、 飾り縫いに。
	8	ネットステッチ	伸縮性のある布地や裾に。下糸にゴムを使用する場合に。
	9	まつり縫い	まつり縫い、ジャージーや薄手の布地のシェルステッチ効果、飾り縫いに。
	10	ダブルオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと布端のかがりが同時にできます。
	11	スーパーストレッチ	伸縮性の強いオープンシーム、全ての服に。
	12	ギャザーステッチ	ほぼ全ての布地に。ゴム糸を使用したシャーリング、突き合わせ縫い、飾り縫いに。
	13	ストレッチオーバーロック	伸縮性のある布地の縫い合わせと布端のかがりが同時にできます。
	14	トリコットステッチ	裾の飾り縫い、下着、セーター、トリコット地の繕い縫いに。
	15	ユニバーサルステッチ	フェルトや皮などの固めの生地に。 平らな継ぎ縫い、裾の飾り縫い、 ゴムの縫い付け、飾り縫いなどに。
	16	二点ジグザグ縫い	布端の仕上げや補強、ゴムの縫い付け、飾り縫いなどに。

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	説明・用途
	17	ライクラステッチ	ライクラ地に。平らな継ぎ縫い、裾の飾り縫い、下着などの補強に。
	18	ストレッチステッチ	伸縮性の高い布地、スポーツウェアなどの縫い合わせに。
	19	補強オーバーロック	中厚地のニット地やタオル地に。オーバーロックや平らな継ぎ縫いに。
	20	ニットオーバーロック	手編みおよび機械編みのニット地の縫い合わせと布端のかがりが同時にできます。
	22	シンプル繕い縫いプログラム	穴や傷のついた薄手の布地の繕い縫いに。
	23	補強繕い縫いプログラム	穴や傷ついた厚手の布地の繕い縫いに。
	24	バータックプログラム	ポケットの開口部の補強、ベルトのループの縫い付けに。
	25	バータックプログラム	ポケットの開口部の補強やベルトのループの縫い付け、ファスナーの縫い付け、縫い終わりの補強などに。
	27	小型フライステッチ	薄地～中厚地のポケットの開口部やファスナー、スリットなどの補強に。
	29	狭いまつり縫い	薄地のまつり縫いに。
	30	しつけ縫い	縫い合わせ、裾などのしつけ縫いに。
	32	一針直線縫い	コンビネーションでのつなぎに。
	33	三針直線縫い	コンビネーションでのつなぎに。

5.2　直線縫い



送り長さを作品と糸に合わせる場合の例：デニム地には長めのステッチ（3-4mm程度）、薄地には短めのステッチ（2-2.5mm程度）送り長さを糸の太さに合わせる場合の例：コルドネットでトップステッチをする場合（3-5mm程度）

直線縫いはトップステッチとも呼ばれ、最もよく使われるステッチです。

前提条件：

- 標準押えNo.1を取り付けます。

> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> - 直線縫いNo.1が自動的に選択されます。

5.3　自動留め縫いプログラムで留め縫いをする

縫い終わりと縫い始めに5針ずつ前進と後進をして、留め縫いをします。

前提条件：

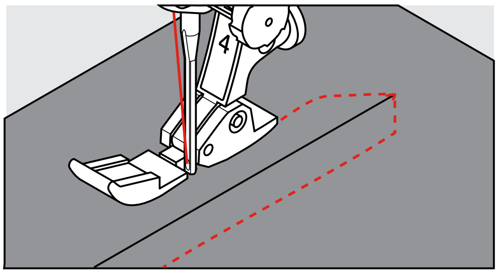
- 標準押えNo.1を取り付けます。

> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> 留め縫いプログラムNo.5を選択します。
> フットコントローラーを踏みます。
> - ミシンが自動的に留め縫いをします。
> 必要な長さを縫います。
> «返し縫い»ボタンを押します。
> - ミシンが自動的に留め縫いをして、停止します。

5.4　ファスナーを縫い付ける

縫い始めの布送りが難しい場合、縫い始めに糸をしっかり押える、布地を何針か縫うまで軽く後ろに引っ張る、または最初に1-2cm後進で縫うなどをお勧めします。

> 標準押えNo. 1を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
  - 直線縫いNo. 1が自動的に選択されます。
> ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
> 留め縫いをします。
> ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
> 縫い代を仕上げます。
> 縫い目にアイロンをかけます。
> ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
> ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
> ファスナーを数センチ開きます。
> ファスナー押えNo. 4を取り付けます。
> 針基線を右にします。
> 押え上げレバーを使用して、押え金を上げ、作品を置きます。
> 左上から縫い始めます。
> 針がファスナーの務歯に沿って刺さるように、押え金の位置を調節します。
> スライダー部分に差し掛かったら、針位置を下にして一度ミシンを止めます。
> 押え金を上げます。
> ファスナーを閉めます。
> 続けて縫い、スリットが終わる手前で針位置を下にしてミシンを止めます。
> 押え金を上げて作品の向きを変えます。
> ファスナーの反対側まで縫い、針位置を下にしてのミシンを止めます。
> 押え金を上げて作品の向きを変えます。
> ファスナーの反対側を下から上に縫います。

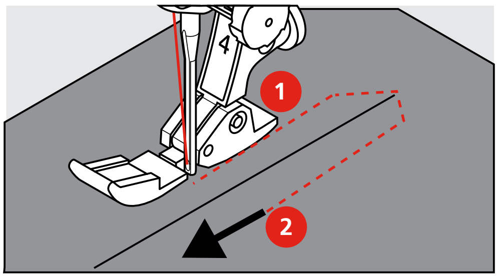


5.5　ファスナーの両側を下から上に縫い付ける

ベルベットのような毛足の長い布地にファスナーを縫い付ける場合、ファスナーの両側を下から上に向かって縫い付けることをお勧めします。

目の詰まった布地や硬い布地を縫う際には、均等なステッチを縫うために90-100番の針を使用することをお勧めします。

> 標準押えNo. 1を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
  - 直線縫いNo. 1が自動的に選択されます。
> ファスナーを縫い付ける部分まで縫います。
> 留め縫いをします。
> ファスナーを縫い付ける部分を長いステッチでしつけ縫いします。
> 縫い代を仕上げます。
> 縫い目にアイロンをかけます。
> ファスナーを縫い付ける部分を開きます。
> ファスナーをしつけ縫いします。布地の下にまち針などで、布地の端同士がファスナーの中央で合うようにしつけます。
> ファスナー押えNo. 4を取り付けます。
> 針基線を右にします。
> 押え上げレバーを使用して、押え金を上げ、作品を置きます。
> ファスナーの端の縫い目の中央から縫い始めます。
> 縫い目の中央からファスナーの務歯の外側まで斜めに縫います。
> (1)の側を下から上に向かって縫います。
> スライダー部分に差し掛かったら、針位置を下にして一度ミシンを止めます。
> 押え金を上げます。
> ファスナーを押え金の後ろの位置まで開けます。
> 押え金を下ろして再び縫います。
> ファスナーの反対側(2)を同様に下から上に縫います。

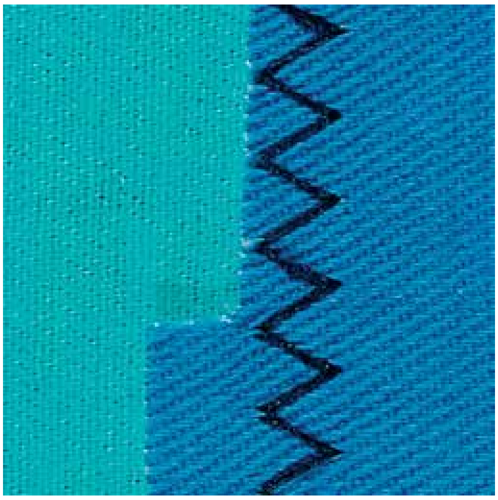


5.6　トリプル直線縫い

トリプル直線縫いはデニム地やコーデュロイなどの硬い布地や織り目の詰まった布地を縫う際に適しています。ジーンズ押えNo. 8を使用することで、デニム地や帆布が縫いやすくなります。飾りステッチをする際には送り長さを長めにします。

> 標準押えNo. 1を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> トリプル直線縫いNo. 6を選択します。

5.7 トリプルジグザグ縫い



デニム地や家具用生地、キャンバス地などの硬い布地を縫う際に適しています。また、よく洗うものの布端に。まず始めに布端を処理します。

> 標準押えNo. 1を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> トリプルジグザグ縫いNo. 7を選択します。

5.8 マニュアル式繕い縫い

穴があいたり、摩耗して薄くなった部分の繕い縫いに。

糸が表側に見えるとステッチが目立ち、きれいな仕上がりになりません。このような場合には、布地をゆっくりと送ります。布地の裏側で糸がダマになってしまう場合には、布地を早く送ります。糸が切れる場合には布地を均等に送ります。

> 繕い縫い押えNo. 9（オプションアクセサリー）を取り付けます。

> «実用縫い»アイコンをタッチします。
  - 直線縫いNo. 1が自動的に選択されます。

> 送り歯を下げます。

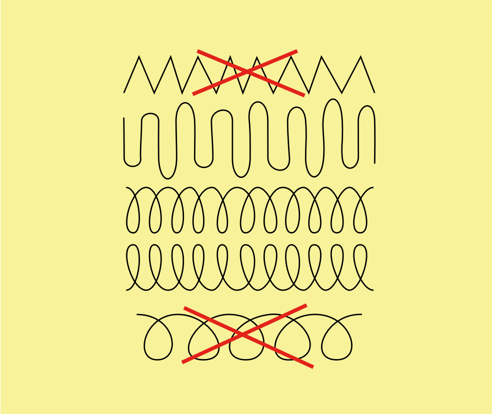
> ソーイングテーブルを取り付けます。

> 布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリー）に取り付けます。
  - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。

> 左から右に縫い、布地を手で均等に送っていきます。

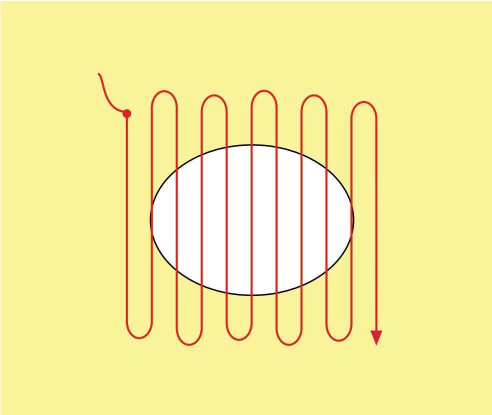
> 穴が開いたり、糸が切れたりするのを防ぐために、滑らかなカーブを描くようにして布地を動かします。

> 糸が布地に均等に広がるように、縫う長さををランダムに変えていきます。



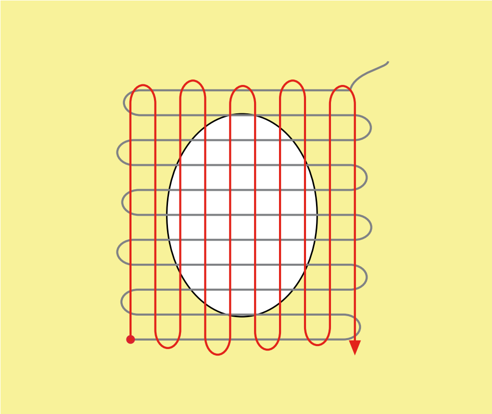
> 最初のステッチはあまり間隔を詰めずに、縫う部分を大きくカバーするように縫います。

> 縫う長さをランダムに変えて縫います。



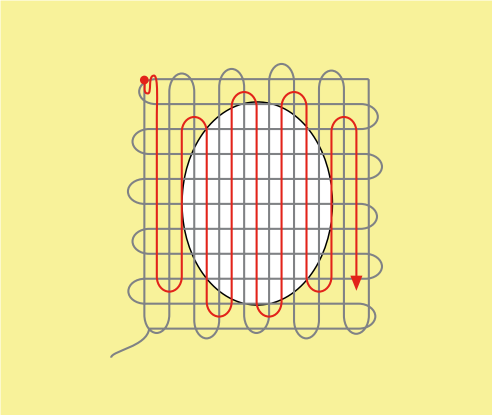
> 布地を90°回転させます。

> 最初のステッチはあまり間隔を詰めずに縫います。

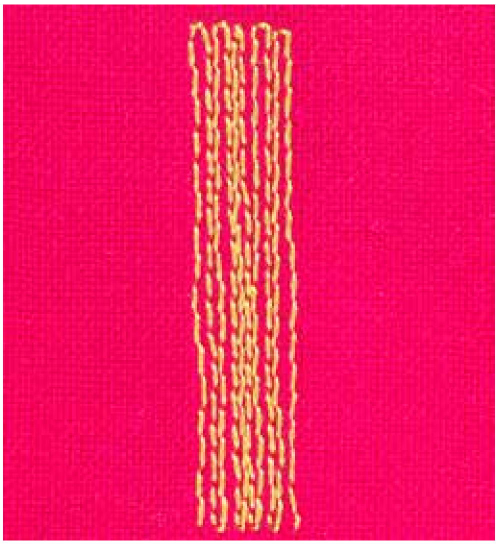


> 布地を180°回転させます。

> 縫い目があまり重ならないように縫います。



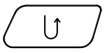
5.9 自動繕い縫い



シンプル繕い縫いプログラムNo. 22は薄くなった部分や破れた部分をすばやく繕う際に適しています。繕う部分に薄いあて布や接着芯などを使用することをお勧めします。シンプル繕い縫いプログラムNo. 22は全ての布地の縦方向の繊維を補強します。布地がゆがんしまう場合には、バランスを調整します。

> 標準押えNo. 1または布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを取り付けます。

> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> シンプル繕い縫いプログラムNo. 22を選択します。
> 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリー）にセットします。
  - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
> 左上から縫い始めます。
> 最初の一列を縦に縫います。
> ミシンを止めます。



> «返し縫い»ボタンを押します。
  - 長さがプログラムされます。
> 繕い縫いがされます。
  - ミシンが自動的に停止します。

5.10 自動補強繕い縫い

補強繕い縫いプログラムNo.23は薄くなった部分や破れた部分をすばやく繕う際に適しており、全ての布地の縦方向の繊維を補強します。

繕い縫いプログラムで、破れた箇所全体をカバーできない場合には、布地の位置を変えて、もう一度繕い縫いプログラムを行います。プログラムにセットした長さで何回でも繰り返し縫うことができます。

長さを直接入力する場合、30mmまでプログラムすることができます。

> 布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> 補強繕い縫いNo.23を選択します。
> 薄手の布地を繕い縫い枠（オプションアクセサリー）にセットします。
  - 繕い縫いをする場所がよれたりずれたりするのを防ぎます。
> 左上から縫い始めます。
> 最初の一列を縦に縫います。
> ミシンを止めます。
> «返し縫い»アイコンをタッチします。
  - 長さがプログラムされます。
> 繕い縫いがされます。
  - ミシンが自動的に停止します。

5.11 布端の処理をする

ジグザグ縫いNo. 2は全ての布地に適しています。また、伸縮性が必要なステッチや飾りステッチとしても使用できます。薄手の布地には繕い縫い用の糸を使用します。サテンステッチには0. 5-0. 7mmの振り幅の目の詰まった短いジグザグ縫いが向いています。サテンステッチはアップリケや刺しゅうに使用します。

前提条件：

- 布端が丸まらないように平らにします。

> 標準押えNo. 1を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> ジグザグ縫いNo. 2またはサテンステッチNo. 1354を選択します。
> 振り幅は広すぎないように、送り長さは長すぎないように設定します。
> 布地を針が布地と布端の外側に刺さるよう、押え金の真ん中に来るようにセットします。

5. 12 ダブルオーバーロック

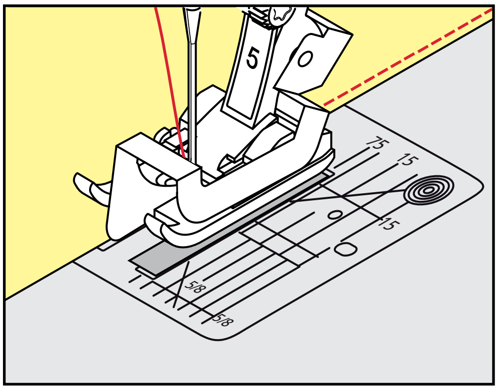
ダブルオーバーロックステッチは目の粗いニット地やジャージーに適しています。ニット地には、細かい編み目に穴を開けてしまわないよう、新しいジャージー針を使用することをお勧めします。伸縮性のある布地にはストレッチ針を使用します。

> 標準押えNo. 1またはオーバーロック縫い押えNo. 2（オプションアクセサリー）を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> ダブルオーバーロックNo. 10を選択します。

5. 13 布端のトップステッチ（小幅）

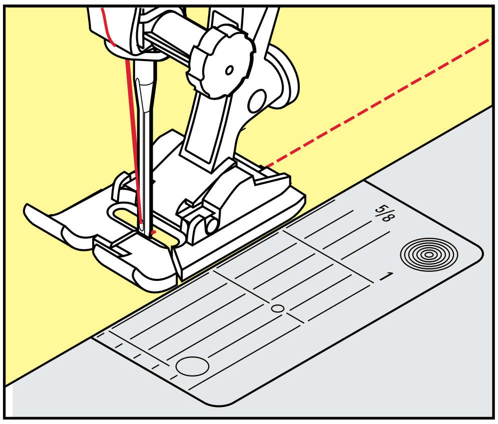
> まつり縫い押えNo. 5（オプションアクセサリー）、標準押えNo. 1またはエッジ縫い押えNo. 10（オプションアクセサリー）を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> - 直線縫いNo. 1が自動的に選択されます。
> 布端をまつり縫い押えのガイドの左側に合わせます。

> 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。



5.14 布端のトップステッチ（大幅）

> まつり縫い押えNo.5（オプションアクセサリー）、標準押えNo.1またはエッジ縫い押えNo.10（オプションアクセサリー）を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
  - 直線縫いNo.1が自動的に選択されます。
> 布端を押え金または針板の目盛りに合わせてセットします。（1-2.5cm）
> 針基線をトップステッチをしたい位置にあわせて設定します。

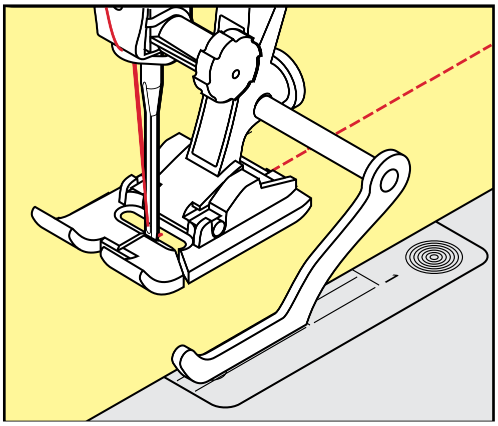


5.15 シームガイドを使用したトップステッチ

すでに縫った縫い目に対して、平行で幅の広いトップステッチをする場合には、シームガイドを使用することをお勧めします。

> 標準押えNo.1またはエッジ縫い押えNo.10（オプションアクセサリー）を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
  - 直線縫いNo.1が自動的に選択されます。
> 押え金の後ろのネジを緩めます。
> シームガイドを押えの穴に差し込みます。
> 必要な幅に調節します。
> ネジを締めます。

> 布端をシームガイドに合わせます。



5.16 裾を縫う

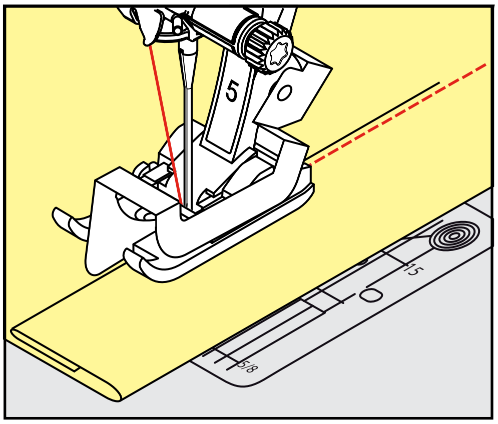
まつり縫い押えNo.5（オプションアクセサリー）を使用する際には、針基線を一番左または一番右にします。標準押さえNo.1およびエッジ縫い押えNo.10では全ての針基線を使用することができます。

> まつり縫い押えNo.5（オプションアクセサリー）、標準押えNo.1またはエッジ縫い押えNo.10（オプションアクセサリー）を取り付けます。

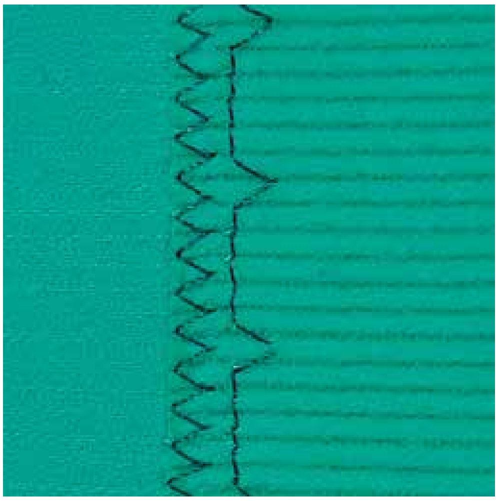
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
  - 直線縫いNo.1が自動的に選択されます。

> 内側の折り目をまつり縫い押えのガイドの右側に合わせます。

> 針基線を一番右にし、内側の折り目に沿って縫います。



5.17 まつり縫い

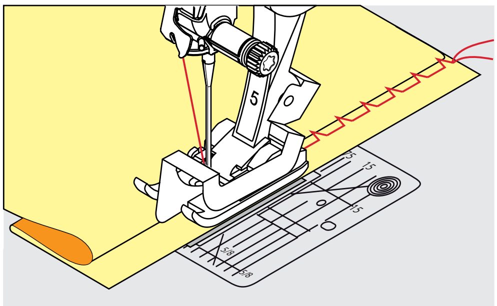


綿、毛および混紡の中厚地～厚地の目立たない縁縫いに。

前提条件：

- 布端の処理をします。

> まつり縫い押えNo. 5 （オプションアクセサリー）を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> まつり縫いNo. 9を選択します。
> 処理した布端が右側に来るように布地を折ります。
> 布地を押え金の下に入れ、折り山が押え金のガイドの左側に沿うようにセットします。
> 折り目の端を押えのガイドに沿って縫うと、均等な位置にかがり縫いをすることができます。
> - 針が折り目の端のぎりぎりの位置に刺さるように注意します。
> 10cmほど縫ったら、布地の表裏をチェックして、必要に応じて再度振り幅を調節します。

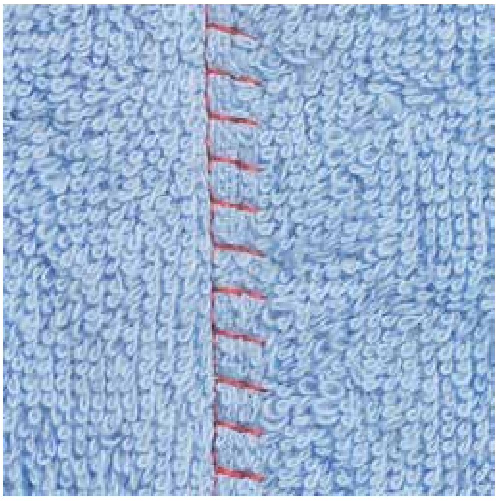


5.18 飾りヘムステッチ

飾りヘムステッチはジャージー、綿、毛、化学繊維および混紡の伸縮性のある布地の裾に向いていま す。

> 標準押えNo. 1を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> トリコットステッチNo. 14を選択します。
> 裾にアイロンをかけ、必要であればしつけをします。
> 押え圧を必要に応じて弱くします。
> 縫いたい位置に合わせて表側を縫います。
> 裏側のはみ出た布地を切り落とします。

5.19 フラット縫い



フラット縫いはふわふわしたまたは厚いタオル地やフェルト、皮革などに適しています。

> 標準押えNo. 1を取り付けます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> ストレッチオーバーロックNo. 13を選択します。
> 布端を重ねます。
> 布端に沿って縫います。
> 平らで耐久性のあるステッチを縫うには、針が上の布端の右側を超えて、下の布地に刺さるようにします。

5.20 しつけ縫い

しつけ縫いの際には、取り除くのが楽な細いしつけ糸の使用をお勧めします。しつけ縫いは送り長さを長くして縫う際に適しています。

> 繕い縫い押えNo. 9（オプションアクセサリー）を取り付けます。
> 送り歯を下げます。
> «実用縫い»アイコンをタッチします。
> しつけ縫いNo. 30を選択します。
> 布地がずれるのを防ぐために、まち針を横向きに刺して、布地をしつけておきます。
> 縫い始めに糸を押さえて、３、４針の留め縫いをします。
> 一針縫って、布地を後方に引っ張り、次の目を縫う位置まで移動させます。
> 次の目を縫います。
> 縫い終わりに３、４針の留め縫いをします。

6　飾りステッチ

6.1　飾りステッチについて

飾りステッチは布地の種類によって、単純なものから複雑なものまで様々です。

- 飾りステッチNo.101のような直線縫いでプログラムされたステッチは、特に薄地に適しています。
- 飾りステッチNo.107のようなトリプル直線縫いまたは少しのサテンステッチでプログラムされたステッチは、特に中厚地に適しています。
- 飾りステッチNo.401のようなサテンステッチでプログラムされたステッチは、特に厚地に適しています。

きれいな飾りステッチを縫うには、上糸と下糸の色を合わせ、芯地を使用します。タオル地や毛足の長い布地には更に、表側に水溶性の芯地を使用することをお勧めします。

飾り縫いステッチ	カテゴリー	名称
	カテゴリー 100	自然
	カテゴリー 300	クロスステッチ
	カテゴリー 400	サテンステッチ
	カテゴリー 600	幾何学模様ステッチ
	カテゴリー 700	伝統柄ステッチ
	カテゴリー 900	キッズ柄ステッチ

6.2　ボビンマジック

注意

適切でないボビンケースを使用した場合

ボビンケースが破損する恐れがあります。

>　ボビンケース（オプションアクセサリー）を使用してください。

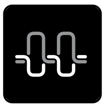
ボビンに糸以外のコードなどを巻いて縫うことができます。フリーモーションで布地を送ります。通常のフリーモーションソーイングと同じ要領ですが、飾り付けるのは裏側です。

飾り縫いをする部分は刺しゅう用の安定紙で補強します。布地の裏側にデザインを描くか、または布地の表にデザインを描いて、綿、ポリエステルまたはレーヨンの糸を使い、直線縫いでなぞっておきます。裏側に出たステッチラインをガイドにしてボビンマジックをしていきます。

ボビンマジックにBSR機能を使用することができます。作品を一定の速度で均等に動かしてデザインを縫います。縫い終わったら安定紙を取り除きます。

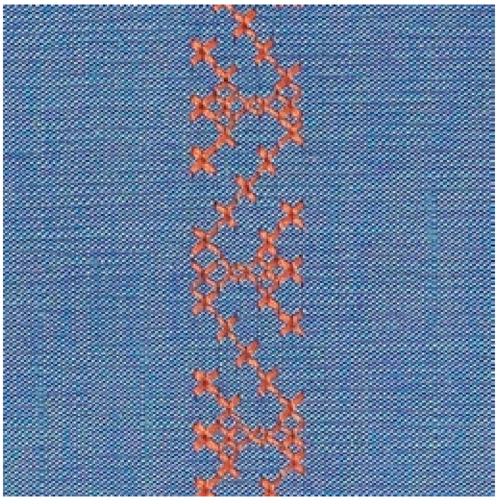
まず始めに試し縫いをして仕上がりをチェックします。

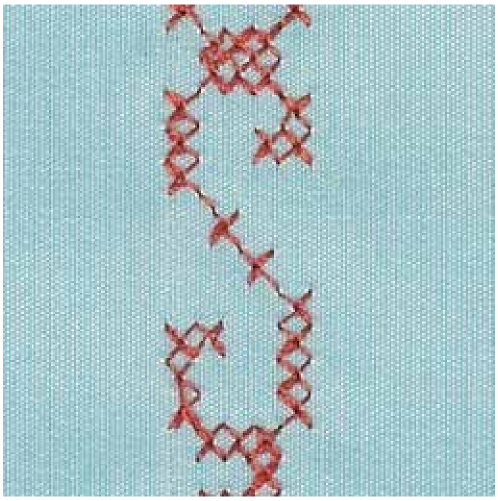
全ての飾りステッチがこの手法に適しているわけではありません。シンプルな飾りステッチが最も適しています。サテンステッチのような目の詰まったステッチやボタンホールなどは避けてください。



> オープン刺しゅう押えNo.20を取り付けます。
> «飾り縫いステッチ»アイコンをタッチします。
> 適した飾り縫いステッチを選択します。
> 太い糸を使って縫う場合、きれいに仕上げるために、«多機能ボタン 上»および«機能ボタン 下»を回して、送り長さを長めに、振り幅を大きめに設定します。
> «上糸調子»アイコンをタッチし、必要であれば上糸調子を調節します。

6.3 クロスステッチ





クロスステッチは伝統的なテクニックで、よく使われる飾りステッチです。リネン地にクロスステッチをすると、手縫い風になります。クロスステッチに刺しゅう糸を使用すると、ステッチパターンがとてもきれいに仕上がります。クロスステッチはホームデコレーションや洋服の縁飾り、色々な飾り縫いに適しています。最初の列が歪むと、仕上がりに大きく影響するので、一列目をまっすぐに縫うことが重要です。

> 標準押えNo.1またはオープン刺しゅう押えNo.20を取り付けます。
> カテゴリー300のクロスステッチを選択し、必要であればコンビネーションを作ります。
> まっすぐなラインを縫うためにシームガイドまたは布ガイドを使って最初の一列を縫います。
> 二列目を押え金の幅に合わせるか、シームガイドを使って、一列目の横に縫います。

6.4 ピンタック

ピンタックでは布のサイズが縮小されるので、十分な大きさの布地を用意してください。ピンタックは細くつまんだひだを縫ったもので、作品を型紙に合わせてカットする前に前もって縫っておきます。ピンタックは、飾り縫いやホワイトワークなど他の刺しゅうとのコンビネーションに適しています。

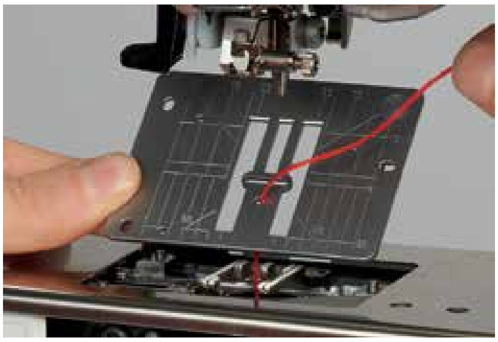
ピンタックはコード芯と一緒に縫うと、立体感のある目立った仕上がりになります。コード芯は使用する押え金の溝に合った太さのものを使用します。コード芯は、色落ちしない、縮まないものを選びます。

ピンタック押え	番号	説明・用途
	30（オプションアクセサリー） 3本溝	4mm幅の二本針：厚地に。
	31（オプションアクセサリー） 5本溝	3mm幅の二本針：中厚地～厚地に。
	32（オプションアクセサリー） 7本溝	2mm幅の二本針：薄地～中厚地に。
	33（オプションアクセサリー） 9本溝	1または1.6mm幅の二本針：極薄地に。（ピンタックコードは使えません）。

コード芯をセットする

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 針を取り外します。
> 押え金を取り外します。
> 針板を取り外します。
> 釜カバーを開けます。
> コード芯を下から釜部分を通して針板の穴に通します。
> 針板を再び取り付けます。
> 釜カバーを閉じます。

> コード芯は釜カバーの小さな糸通し穴を通るようにします。



> コード芯の糸こまは押え上げレバーに通します。

> コード芯がスムーズに引き出されるのを確認します。
> ソーイング中、コード芯が釜カバーの穴をスムーズに通らない場合には、釜カバーを開けたままにして、下糸センサーをセットアッププログラムでオフにします。

ピンタックを縫う

コード芯は布の裏側に下糸で縫いこまれていきます。

> 最初のピンタックを縫います。
> 最初のピンタックを、必要なピンタックの間隔に合った押えの溝の一つに合わせます。
> 残りのピンタックを最初のピンタックと平行に縫います。

7　アルファベット

7.1　アルファベットについて

ブロック体は小文字でも縫うことができます。

きれいなステッチを縫うには、上糸と下糸に同じ色の糸を使用します。また、布地の裏側には安定紙を置き、タオル地や毛足の長い布地にはさらに布地の表側に水溶性の安定紙を使用することをお勧めします。

ステッチパターン	名称
ABCabc	ブロック体
ABC	白抜き文字
ABC	スクリプト（イタリック体）
あいう	ひらがな

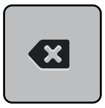
7.2　文字列を入力する

> «アルファベット»アイコンをタッチします。
> 書体を選択します。

> «シングル／コンビネーションモード»アイコンをタッチして、コンビネーションを作成します。
> «表示を設定する»アイコン(1)をタッチして、その他の入力モードを開きます。

> 文字を選択します。
> アイコン(1)をタッチ（標準設定）すると、大文字になります。
> アイコン(2)をタッチすると、小文字になります。
> アイコン(3)をタッチすると、数字および算術記号になります。

> アイコン(4)をタッチすると、特殊文字になります。

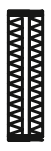
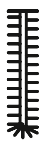


> «削除»アイコンをタッチすると、入力した文字が一つずつ削除されます。
> «表示を設定する»アイコンをタッチすると、その他の入力モードが閉じます。

8　ボタンホール

8.1　ボタンホールについて

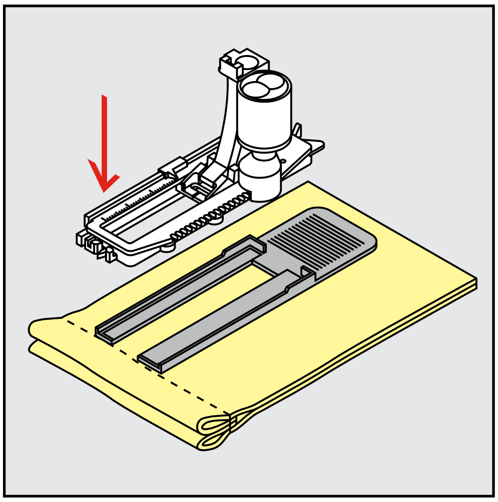
それぞれのボタンや用途、洋服のタイプにあったボタンホールを縫うために、BERNINA 720には様々なボタンホールコレクションを搭載しています。ボタンやアイレットなどもミシンで縫うことができます。

ボタンホール	ボタンホール番号	名称	説明・用途
	51	標準ボタンホール	薄地～中厚地に；ブラウス、ワンピース、ベッドリネンなど。
	52	細いボタンホール	薄地～中厚地に；ブラウス、ワンピース、子ども・ベビー服、小物など。
	53	ストレッチボタンホール	綿、毛、シルク、化繊でできた伸縮性の高いジャージーなどに。
	54	標準バータック付きラウンドボタンホール	中厚地～厚地に；ワンピース、ジャケット、コート、レインコートなど。
	56	はと目ボタンホール	厚手の非伸縮性の布地に；ジャケット、コート、レジャーウェアなど。
	57	ポイントバータック付きはと目ボタンホール	しっかりした非伸縮性の布地に；ジャケット、コート、レジャーウェアなど。
	59	直線縫いボタンホール	ボタンホールの下縫いや補強、ポケットの開口部、本皮、合成皮革のボタンホールに。
	63	手縫い風ボタンホール	薄地～中厚地の織地に；ブラウス、ワンピース、レジャーウェア、ベッドリネンなど。
	69	ダブルポイントバータック付き飾りボタンホール	しっかりした非伸縮性の布地の飾りボタンホール に。
	60	ボタン付けプログラム	二つ穴、四つ穴のボタンの縫い付けに。
	61	ジグザグアイレット	コードや細い紐の穴に、飾りに。
	62	直線アイレット	コードや細い紐の穴に、飾りに。

8.2　高さ調節板を使用する

ボタンホールをコーナーや段差部に縫うときは、ボタンホール用高さ調節板（オプションアクセサリー）を使用することをお勧めします。

> 高さ調節板を後ろから布地と押え金の間に差込み、段差のある部分にセットします。

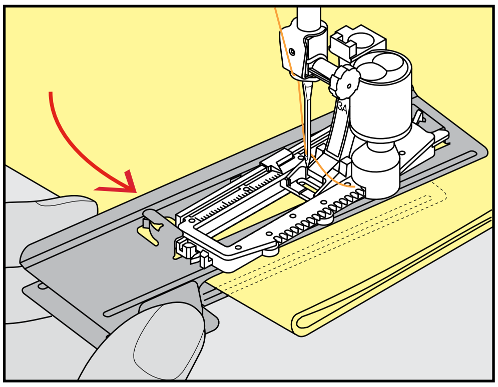


> 押え金を下げます。

8.3　ボタンホール用布送りサポートを使用する

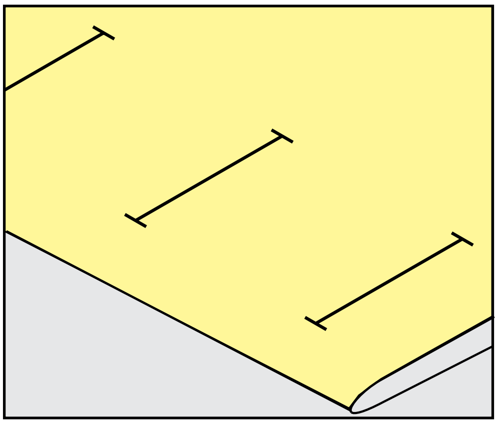
布送りが難しい布地にボタンホールを縫う場合には、ボタンホール用布送りサポート（オプションアクセサリー）の使用をお勧めします。布送りサポートは布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aと一緒に使用します。

> 高さ調節板を横からゆっくりと差し込みます。

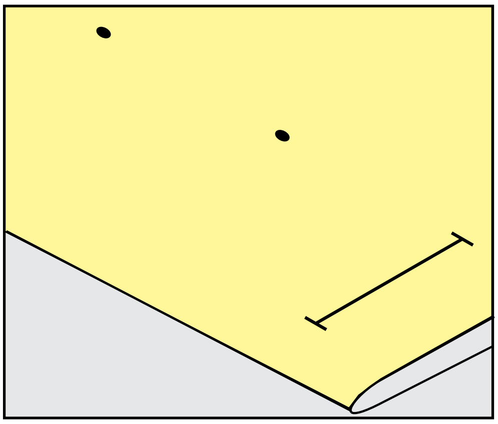


8.4　ボタンホールの印をつける

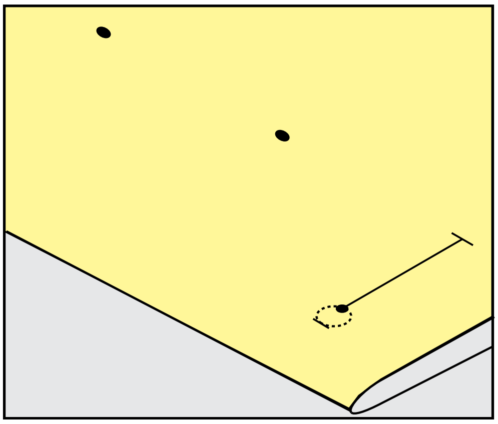
> 手動でボタンホールを縫う場合には、布地に全てのボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水性ペンで書きます。



> 自動でボタンホールを縫う場合には、布地に最初のボタンホールの位置と長さをチャコペンまたは水溶性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。



> はと目ボタンホールおよびラウンドボタンホールを縫う場合には、布地にボタンホールの長さをチャコペンまたは水溶性のペンで書き、残りのボタンホールは縫い始めの位置のみに印をつけます。はと目の部分はボタンホールの長さに加えて縫われます。



8.5　ボタンホール芯

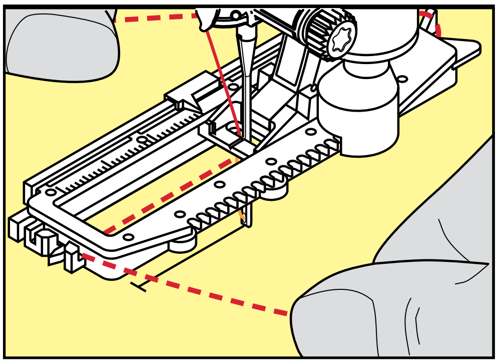
ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aと一緒に使用する

ボタンホール芯はボタンホールの強度を強くし、また仕上がりをよくします。ボタンホール芯は特に標準ボタンホールNo.51に適しています。使用するコード芯はパールコットン刺しゅう糸の8番、強度のある手縫い用糸、およびかぎ編み用糸が理想的です。ボタンホールを縫う際にはボタンホール芯を押さえないようにします。

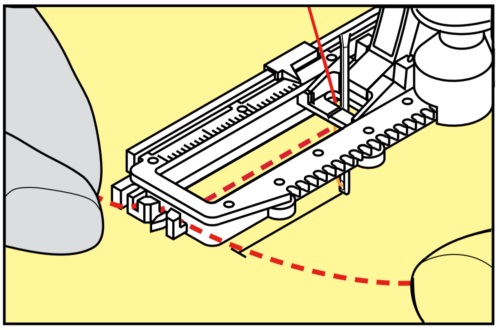
前提条件：

・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを取り付け、上げておきます。

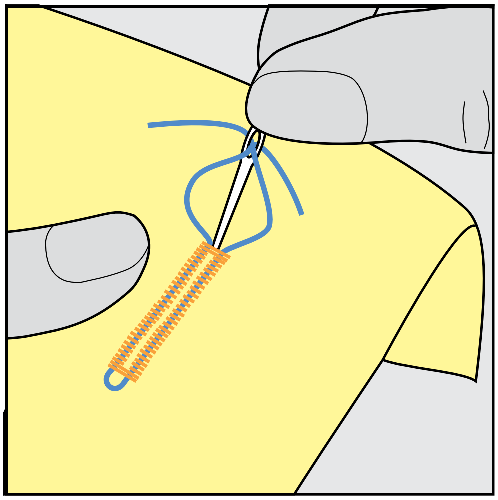
> ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
> ボタンホール芯を布ガイド付き自動ボタンホール押えの右下に入れます。
> ボタンホール芯を押えの後方にあるピンに引っ掛けます。



> ボタンホール芯を押えの左下から前に引っ張ります。



> ボタンホール芯の端を止め具に引っ掛けます。
> 布ガイド付き自動ボタンホール押えを下げます。
> ボタンホールを縫います。
> ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
> ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。

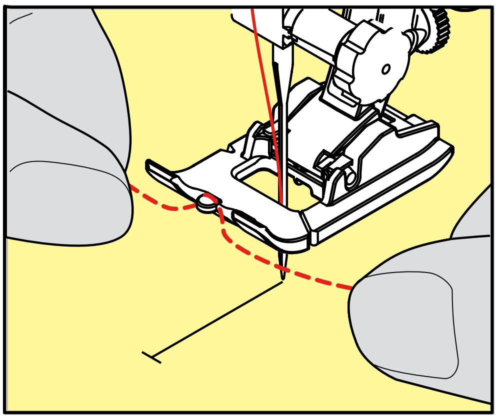


ボタンホール芯をボタンホール押えNo.3（オプションアクセサリー）と一緒に使用する

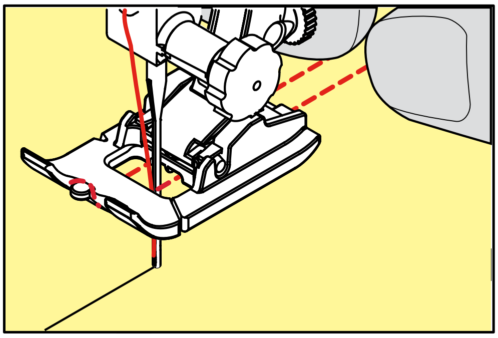
前提条件：

・ ボタンホール押えNo.3（オプションアクセサリー）を取り付け、上に上げます。

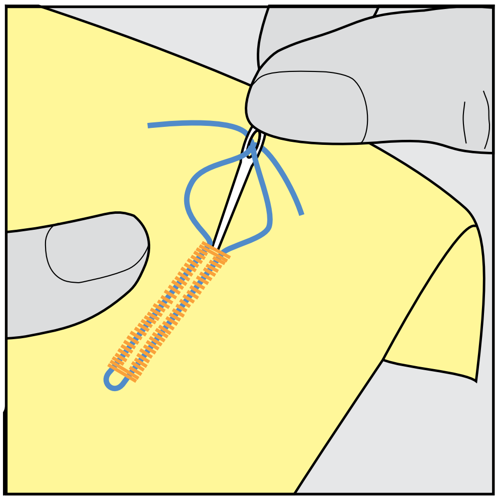
> ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
> 押えの前方の突起にボタンホール芯を引っ掛けます。



> ボタンホール芯の両端を押えの後ろにもって行き、それぞれの芯糸を押えの溝に入れます。



> ボタンホール押えを下げます。
> ボタンホールを縫います。
> ボタンホール芯のループがボタンホールの縫い目の下に隠れるように引っ張ります。
> ボタンホール芯の終わりを、手縫い針を使用して布の裏側に出し、結ぶか留め縫いをします。



8.6　試し縫いをする

ボタンホールの試し縫いをする際には、常に作品と同じ布地、芯地を使用します。縫うボタンホールを選択し、縫う方向も作品に合わせます。試し縫いをして、完璧なボタンホールができるまで設定を調整します。

手動で標準ボタンホールを縫う際、および自動ボタンホール、はと目ボタンホール、ラウンドボタンホールなどを縫う際、バランスは両側の穴かがりに均等に調節されます。手動ではと目ボタンホールまたはラウンドボタンホールを縫う際にはバランスは左右対称になります。

ステッチカウンター機能がオンになっていて、バランスの変更をすると、それぞれの穴かがりのバランスが別々に調節されます。

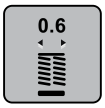
> «ボタンホール»アイコンをタッチします。
> ボタンホールを選択します。
> 使用したい押え金を取り付けます。
> 布地を押え金の下に入れ、押え金を下げます。
> フットコントローラーを軽く踏んで縫い始めます。布地を軽く持ってスムーズに送ります。
> ソーイング中にバランスをチェックして、必要があれば調節します。
> 試し縫いしたボタンホールをチェックして、必要に応じてその他の設定を調整します。

8.7　ボタンホールの穴幅を設定する

ボタンホールの穴幅を0.1 – 2.0 mmの間で設定することができます。

> «ボタンホール»アイコンをタッチします。
> ボタンホールを選択します。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «ボタンホールの穴幅»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回して、ボタンホールの穴幅を設定します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

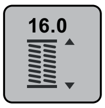
8.8 ボタンホールの長さを設定する

ディスプレイの左側の黄色い丸枠の真ん中に直接ボタンを当てます。«多機能ボタン 上／下» を回すと、黄色い丸枠の大きさが変わり、ボタンの直径を測ることができます。

ボタンの直径には自動的に2mmが加算され、ボタンホールの長さが出ます。例えば、ボタンの直径が14mmの場合、ボタンホールの大きさは16mmと計算されます。

> «ボタンホール»アイコンをタッチします。
> ボタンホールを選択します。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «ボタンホールの長さを設定する»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回して、ボタンホールの長さを設定します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

8.9 ステッチカウンター機能を使用する

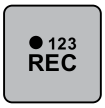
ステッチカウンター機能は全てのボタンホールに適しています。ボタンホールの左側は前進で、右側は後進で縫われます。バランスが変更された場合には、それぞれのボタンホールでステッチカウンター機能を新しく保存しなおす必要があります。

前提条件：

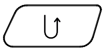
・ ボタンホール押えNo.3（オプションアクセサリー）を取り付けます。

> «ボタンホール»アイコンをタッチします。
> ボタンホールを選択します。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

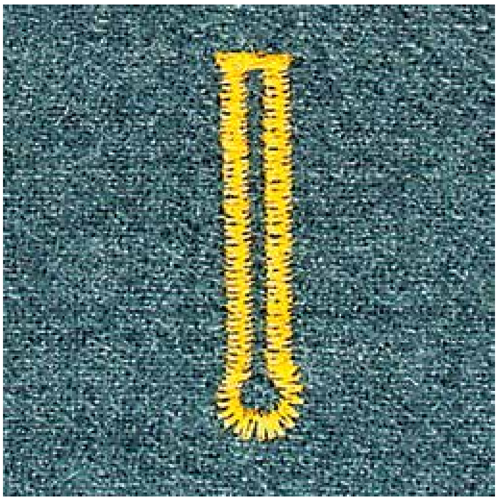


> «ステッチカウント式ボタンホール»アイコンをタッチします。
> 必要なボタンホールの長さを縫います。
> ミシンを止めます。



> «返し縫い»ボタンを押すと、ミシンが手前のバータックと反対側の穴かがりを後進で縫います。
> 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たら、ミシンを止めます。
> «返し縫い»ボタンをもう一度押すと、ミシンが奥側のバータックを縫って留め縫いをします。
 - ボタンホールの長さは、ミシンの電源を切るまで保存されるので、続けて同じボタンホールを縫うことができます。

8.10 ボタンホールを自動で縫う



布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを使用すると、押え金の下についたセンサーでボタンホールの長さが自動的に計測され、繰り返し同じサイズのボタンホールを自動で縫うことができます。布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aはボタンホールのタイプによって4 - 31mmのボタンホールを縫う際に適しています。長さを正確に測るには布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aが布地に対して平行に接していなければなりません。プログラムされたボタンホールは全て同じようにきれいに縫われます。

前提条件：

- ・ 布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを取り付けます。

> «ボタンホール»アイコンをタッチします。

> ボタンホールNo.51-53またはNo.54、56、57、63またはNo.69を選択します。

> 必要な長さのボタンホールを縫います。

> «返し縫い»ボタンを押して、ボタンホールの長さをプログラムします。

> «スタート／ストップ»ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込みます。

- ミシンがボタンホールを最後まで自動的に縫います。残りのボタンホールも同じように自動的に縫われます。

8.11 7ステップ自動ボタンホールを縫う

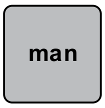
ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。バータックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップはスクロール、矢印アイコンおよび«返し縫い»ボタンで選択できます。

前提条件：

- ・ ボタンホール押えNo.3（オプションアクセサリー）を取り付けます。

> «ボタンホール»アイコンをタッチします。
> ボタンホールNo. 51を選択します。

> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «マニュアル»アイコンをタッチします。
  - ディスプレイにステップ１がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。
> 必要な長さのボタンホールを縫います。
  - 縫い始めにステップ２がアクティブになります。

> 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。

> «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ３が表示されます。
  - ミシンが後進で直線縫いをします。
> ボタンホールの縫い始めの位置まで縫うと、ミシンが停止します。
> «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ4が表示されます。
  - 奥側のバータックを縫ったら、ミシンは自動的に停止します。
> «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ5が表示されます。
  - ミシンがもう一つの穴かがりを縫います。
> 最初の穴かがりの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。
> «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ6が表示されます。
  - ミシンが手前側のバータックを縫って、自動的に止まります。
> «スクロール 下»アイコンをタッチすると、ステップ7が表示されます。
  - ミシンが留め縫いをして、自動的に止まります。

8.12 5ステップ自動ボタンホールを縫う

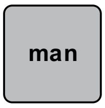
ボタンホールの長さはソーイング中に好きなサイズに決められます。バータックとはと目、留め縫いはプログラムされています。各ステップはスクロール、矢印アイコン、直接選択および返し縫いボタンで選択できます。

前提条件：

・ ボタンホール押えNo. 3（オプションアクセサリー）を取り付けます。

> «ボタンホール»アイコンをタッチします。
> ボタンホールNo. 56を選択します。

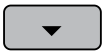
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «マニュアル»アイコンをタッチします。
  - ディスプレイにステップ１がボタンホールの縫い始めとしてアクティブになります。

> 必要な長さのボタンホールを縫います。
  - 縫い始めにステップ２がアクティブになります。

> 必要なボタンホールの長さまたは印をつけた位置で、ミシンを止めます。



> «スクロール　下»アイコンをタッチすると、ステップ３が表示されます。

> ミシンがバータックまたははと目を縫って、自動的に止まります。

> «スクロール　下»アイコンをタッチすると、ステップ4が表示されます。
  - ミシンがもう一つの穴かがりを後進で縫います。

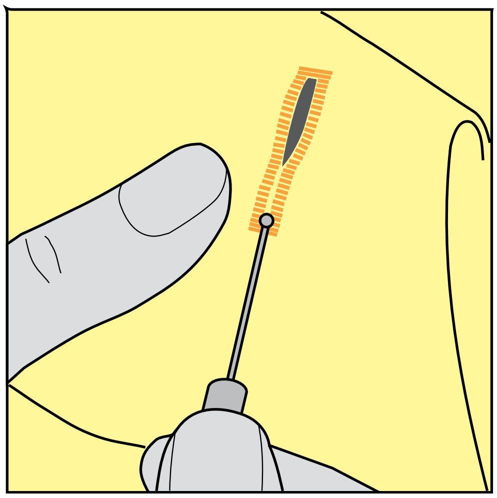
> ボタンホールの縫い始め位置まで来たところでミシンを止めます。

> «スクロール　下»アイコンをタッチすると、ステップ5が表示されます。
  - ミシンが奥側のバータックを縫って留め縫いをし、自動的に止まります。

8. 13 ボタンホールをシームリッパーで切り開く

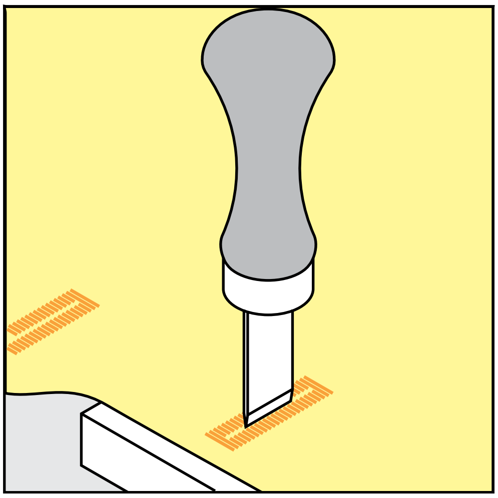
> バータックを切らないように、両端にまち針を刺しておきます。

> ボタンホールの両端から真ん中に向けて、ボタンホールを切り開いていきます。



8.14 ボタンホールカッター（オプションアクセサリー）でボタンホールを切り開く

> ボタンホールを木片などの上に置きます。



> ボタンホールカッターをボタンホールの真ん中に合わせます。
> ボタンホールをカッター下へ強く押します。

8.15 ボタンを縫い付ける

ボタン付けプログラムでは二つ穴または四つ穴のボタンを縫い付けることができます。更にしっかりボタンを縫い付けるためには、ボタン付けプログラムを２回繰り返します。四つ穴ボタンは最初に手前の穴から縫います。

飾り用ボタンには足をつけずに縫い付けます。足とは、ボタンと布地の間の隙間のことを指します。ボタン付け押えNo.18（オプションアクセサリー）では、足の幅をネジで調節することができます。

ボタン付けプログラムでは最初の留め縫いは常に左側のボタン穴です。

前提条件：

- 繕い縫い押えNo.9（オプションアクセサリー）またはボタン付け押えNo.18（オプションアクセサリー）を取り付けます。

> 送り歯を下げます。
> ボタン付けプログラムNo.60を選択する。
> 布地にボタンを置きます。
> はずみ車を回して穴の距離を測ります。
> 縫い始めには糸を手で押さえ、必要があれば振り幅を変更します。
  - ミシンがボタン付けプログラムを縫い、自動的に止まります。
> 縫い始めと縫い終わりの下糸を上糸の端が布地の裏に見えるまで引っ張ります。
> 両方の糸を手で結びます。

8.16 アイレットを縫う

２重に縫うと、きれいなアイレットが縫えます。

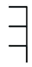
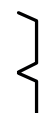
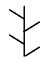
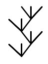
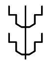
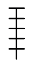
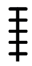
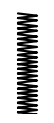
前提条件：

- 標準押えNo.1またはオープン刺しゅう押えNo.20を取り付けます。

> アイレットプログラムNo.61またはNo.62を選択します。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を回して、アイレットの大きさを変更します。
> アイレットプログラムを縫います。
  - ミシンはアイレットプログラムを縫うと、自動的に止まります。
> 目打ちやパンチプライヤー、穴あけなどでアイレットの穴を開けます。

9 キルティング

9.1 キルトステッチについて

ステッチパターン	ステッチ番号	名称	説明・用途
	1324	キルター用留め縫いプログラム	縫い始めと縫い終わりに前進で短い留め縫いをします。
	1325	キルティング、直線縫い	長さ3mmの直線縫い。
	1327	スティップリングステッチ／蛇行ステッチ	スティップリング模様に。
	1328	手縫い風キルトステッチ	モノフィラメント糸を使用した手縫い風のステッチ。
	1329	ブランケットステッチ	アップリケや飾りリボンの縫い付けに。
	1330	ダブルブランケットステッチ	アップリケや飾りリボンの縫い付けに。
	1331	狭いまつり縫い	まつり縫いに。
	1332	フェザーステッチ	″クレイジー・パッチワーク″および飾り縫いに。
	1333	フェザーステッチ各種 1333 - 1338	″クレイジー・パッチワーク″および飾り縫いに。
	1339	各種飾り縫いキルトステッチ 1339 - 1345、1355 - 1359	″クレイジー・パッチワーク″および飾り縫いに。
	1346	キルトステッチ／手縫い風キルトステッチ各種 1346、1347、1348	スティップリング模様、モノフィラメント糸を使ったステッチ。
	1352	ブランケットステッチ	アップリケや″クレイジー・パッチワーク″の端同士を縫う際に。
	1353	ダブルブランケットステッチ	アップリケや″クレイジー・パッチワーク″の端同士を縫う際に。
	1354	サテンステッチ	アップリケに。

9.2 キルター用留め縫いプログラム

前提条件：

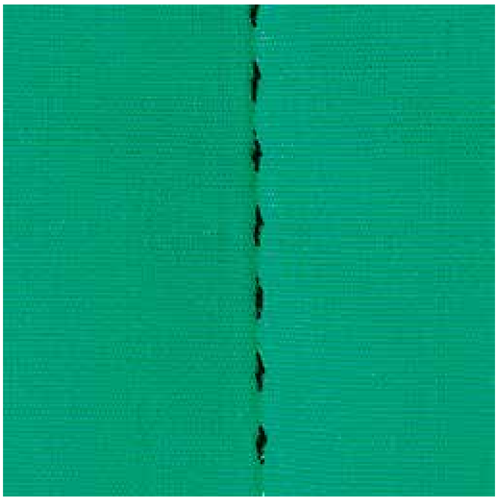
- 標準押えNo.1を取り付けます。

> キルトステッチNo.1324を選択します。

> フットコントローラーを踏みます。
  - 縫い始めにミシンが自動的に、前進で6針の留め縫いをします。

> 必要な長さを縫います。
> «返し縫い»ボタンをタッチします。
  - ミシンが自動的に、前進で６針の留め縫いをし、止まります。

9.3　手縫い風ステッチを縫う



手縫い風ステッチは、全ての布地、手縫い風に見せたい作品に適しています。上糸にはモノフィラメント糸を、下糸には刺しゅう糸を使用することをお勧めします。モノフィラメント糸が切れないように、ソーイングスピードは遅めに設定します。必要に応じて、上糸調子やバランスを調節します。

前提条件：
・　標準押えNo. 1を取り付けます。
> «キルトステッチ»アイコンをタッチします。
> 手縫い風キルトステッチNo. 1328または1346、1347または1348を選択します。
> 必要に応じて、上糸調子やバランスを調節します。
> フットコントローラーを踏むか、スタート／ストップボタンを押して、ミシンをスタートさせます。

9.4　フリーモーションキルティング

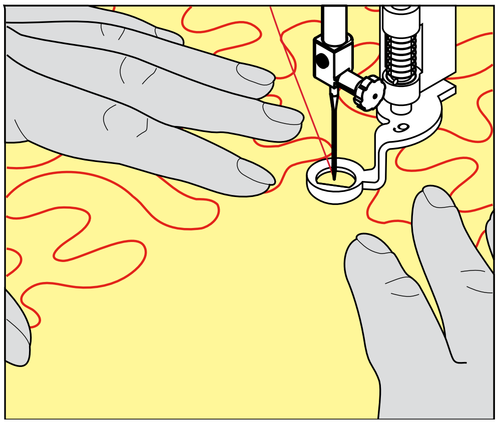
滑り止め付きキルト用手袋（オプションアクセサリー）を使用すると、布送りが簡単になります。

ソーイングテーブルと押え上げレバーの使用をお勧めします。フリーモーションキルティングは中心から外に向かって縫っていき、作品をスムーズに丸く動かしながら、デザインを描いていきます。フリーモーションキルティングと繕い縫いは、同じ原理の手法です。

スティップリング模様は布地全体がキルトステッチで埋められます。キルティングのラインは丸く、ステッチ同士が交差しないように気をつけます。

前提条件：
- キルトの表地、キルト芯、キルトの裏地をしっかり留めておきます。
- 送り歯を下げます。
- 縫い縫い押えNo.9（オプションアクセサリー）を取り付けます。

> «実用縫い»アイコンをタッチします。
  - 直線縫いNo.1が自動的に選択されます。
> 必要に応じて上糸調子とバランスを調節します。
> フットコントローラーを踏むか、スタート／ストップボタンを押して、ミシンをスタートさせます。
> 両手を枠のようにして押え金の側で布を押えます。
> 糸が表側にたまる場合は、布送りを遅くします。
> 裏側に糸ダマができる場合は、布送りを速くします。



10　ベルニナステッチレギュレーター(BSR)

ベルニナステッチレギュレーターは人気のフリーモーションソーイングでの送り長さを一定に保ちます。BSR押えをフリーモーションソーイングで使用すると、全てのステッチの長さが均一に保たれ、作品の見た目をきれいに仕上げることができます。

BSR押えが取り付けられ、送り歯が下げられると、ミシンのディスプレイ上に選択可能なモードが表示されます。BSR押えは直線縫い、ジグザグ縫いのどちらにも使用できます。

BSR押えは布地の動きに反応し、最高速度までの範囲でミシンのスピードを自在に変化させます。布地を早く動かせば、ミシンのスピードも速くなります。

布地の動きが速すぎると、警告音が鳴ります。警告音は«BSR»ディスプレイでオン／オフの設定ができます。警告音はセットアッププログラムからもオン／オフの設定ができます。 (参照ページ: 54)

10.1 BSRモードを使用する

BSR機能は、フットコントローラーまたはスタート／ストップボタンで操作ができます。

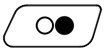
フットコントローラーで縫う：キルティング中はフットコントローラーを踏んだままにします。布地を動かさなくても、フットコントローラーから足を離すまではBSR 1 モードが機能しています。

BSR2モードでキルティングを中止すると、針位置によってはミシンがもう一針縫って、針位置を上にしてから停止します。

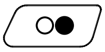
前提条件：

- ソーイングテーブルを取り付けます。
- 押え上げレバーを取り付けます。

> 送り歯を下げます。
> 使用したいBSRモードを設定します。



> «スタート／ストップ»ボタンを押すか、フットコントローラーを踏み込んで、押え金を下げます。
> «スタート／ストップ»ボタンをもう一度押すか、フットコントローラーをもう一度踏み込み、踏んだままにして、BSRモードをスタートさせます。
  - BSR押えの赤いランプが点灯します。
> 布地を動かし、BSRモードでミシンのスピードをコントロールします。



> «スタート／ストップ»アイコンをもう一度タッチするか、フットコントローラーから足を離すと、BSRモードが終了します。
  - BSRモードが終了すると、押え金の赤いランプが消えます。
> «BSR»アイコン(1)をタッチして、BSRモードをオフにすると、通常のフリーモーションキルティングができます。

10.2 BSRモード 1

BSR機能はフットコントローラーまたは«スタート／ストップ»ボタンで操作することができます。BSRモードをスタートさせます。押え金の赤いランプが点灯します。布地を動かすことによって、ミシンのスピードをコントロールします。布地の動きを止めると、何もしなくてもその場で留め縫いをすることもできます。フットコントローラーまたは«スタート／ストップ»ボタンを使用する場合には、BSR 1 モードは自動的には終了しません。

10.3 BSRモード2

BSR機能はフットコントローラーまたは«スタート／ストップ»ボタンで操作することができます。ミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、«スタート／ストップ»ボタンが押されるのと同時に、布地を動かすことによって動き出します。布地の動きが止まってから約7秒後にBSR２モードはオフになります。押え金の赤いランプは、«スタート／ストップ»ボタンでの操作時にのみ消え、フットコントローラーでの操作時には消えません。

10.4 BSR機能を直線縫いNo.1で使用する

この機能を使用して、４mmまでの送り長さの直線縫いを使用したフリーモーションキルティングができます。設定した送り長さは一定の速度までは、布地の動きに関係なく保たれます。

10.5 BSR機能をジグザグ縫いNo.2で使用する

ジグザグステッチはスレッドペインティングに適しています。ジグザグステッチでは送り長さは保たれませんが、BSR機能が作業を簡単にします。

10.6 ソーイングの準備

BSR押えを取り付ける

注意

BSR押えのセンサーが汚れていると

ミシンがBSR押えを認識しません。

> センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。

> 押え金を上げます。
> 針を上に上げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 取り付けレバーを上げます。

> 押え金を外します。
> BSR押えを下から取り付けます。
> 取り付けレバーを下げます。

> BSR押えのコードを接続部(1)に差し込みます。

> ミシンの電源を入れます。
  - BSRディスプレイが開き、BSR1モードがオンになります。

押え底を交換する

注意

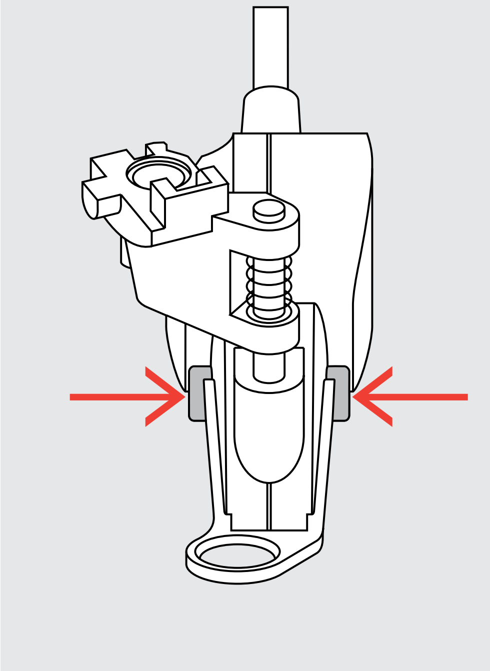
BSR押えのセンサーが汚れていると

ミシンがBSR押えを認識しません。

> センサーを柔らかい、軽く湿らせた布で拭きます。

送り長さの標準設定は２mmです。小さい模様を縫う場合、スティップリングをする場合には、送り長さを1 - 1.5 mmにすることをお勧めします。

> 針を上げます。
> 押え金を上げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 押え金を外します。 (参照ページ: 34)
> BSR押えの横のボタンを両方押します。



> 押え底を下に引き、はずします。
> 新しい押え底をしっかりはまるまで上に押します。
> BSR押えを取り付ける (参照ページ: 111)

10.7 留め縫い

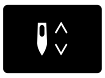
BSR1モードで、《スタート／ストップ》ボタンを使用して留め縫いする

前提条件：

- BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- BSRディスプレイが開き、BSR１モードがオンになっている。

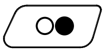
> 送り歯を下げます。

> 押え金を下げます。



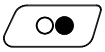
> «針 上／下»ボタンを２回押します。
  - 下糸が出てきます。

> 上糸と下糸を押えます。



> «スタート／ストップ»ボタンを押します。
  - BSRモードがスタートします。

> 5-6針留め縫いをします。



> «スタート／ストップ»ボタンを押します。
  - BSRモードが終了します。

> 糸を切ります。

BSR2モードでの留め縫い

前提条件：

- BSR押えを取り付け、ミシンに接続します。
- BSRディスプレイが開き、BSR２モードがオンになっている。

> 押え金を下げます。

> «留め縫い»留め縫いボタンを押します。

> フットコントローラーを踏み込むか、«スタート／ストップ»ボタンを押します。

布地を動かすことによって、短いステッチが数針縫われた後、設定した送り長さがオンになり、留め縫い機能は自動的にオフになります。

11　刺しゅう

11.1 刺しゅう機について

1	刺しゅうアーム		3	ミシンへの固定用金具
2	刺しゅう枠取り付け用金具		4	ミシンへの接続プラグ

11.2 付属アクセサリー

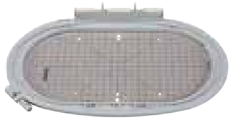
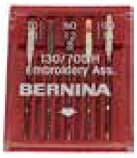
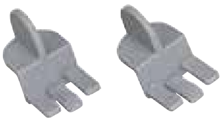
図	名称	用途
	刺しゅう押え No.26	刺しゅうや繕い縫い、フリーモーションキルティングなどに。
	楕円形刺しゅう枠 、145 x 255 mm テンプレート付き、VAR 00	広範囲の刺しゅうモチーフに。 刺しゅうテンプレートは、刺しゅう枠の調整と布地の取り付けの際に使用します。
	中型刺しゅう枠、100 x 130 mm テンプレート付き	中型の刺しゅうモチーフに。 刺しゅうテンプレートは、刺しゅう枠の調整と布地の取り付けの際に使用します。
	小型刺しゅう枠、72 x 50 mm テンプレート付き	小さな刺しゅうモチーフに。 刺しゅうテンプレートは、刺しゅう枠の調整と布地の取り付けの際に使用します。

図	名称	用途
	USB接続ケーブル	USB接続ケーブルは、データの取り込みの際に使用します。刺しゅうソフトウェア（オプション）がパソコンにインストールされている場合、刺しゅうモチーフをパソコンからミシンに取り込むことができます。
	刺しゅう針セット SUK	刺しゅう用の様々な針です。
	テンプレート用つまみ	テンプレート用つまみは刺しゅうテンプレートを刺しゅう枠に取り付けたりはずしたりする際に使用します。
	糸こまネット 白	糸こまネットは糸こまから滑りやすい刺しゅう糸の送りを均等に保ちます。

11.3 刺しゅうについての重要事項

刺しゅうモチーフの選択

薄地には、ステッチ数の少ないシンプルな刺しゅうモチーフが適しています。色を多く使い、多方向に広がる目のつまった刺しゅうモチーフには、中地や厚地の布地を選びます。

試し縫い

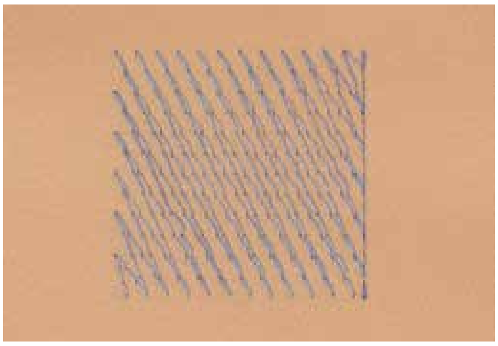
試し縫いは、常に作品と同じ布地と安定紙を使用します。また、実際に使用する糸や針を使用することをおすすめします。

刺しゅうモチーフの大きさ

刺しゅうモチーフは刺しゅう機またはパソコンでベルニナの刺しゅうソフトウェア　（オプション）を使用して、サイズの変更ができます。20%以内の拡大・縮小が最適な仕上がりになります。

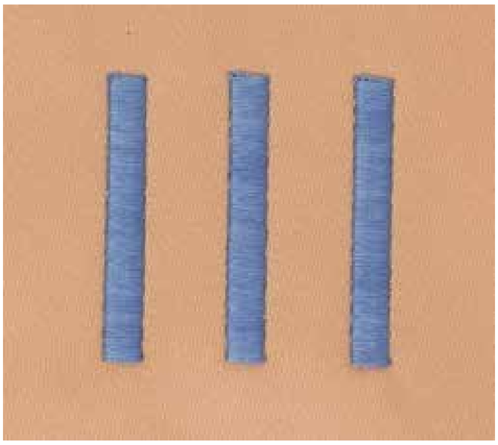
アンダーレイステッチ

アンダーレイステッチは刺しゅうモチーフの基礎となり、布地を安定させ、型くずれを防ぎます。また、ニットなどの生地にステッチが埋もれてしまうのを防ぎます。



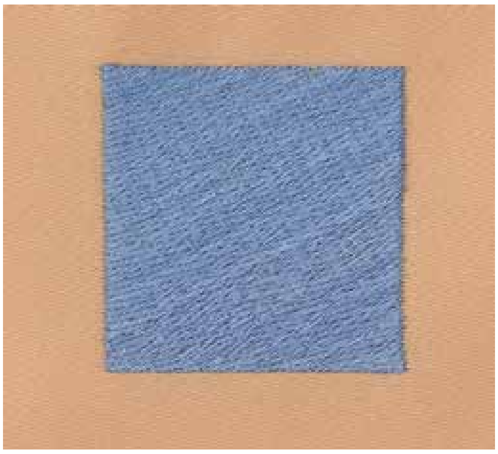
リーフステッチおよびサテンステッチ

リーフステッチおよびサテンステッチでは、細かくジグザグ縫いをして、スペースを埋めます。サテンステッチは狭いスペースを埋めるのに適しています。ステッチの幅を広くすると、糸が引っかかってしまったりして刺しゅうがきれいに仕上がらない恐れがあるので、大きなスペースを埋めるのには向いていません。



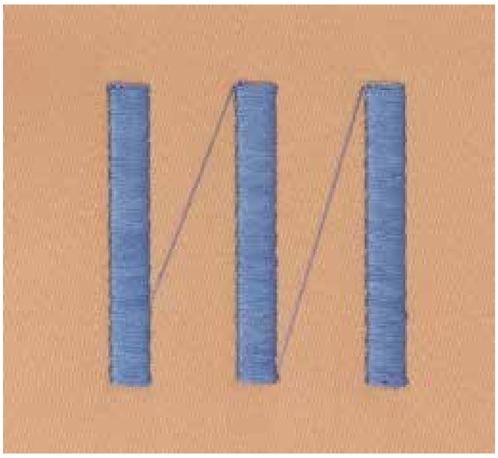
たたみ縫い

特定の長さの短いステッチを繰り返し、広範囲に細かく、目の詰まった刺しゅうをすることができます。



つなぎステッチ

前のモチーフから次のモチーフに移る際のつなぎになる長いステッチです。つなぎステッチの前後には留め縫いがされます。つなぎステッチは切り取ります。



036045.50.10_2014-10_Manual_B720_JA

上糸

刺しゅうの仕上がりをよくするために、また糸切れを起こさないために、高品質の刺しゅう糸を使用してください。

上糸を光沢のある細い刺しゅう糸にすることで、刺しゅうが特にきれいに仕上がります。多種多様で多彩な刺しゅう糸があります。

- 光沢のあるポリエステル糸は色あせがなく、強度もあり、あらゆる刺しゅうに適しています。
- レーヨン糸は輝きのある細い天然繊維から作られており、あまり強度を必要としない繊細な刺しゅうに向いています。
- メタリック糸は細～中細の光沢のある糸で、刺しゅうに特殊効果を与えます。
- メタリック糸を使用する際には、スピードを遅くし、上糸調子を緩めます。

下糸

ほとんどの場合、刺しゅうの下糸には黒か白の糸を使用しますが、刺しゅうの表と裏を同じように仕上げたい場合には、上糸と下糸の色を合わせます。

- ボビン用下糸は特にしなやかな細いポリエステル糸で、刺しゅうの下糸に適しています。
- この特殊な下糸を使用することによって糸調子が安定し、上糸と下糸のバランスが最適になります。
- 光沢のある細い木綿糸は、綿の布地に刺しゅうをする際に適しています。

破り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。 破り取る安定紙は伸縮性のない全ての織地に適しています。 必要に応じて1～2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがあります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙はゆっくりと破り取ります。

切り取る安定紙

安定紙を使用することによって、刺しゅうの仕上がりがよりしっかりとします。切り取る安定紙は全ての伸縮性のある布地に適しています。必要に応じて1～2枚の安定紙を使用します。安定紙には様々な強度のものがあります。広範囲の刺しゅうモチーフの場合、安定紙は刺しゅう後、取り除かないでおきます。安定紙はスプレーのりで布地の裏側に固定します。余分な安定紙は切り取ります。

11.4 刺しゅう機能について

1	上糸調子	6	下糸残量表示
2	押え金表示／押え金選択	7	選択
3	刺しゅう枠の選択／表示	8	編集
4	針板／針選択	9	色
5	送り歯 上／下	10	刺しゅうをする

11.5 刺しゅうの準備

刺しゅう押え No.26を取り付ける

> 針を上げます。
> 押え金をあげます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 押え金取り付けレバーを上に上げます。

> 押え金をはずします。
> 刺しゅう押え No. 26を下から差し込みます。
> 取り付けレバーを下に下げます。

刺しゅう押え No.26を選択する

刺しゅう押え No. 26を取り付けると、 押え金を選択およびミシンに保存することができるようになります。さらに選択した刺しゅうモチーフに対応して、その他の適した押え金も表示されます。

> ミシンの電源を入れます。
> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «押え金表示／押え金選択»アイコンをタッチします。

> 刺しゅう押えNo. 26を選択します。

刺しゅう針を取り付ける

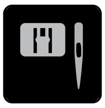
刺しゅう針130/705 H-SUKは、大きな針穴と、軽く丸まった針先をしており、レーヨンや木綿糸の糸切れを防止します。刺しゅう糸によって、針の番手はNo. 70-SUKからNo. 90-SUKをお勧めします。

> 針を上げます。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 押え金をはずします。
> 針止めネジを灰色の特殊ドライバーで緩めます。

> 針を下に引っ張ります。
> 針の平らな面を後ろにします。
> 針を上までしっかりと差し込みます。
> 針止めネジを灰色の特殊ドライバーで締めます。

刺しゅう針を選択する

針を交換すると、その針が選択した針板に適しているかどうかを確認します。

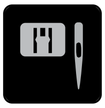


> «針／針板選択»アイコンをタッチします。
> 取り付けた針を選択します。

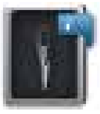
- 選択した針が針板に適している場合には、刺しゅうを始めることができます。
- 選択した針が針板に適していない場合には、ミシンが自動的に動かないようになります。

針のタイプと番手を選択する

便利なメモリー機能：針のタイプと針の番手を、ミシンに保存することができます。保存した針のタイプと番手はいつでも確認することができます。



> «針／針板選択»アイコンをタッチします。



> «針のタイプ／針の番手»アイコンをタッチします。
> 現在取り付けられている針のタイプ(1)を選択します。
> 現在取り付けられている針の番手(2)を選択します。

カットワーク／直線縫い用針板を取り付ける

カットワーク／直線縫い用針板には小さな穴が開いていて、上糸と下糸のバランスを最適にし、ステッチの仕上がりを良くします。

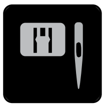
> 送り歯(1)を下げます。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> 針を取り外します。
> 押え金を外します。
> 針板の右上の印を押して、針板を浮かせます。

> 針板を取り外します。
> カットワーク／直線縫い用針板の穴を、それぞれのピンに合うように置き、カチッとはまるまで押し下げます。

カットワーク／直線縫い用針板を選択する

針板を交換すると、その針板が選択した針に適しているかどうかを確認します。



> «針板／針選択»アイコンをタッチします。
> カットワーク／直線縫い用針板を選択します。

刺しゅう機を取り付ける

注意

刺しゅう機の持ち運び

刺しゅう機とミシンの損傷を防ぐために。

> 持ち運びの際には、刺しゅう機はミシンから取り外してください。

前提条件：

- ソーイングテーブルは取り付けないでおきます。

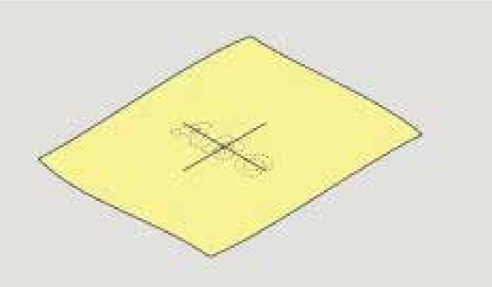
> 刺しゅう機とミシンを安定した、平らなテーブルなどの作業台に置きます。
> 刺しゅうアームが動くのに十分なスペースを確保します。
> 刺しゅう機の左側を持ち上げます。
> 刺しゅう機を左からゆっくりとスライドさせて、ミシンに取り付けます。

> 刺しゅう機を取り外す際には、刺しゅう機の左側を持ち上げて、ゆっくりとひっぱります。

刺しゅう枠を準備する

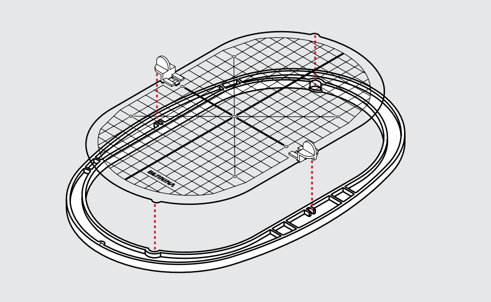
刺しゅう枠には外枠と内枠があります。それぞれの刺しゅう枠に専用のテンプレートが付属しています。刺しゅう可能な範囲には、1cmの方眼が描かれています。中央の線の中心と端には穴が開いており、布地に印をつけることができます。

> 刺しゅうモチーフの中央に水性ペンで印をつけます。

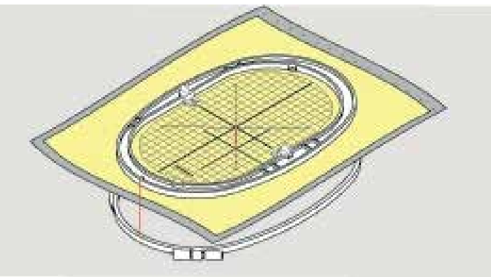


> 外枠の取り付けネジを緩めます。
> 内枠を取り外します。
> 内枠と外枠の矢印が合うようにします。

> テンプレートホルダーを取り付けます。
> テンプレートを枠のBERNINAのロゴと矢印が合うように内枠にセットします。



> 布地を内枠の下にセットします。
> 刺しゅうモチーフの中心をテンプレートの中心に合わせます。
> 内枠と外枠の矢印が合うように、布地と内枠を外枠の上に乗せます。



> 布地がずれないように、二つの枠を重ねます。
> 布地を刺しゅう枠に張ります。
> ネジを締めます。
> テンプレートをテンプレート用つまみを持って持ち上げ、刺しゅう枠からはずします。

スプレーのりを使用する

スプレーのりは、すべての伸縮性のある布地や滑りやすい布地、ニット地に刺しゅうをする際に使用することをお勧めします。布地がずれたり滑ったりするのを防ぎます。スプレーのりを使用することで、アップリケなどの細かいパーツの位置がしっかりと決まります。ミシンが汚れないように、スプレーのりはミシンの側では使用しないようにしてください。

> スプレーのりは25-30cm離れたところから安定紙にスプレーします。
> 布地とスプレーのりをつけた安定紙を、しわがよらないようにくっつけます。
> ズボンのポケットや襟などの小さなパーツを、安定紙に固定する際に。
> パイル地やポーラーフリースなど、刺しゅう枠を使用すると枠の跡が残ってしまうような布地を使用する際には、布地を固定した安定紙を代わりに刺しゅう枠にセットします。
> 刺しゅうをした部分を定着させる際に。

スプレー洗濯のりを使用する

スプレー洗濯のりは、薄手の柔らかい布地や目の粗い布地に張りを与える際に使用します。布地の裏には更に安定紙を使用します。

> 布地にスプレー洗濯のりをスプレーします。
> 布地を良く乾かし、必要に応じてアイロンをかけます。

アイロン接着芯を使用する

アイロン接着芯には、様々な厚さのものがあります。布地から簡単にはがせる接着芯を使用することをお勧めします。アイロン接着芯は、トリコットやジャージーのような伸縮性のある、歪みやすい薄手の布地に適しています。

> アイロンをかけて、接着芯を布地の裏側にくっつけます。

のり付き安定紙を使用する

のり付き安定紙は、ジャージーやシルクのような薄地や、刺しゅう枠にセットしにくい部分などに使用します。

> 安定紙の台紙の部分が上に来るように、刺しゅう枠にセットします。
> 台紙にはさみなどで切れ込みをいれ、はがします。
> 布地を安定紙の上に置き、くっつけます。
> ミシンをスタートさせる前に、余分なのりを取り除きます。

水溶性安定紙を使用する

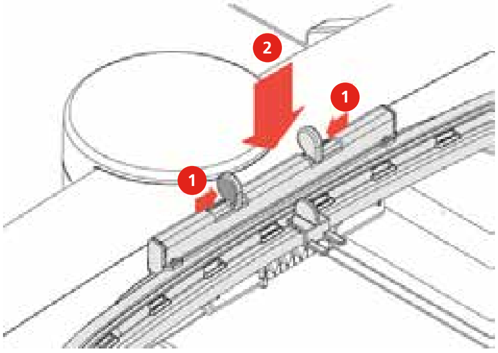
レース刺しゅうは、土台の布がなく、刺しゅうモチーフのみが作品となるので、水溶性の安定紙を使用します。1 - 3枚の水溶性安定紙を刺しゅう枠にセットします。刺しゅうモチーフは全体がつなぎステッチで連結されていなければ出来上がりの際にモチーフがばらばらになってしまうので、注意が必要です。

水溶性安定紙は刺しゅうをした後に水で洗い、取り除きます。パイル地のような布地の毛足を傷つけないためには、水溶性安定紙が特に適しています。また、糸が沈んで土台布が見えてしまうのを防ぐことができます。水溶性安定紙は、レース刺しゅうや、他の安定紙が透けてしまうような薄地に刺しゅうをする際に適しています。

> 安定紙を布地の表側に乗せます。
> 安定紙と布地を刺しゅう枠に張ります。
> 必要に応じてスプレーのりを使用します。
> パイル地などの毛足の長い布地には、裏側に更に安定紙をつけ、補強をします。
> 刺しゅうモチーフを洗い、平らな場所に置いて乾かします。

刺しゅう枠を取り付ける

> 針を上げます。
> 刺しゅう押えを上げます。
> 刺しゅう枠を布の表を上に、取り付け金具を左側にして持ちます。
> 刺しゅう枠を刺しゅう押えの下に入れます。
> 刺しゅう枠取り付け金具のつまみ(1)を両側から挟んで押します。
> 刺しゅう枠(2)を刺しゅうアームの取り付け金具にはめます。
> 刺しゅう枠がはまるまで、下に押します。
> つまみ(1)を放します。



> 刺しゅう枠取り付け金具のつまみを両側から挟んで押します。
> 刺しゅう枠を取り外します。

11.6 刺しゅうモチーフを選択する

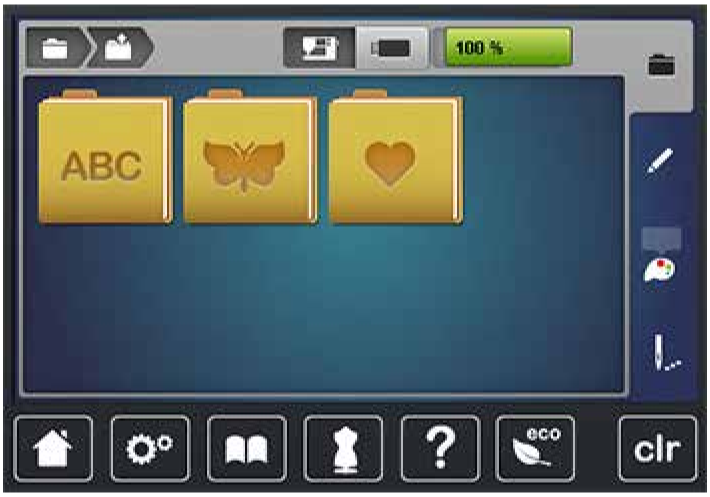
全ての刺しゅうモチーフは、そのままのデザインで刺しゅうするか、または刺しゅう機の様々な機能を使用して手を加えることができます。全ての刺しゅうモチーフは、刺しゅうモチーフ一覧で見ることができます。（参照ページ: 155）さらにユーザーメモリーやベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に保存された刺しゅうモチーフも使用することができます。

> 送り歯(1)を下げます。

> カットワーク／直線縫い用針板を取り付けます。 (参照ページ: 121)
> 針を取り付けます。 (参照ページ: 119)
> 刺しゅう押えNo. 26を取り付けます。 (参照ページ: 118)

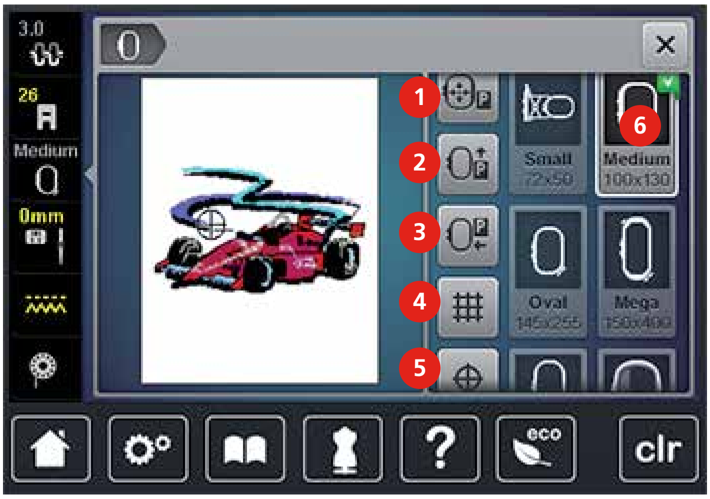
> «ホーム»アイコンをタッチします。

> «刺しゅうモード»アイコンをタッチします。
> アルファベット、刺しゅうモチーフ、ステッチパターンまたは独自の刺しゅうモチーフをファイルから選択します。



11.7 刺しゅう枠

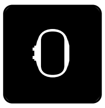
刺しゅう枠の表示について



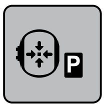
1	刺しゅう枠を左に移動する	4	補助線
2	刺しゅう枠を後ろへ移動する	5	刺しゅうモチーフの中心
3	刺しゅう機を待機させる	6	刺しゅう枠の表示

刺しゅうモードで上糸を交換する

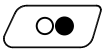
針が刺しゅう枠の側にある場合には、刺しゅう枠をずらすと上糸を通しやすくなります。



> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをタッチします。



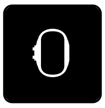
> «刺しゅう枠を左に移動する»アイコンをタッチします。
> 上糸を通します。 （参照ページ: 39）



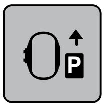
> «スタート／ストップ»ボタンを押して、刺しゅう枠を元の位置に戻します。

刺しゅうモードで下糸を交換する

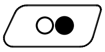
下糸を交換する前に、刺しゅう枠を後ろへ移動させると、釜カバーを開けやすくなり、下糸を通しやすくなります。



> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをタッチします。



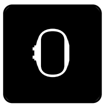
> «刺しゅう枠を後ろへ移動する»アイコンをタッチします。
> 下糸を通します。 （参照ページ: 44）



> «スタート／ストップ»ボタンを押して、刺しゅう枠を元の位置に戻します。

刺しゅう機を接続したままでソーイングをする

刺しゅう機を接続したままでソーイングができるよう、刺しゅう機を待機させることができます。



> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをタッチします。
> 刺しゅう枠を取り外します。

> «刺しゅう枠を待機させる»アイコンをタッチします。

> «ホーム»アイコンをタッチします。

> «ソーイングモード»アイコンをタッチします。

補助線の設定

刺しゅう枠の中心と方眼を表示することによって、刺しゅうモチーフを正確にレイアウトすることができます。

> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをタッチします。

> «方眼の表示／非表示»アイコンをタッチすると、刺しゅう枠の中心がディスプレイに表示されます。
> «方眼の表示／非表示アイコン»をもう一度タッチすると、方眼が表示されます。
> «方眼の表示／非表示アイコン»を更にもう一度タッチすると、中心と方眼が非表示になります。

刺しゅうモチーフの中心を選択する

> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをタッチします。

> «刺しゅうモチーフの中心»アイコンをタッチすると、 針が刺しゅうモチーフの中心に来るように刺しゅう枠が移動します。
> «刺しゅうモチーフの中心»アイコンをもう一度タッチすると、針がモチーフの始まりの上に来るように刺しゅう枠が移動します。

刺しゅう枠の位置を変える

刺しゅうモチーフの位置を変えると、刺しゅう枠が自動的に移動します。刺しゅう枠が取り付けられている時は«刺しゅう枠ポジション»は自動的にオンになり、 黄色い枠が表示されます。刺しゅう枠が取り付けられていない時は、 «刺しゅう枠ポジション»を選択することはできません。

前提条件：

・ 刺しゅう枠を取り付けます。

> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをタッチします。

> «刺しゅう枠ポジション»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフの位置を変えた際に刺しゅう枠が自動に移動する機能がオフになります。
> «刺しゅう枠ポジション»アイコンをもう一度タッチすると、刺しゅうモチーフの位置を変えた際に刺しゅう枠が自動に移動する機能がオフになります。

11.8 刺しゅうモチーフを編集する

刺しゅうモチーフの編集について

1	表示を拡大する	6	刺しゅうモチーフを回転させる
2	刺しゅうモチーフを移動する	7	刺しゅうモチーフを削除する
3	左右反転	8	ステッチのタイプ／密度を変更する
4	刺しゅうモチーフ比例的に拡大・縮小する	9	刺しゅうモチーフの大きさを確認する
5	上下反転		

1	表示を縮小する	3	表示を移動する
2	表示を拡大する	4	刺しゅうモチーフの表示を移動する

刺しゅう時間を確認する

«編集»ディスプレイの右下(1) に推定の刺しゅう時間が分単位で、刺しゅうモチーフの幅と長さがミリメートル単位で表示されます。

上糸調子を設定する

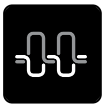
上糸調子の標準設定はステッチパターンおよび刺しゅうモチーフによって自動的に設定されています。

上糸調子はベルニナの製造所で最適な状態に設定されています。上糸および下糸調子の初期設定に使われた糸は、メトロシーン／セラロン100/2（スイス、メトラー社）です。

その他のミシン糸または刺しゅう糸を使用する場合には、上糸調子に不具合が生じてしまうことがあるので、布地およびステッチパターンに合わせて、上糸調子を調整してください。

上糸調子を強めるほど上糸が張って、下糸を布地に強く引き付けます。上糸を弱めると、上糸の張りが弱くなり、下糸を布に引き付ける力が弱まります。

上糸調子の変更（参照ページ: 51)それぞれ選択したステッチパターンまたは刺しゅうモチーフに有効です。上糸調子を全てのソーイングステッチまたは刺しゅうモチーフに有効にするには、セットアッププログラムから、それぞれのモードの上糸調子を設定する（参照ページ: 48）で変することができます。



> «上糸調子»アイコンをタッチします。

> スライダーをタッチペンまたは指でスライドさせて、上糸調子を変更します。

> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

表示を変更する

刺しゅうモチーフの表示は拡大・縮小することができます。さらに表示は変更の有無にかかわらず、刺しゅう位置に合わせることができます。

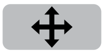
> 刺しゅうモチーフを選択します。

> «表示を拡大する»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフの表示を編集することができます。

> «表示を拡大する»アイコンを１ - ４回タッチするごとに、 刺しゅうモチーフの表示が拡大されます。

> «表示を縮小する»アイコンを１ - ４回タッチするごとに、 刺しゅうモチーフの表示が縮小されます。

> «表示を移動する»アイコンをタッチします。
> タッチペンまたは指で、刺しゅうモチーフの表示位置を移動させます。
- 刺しゅうをする位置は変更されません。

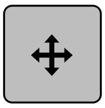


> «刺しゅうモチーフの表示を移動する»アイコンをタッチします。
> タッチペンまたは指で刺しゅうモチーフの表示を動かします。
- 刺しゅうをする位置が変更されます。

> «表示を縮小する»アイコンをタッチすると、編集モードに戻ります。

刺しゅうモチーフを移動する

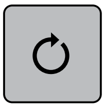
> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



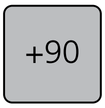
> «刺しゅうモチーフを移動する»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 上»を回すと、横方向（水平）に刺しゅうモチーフが移動します。
> «多機能ボタン 下»を回すと、縦方向（垂直）に刺しゅうモチーフが移動します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

刺しゅうモチーフを回転させる

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



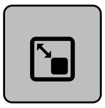
> «刺しゅうモチーフを回転させる»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を右に回すと、 刺しゅうモチーフは時計回りに回転します。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を左に回すと、 刺しゅうモチーフは反時計回りに回転します。



> «刺しゅうモチーフを90° ずつ回転させる»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフは90° ずつ回転します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

サイズを比例的に変更する

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «刺しゅうモチーフを比例的に変更する»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を右に回すと、刺しゅうモチーフは比例的に拡大します。
> «多機能ボタン 上»または«多機能ボタン 下»を左に回すと、刺しゅうモチーフは比例的に縮小します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

刺しゅうモチーフを反転させる

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

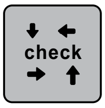
> «左右反転»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが横方向（水平）に反転します。

> «上下反転»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが縦方向（垂直）に反転します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

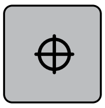
刺しゅうモチーフの大きさを確認する

刺しゅうモチーフが刺しゅう枠に入るサイズであるか、確認することができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



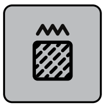
> «刺しゅうモチーフの大きさを確認する»アイコンをタッチします。
> «左上角»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの左上の角を選択します。
> «右上角»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの右上の角を選択します。
> «左下角»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの左下の角を選択します。
> «右下角»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの右下の角を選択します。



> «刺しゅうモチーフの中心»アイコンをタッチて、刺しゅうモチーフの中心を選択します。
> «多機能ボタン 上»を回すと、横方向（水平）に刺しゅうモチーフが移動します。
> «多機能ボタン 下»を回すと、縦方向（垂直）に刺しゅうモチーフが移動します。

サテンステッチをたたみ縫いに変更する

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

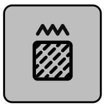


> «ステッチのタイプ／密度を変更する»アイコンをタッチします。
> ディスプレイの上部のスイッチ(1)をタッチすると、たたみステッチを設定することができます。

> ひつようなステッチの長さ(2)を、«–»または«+»アイコンをタッチして設定します。

ステッチの密度を変更する

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。

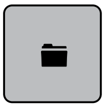


> «ステッチのタイプ／密度を変更する»アイコンをタッチします。
> 必要なステッチの密度(1)を«–»または«+»アイコンをタッチして設定します。

11.9 刺しゅうモチーフの管理

刺しゅうモチーフをユーザーメモリーに保存する

> 刺しゅうモチーフを編集します。
> «選択»アイコンをタッチします。



> «刺しゅうモチーフの保存»アイコンをタッチします。
  - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。
  - «刺しゅう機»アイコンがアクティブになります。

> «決定»アイコンをタッチします。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーに保存する

> 刺しゅうモチーフを編集します。
> «選択»アイコンをタッチします。
> «刺しゅうモチーフの保存»アイコンをタッチします。
  - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。
> ベルニナUSBメモリーを接続部(1)に差し込みます。

> «USBメモリー»アイコンをタッチします。
> «決定»アイコンをタッチします。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

> 刺しゅうモチーフを編集します。
> «選択»アイコンをタッチします。
> «刺しゅうモチーフの保存»アイコンをタッチします。
  - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。
  - «刺しゅう機»アイコンがアクティブになります。
> 上書きする刺しゅうモチーフを選択します。
> «決定»アイコンをタッチします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを上書きする

> 刺しゅうモチーフを編集します。
> «選択»アイコンをタッチします。
> «刺しゅうモチーフの保存»アイコンをタッチします。
  - 保存する刺しゅうモチーフが黄色い枠で囲まれます。
> ベルニナUSBメモリーを接続部(1)に差し込みます。

> «USBメモリー»アイコンをタッチします。

> 上書きする刺しゅうモチーフを選択します。
> «決定»アイコンをタッチします。

刺しゅうモチーフをユーザーメモリーから呼び出す

> «選択»アイコンをタッチします。

> «刺しゅうモチーフを呼び出す»アイコンをタッチします。

> フォルダー«マイデザイン»を選択します。
> 刺しゅうモチーフを選択します。

刺しゅうモチーフをベルニナUSBメモリーから呼び出す

> «選択»アイコンをタッチします。
> ベルニナUSBメモリーを接続部(1)に差し込みます。

> «USBメモリー»アイコンをタッチします。
> マイデザインを選択します。

ユーザーメモリーの刺しゅうモチーフを消去する

ユーザーメモリーに保存された刺しゅうモチーフを一つずつ消去することができます。またセットアッププログラムから全てのモチーフを一度に消去することもできます。 (参照ページ: 57)

> «選択»アイコンをタッチします。

> «刺しゅうモチーフを消去する»アイコンをタッチします。

- «刺しゅう機»アイコンがアクティブになります。

> 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。
> «決定»アイコンをタッチします。

ベルニナUSBメモリーの刺しゅうモチーフを消去する

> «選択»アイコンをタッチします。

> «刺しゅうモチーフを消去する»アイコンをタッチします。

> ベルニナUSBメモリーを接続部(1)に差し込みます。

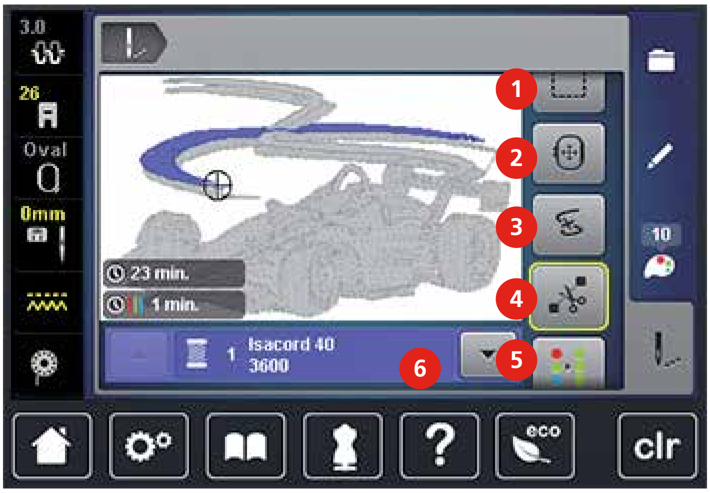
> «USBメモリー»アイコンをタッチします。

> 消去したい刺しゅうモチーフを選択します。

> «決定»アイコンをタッチします。

11.10 刺しゅうメニュー

刺しゅうメニュー一覧



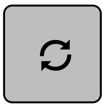
1	しつけ縫い	4	つなぎステッチを切る
2	刺しゅう枠の移動	5	複数色の刺しゅうモチーフ オン／オフ
3	糸切れの際に刺しゅうの手順を確認する	6	色表示

刺しゅうモチーフの色を変更する

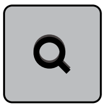
文字列は常に単色で刺しゅうされます。一文字ごとおよび一単語ごとに色を変える場合には、それぞれ別々に選択して、刺しゅうをする範囲に配置しなくてはなりません。

> 刺しゅうモチーフを選択します。

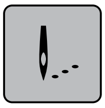
> «色»アイコンをタッチします。



> 変更したい色の横の«色／メーカーを変更する»アイコンをタッチします。
> タッチペンまたは指で画面を上下にスライドさせると、その他の色が表示されます。



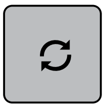
> «色番号で選択する»アイコンをタッチして、色番号を直接入力して選択します。
> 使用したい色を選択します。



> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。

糸メーカーを変更する

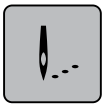
> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «色»アイコンをタッチします。



> «色／メーカーを変更する»アイコンをタッチします。

> «スクロール 右上»アイコンをタッチして、その他の糸メーカーを表示します。
> タッチペンまたは指で画面を上下にスライドさせると、その他の糸メーカーが表示されます。

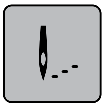
> 全ての糸メーカーを変更します。

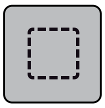


> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。

しつけ縫いステッチを追加する

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。



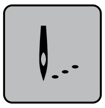


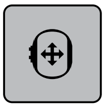
> «しつけ縫い»アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフに沿ってしつけ縫いがされます。
> «しつけ縫い»アイコンをもう一度タッチすると、刺しゅう枠に沿ってしつけ縫いがされます。
> «しつけ縫い»アイコンを更にもう一度タッチすると、しつけ縫い機能がオフになります。

刺しゅう枠の移動

刺しゅうモチーフが大きくて刺しゅう枠に布地を張り替えなければならない場合、刺しゅう枠をすでに刺しゅうしたモチーフの最後のステッチの位置まで動かすことができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。





> «刺しゅう枠の移動»アイコンをタッチします。
> «多機能ボタン 上»を回すと、刺しゅう枠が横方向（水平）に動きます。
> «多機能ボタン 下»を回すと、刺しゅう枠が縦方向（垂直）に動きます。

針の位置を直す

糸が切れた場合、刺しゅうの手順を確認する機能を使って、針の位置を直すことができます。

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。
> «糸切れの際に刺しゅうの手順を確認する»アイコンをタッチします。
  - ディスプレイの左側に刺しゅうモチーフの縮小図が、右側には拡大図が表示されます。
> タッチペンまたは指を使って、針を置きたい位置を、縮小図上で選択します。
> «多機能ボタン　上»を回すと、刺しゅう枠が少しずつ動きます。
> «多機能ボタン　下»を回すと、刺しゅう枠が一度に大きく動きます。
> «ルーペ»アイコンをタッチすると、 針を移動したいステッチを入力して選択することができます。

つなぎステッチを切る

つなぎステッチを切る機能は標準設定されていて、つなぎステッチは自動的にカットされます。この機能をオフにした場合には、つなぎステッチは手で切る必要があります。

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。
> 黄色い枠で囲まれた«つなぎステッチを切る»アイコンをタッチすると、機能がオフになります。

単色で刺しゅうをする

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。
> «複数色の刺しゅうモチーフ　オン／オフ»アイコンをタッチします。

色ごとに刺しゅうをする

刺しゅうモチーフの色は一つずつ選択することができます。刺しゅう枠は現在選択されている色の最初のステッチの部分へ移動します。選択された色の部分を一度に刺しゅうするか、またはその他の順番で刺しゅうすることもできます。 この場合、つなぎステッチは見えている状態のままになります。

> 刺しゅうモチーフを選択します。
> «刺しゅうをする»アイコンをタッチします。
> «スクロール　下»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの次の色を選択します。
> «スクロール　上»アイコンをタッチして、刺しゅうモチーフの前の色を選択します。

11.11 《スタート／ストップ》ボタンを使って刺しゅうをする

> «スタート／ストップ»ボタンを、刺しゅう機が動き出すまで長押しします。
  - 刺しゅう機はおよそ7針縫った後、自動的に停止します。

> 刺しゅう押えを上に上げます。
> 画面表示に沿って、縫い始めの糸を切ります。
> «スタート／ストップ»ボタンを押して、刺しゅうを続けます。
- 現在選択されている色のすべての部分が刺しゅうされます。
- 刺しゅう機は縫い終わると自動的に停止します。
- 上下の糸が自動的にカットされます。
- 刺しゅう機は自動的に次の色に移ります。

> 上糸を次の色に交換します。
> 新しい色で刺しゅうをします。
- 刺しゅうが終了するとミシンが自動的に停止し、糸が自動的に切られます。

11.12 フットコントローラーを使って刺しゅうをする

フットコントローラーを使った刺しゅうは、小さな部分を刺しゅうするときに便利です。フットコントローラーで刺しゅうをする場合には、常にフットコントローラーを踏んだ状態にしておきます。

> フットコントローラーを踏み込んで、刺しゅうを始めます。
- 刺しゅう機はおよそ7針縫った後、自動的に停止します。

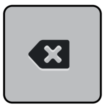
> フットコントローラーから足を離します。
> 刺しゅう押えを上に上げます。
> 画面表示に沿って、縫い始めの糸を切ります。
> フットコントローラーを踏み込んで、刺しゅうを続けます。

11.13 文字列を入力する

文字列は常に単色で刺しゅうされます。一文字ごとおよび一単語ごとに色を変える場合には、それぞれ別々に選択して、刺しゅうをする範囲に配置しなくてはなりません。

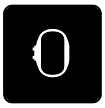
文字列の位置は、刺しゅう枠内で自由に決めることができます。刺しゅうモチーフが刺しゅう可能な範囲の外に出ている場合には、ディスプレイ上の刺しゅう枠が赤い枠で囲まれます。この場合刺しゅう枠選択で、刺しゅうしたいモチーフに合った刺しゅう枠を探すことができます。一つの文字列が刺しゅう枠に入りきらない場合は、分けて文字列を作成することができます。以下に例をあげて説明します。

> フォルダー«アルファベット»を選択します。
> 書体を選択します。
> 文字列«Made to»を入力します。
> アイコン(1)をタッチ（標準設定）すると、大文字になります。
> アイコン(2)をタッチすると、小文字になります。
> アイコン(3)をタッチすると、数字および算術記号になります。
> アイコン(4)をタッチすると、特殊文字になります。



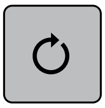
> «削除»アイコンをタッチすると、入力した文字が一つずつ削除されます。

> «決定»アイコンをタッチして、文字列を決定します。

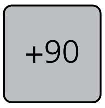


> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをタッチします。
> 刺しゅう枠を選択します。
> «刺しゅう枠の表示／選択»アイコンをもう一度タッチすると、編集モードに戻ります。

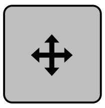
> «i»ダイアログアイコンをタッチします。



> «刺しゅうモチーフを回転させる»アイコンをタッチします。



> «+90»アイコンをタッチすると、文字列が90° 回転します。
> «i»アイコン(1)をタッチします。



> «刺しゅうモチーフを移動する»アイコンをタッチします。
> 《多機能ボタン 上》アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが横方向（水平）に移動します。
> 《多機能ボタン 下》アイコンをタッチすると、刺しゅうモチーフが縦方向（垂直）に移動します。
> 黄色い枠で囲まれたアイコンをタッチすると、標準設定に戻ります。

12　付記

12.1 お手入れとクリーニング

ディスプレイを掃除する

> ディスプレイは柔らかく、軽く濡らしたマイクロファイバーの布で拭きます。

送り歯を掃除する

⚠ 注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

針板の下にたまった糸くずは、時々取り除くようにします。

> 押え金と針を取り外します。

> «送り歯　上／下»ボタン(1)を押すと、送り歯が下がります。

> 針板を取り外します。

> 送り歯をブラシで掃除します。

ミシンに注油をする

⚠ 注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

前提条件：

・　針板を取り外します。

> 付属品のベルニナオイルを油溜に一滴注します。

釜を掃除する

注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

> 釜カバーを開けます。
> ボビンケースを取り出します。
> 取り外しレバーを左に押します。

> 黒の大釜カバーを開きます。
> 留め金をはずします。

> ブラシで釜内部を掃除します。先の尖った金属などは使用しないでください。
> 中釜の中央のピンを指でつまみます。
> 中釜の下側を先にいれ、大釜カバーの奥に上から下へ差し込むように入れます。
> 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、色つきの印が見えるようにセットします。
> 中釜を入れます。
- 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
> 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
> はずみ車を回して確認します。
> ボビンケースを取り付けます。

釜に注油をする

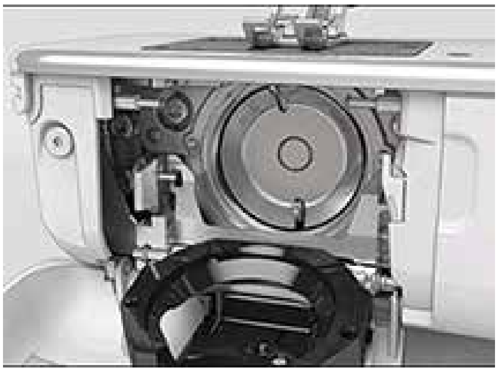
⚠ 注意

電動部品の取り扱いについて

針と釜の部分でけがをするおそれがあります。
> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。

> ボビンケースをはずします。
> 取り外しレバーを左に押します。

> 黒の大釜カバーを開きます。
> 留め金をはずします。



> フェルトが湿るように、ベルニナオイルを二つの油溜に注します。赤い印のついた釜軸にはオイルがつかないようにします。

> 中釜の中央のピンを指でつまみます。
> 中釜の下側を先にいれ、黒の釜カバーの奥に上から下へ差し込むように入れます。
> 中釜を二つのカムがそれぞれの穴に合うようにし、色つきの印が見えるようにセットします。
> 中釜を入れます。
  - 中釜は磁石になっているので、正しい位置に装着されます。
> 大釜カバーを閉じて、留め金を閉じます。
> はずみ車を回して確認します。
> ボビンケースを取り付けます。

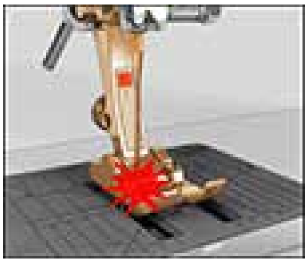
12.2 トラブルシューティング

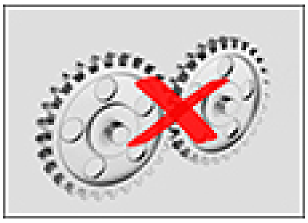
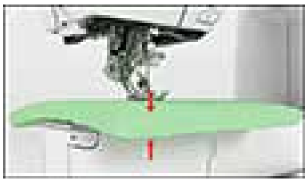
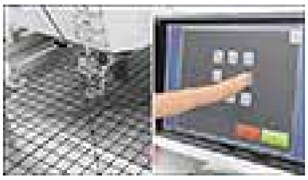
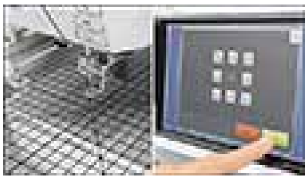
トラブル	原因	対策
縫い目が一定でない	上糸が強すぎる／弱すぎる。	> 上糸調子を調節します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 新しいベルニナの高品質な針に交換します。
	針の質が悪い。	> 新しいベルニナの高品質な針に交換します。
	糸の質が悪い。	> 品質の良い糸を使用します。
	針と糸の組み合わせが合っていない。	> 糸の番手に適切な針を選びます。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	布地が引っ張られる。	> 布送りを均等にします。
縫い目が一定でない	ボビンケースが合っていない。	> 付属アクセサリーのボビンケースを使用します。
ステッチの目がとぶ	針が合っていない。	> 130/705Hシステムの針を使用します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 針を交換します。
	針の質が悪い。	> 新しいベルニナの高品質な針に交換します。
	針が正しく取り付けられていない。	> 針の平らな部分を後ろ側にしてしっかり上まで差し込み、ネジを締めます。
	針先の形が合っていない。	> 布地に合った形の針先の針を使用します。
ステッチの目がそろわない	上糸テンションディスクに糸くずなどが挟まっている。	> テンションディスクに二つ折りにした薄い布地（布端は使用しない）を通し、糸くずなどを取ります。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	ボビンケースの糸調子バネの下に糸くずがついている。	> 糸調子バネの下にたまった糸くずを取り除きます。

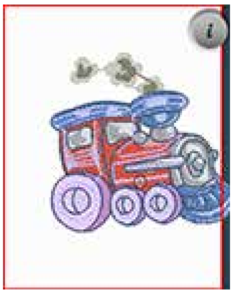
トラブル	原因	対策
上糸が切れる	針と糸の組み合わせが合っていない。	> 糸の番手に適切な針を選びます。
	上糸調子が強すぎる。	> 上糸調子を緩くします。
	糸掛けが間違っている。	> 糸を掛けなおします。
	糸の質が悪い。	> 品質の良い糸を使用します。
	針板の針穴周りまたは釜の剣先が傷ついている。	> ベルニナ正規販売代理店に持ち込み、修理を依頼します。 > 針板を交換します。
	糸が天秤に引っかかっている。 	> 特殊L型レンチで、天秤保護カバーのネジ(1)をはずします。 > カバーの下の部分をゆっくりと手前に引きます。 > カバーを軽く上に持ち上げて、取り外します。 > 糸くずを取り除きます。 > カバーを戻してネジを締めます。
下糸が切れる	ボビンケースが傷ついている。	> ボビンケースを交換します。
	針板の針穴周りに傷がついている。	> ベルニナ正規販売代理店に持ち込み、修理を依頼します。 > 針板を交換します。
	針先が鈍い、または針が曲がっている。	> 針を交換します。
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	> 針の平らな部分を後ろ側にしてしっかり上まで差し込み、ネジを締めます。
	布地が引っ張られる。	> 布送りを均等にします。
	厚地の布地がずれる。	> ジーンズ押え No.8などの、厚地に適した押え金を使用します。 > 布地の厚くなった部分を縫う際に、高さ調節板を使用します。
	糸が絡まる。	> 品質の良い糸を使用します。
ディスプレイが反応しない	調整が間違っている。	> ミシンの電源を切ります。 > ミシンの電源を入れると同時に«針 左／右»ボタンを長押しします。 > ディスプレイが調整されます。
	エコモードがオンになっている。	> «エコ»アイコンをタッチします。
振り幅が選択できない	取り付けられている針と針板が一緒に使用できない。	> 針を交換します。 > 針板を交換します。

トラブル	原因	対策
ソーイングスピードが遅い	室温が適切でない。	> 使用する1時間前に、ミシンを常温の部屋に置いておきます。
	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでソーイングスピードを調節します。 > スピードコントローラーを調節します。
ミシンが動かない	室温が適切でない。	> 使用する1時間前に、ミシンを常温の部屋に置いておきます。 > ミシンの接続コードを確認し、電源をいれます。
	ミシンが故障している。	> ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。
《スタート／ストップ》ボタンのライトが点灯しない	ライトが故障している。	> ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。
ソーイングライトとフリーアームのライトが点灯しない	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでオンにします。
	ライトが故障している。	> ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。
上糸センサーが機能しない	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでオンにします。
	上糸センサーが故障している。	> ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。
下糸センサーが機能しない	セットアッププログラムで設定している。	> セットアッププログラムでオンにします。
	下糸センサーが故障している。	> ベルニナ正規販売代理店に修理を依頼します。
ソフトウェアアップデートのエラー	USBメモリーが認識されない。	> ベルニナUSBメモリーを使用します。
	アップデート処理が中断され、ディスプレイに砂時計が表示されたままになる。	> USBメモリーを取り外します。 > ミシンの電源を切ります。 > ミシンの電源を入れます。 > ディスプレイの指示に従います。
	アップデートデータが見つからない。	> 圧縮(ZIP)ファイルを解凍します。 > アップデートのデータをUSBメモリーのファイルなどに解凍せず、 直接その場に解凍します。

12.3 エラー表示

ディスプレイ表示	原因	対策
	直接入力したステッチ番号を認識できない。	> 番号を確認して入れ直します。
	コンビネーションモードではこのステッチパターンの選択ができない。	> 他のステッチパターンを使用します。
	送り歯が下がっていない。	> «送り歯 上／下»ボタンを押して、送り歯を下げます。
	取り付けられた針と針板は一緒に使用することができない。	> 針を交換します。 > 針板を交換します。
	針が一番上まで上がっていない。	> はずみ車で針を一番上まで動かします。
	上糸がなくなった。	> 糸を掛けなおします。
	上糸が切れた。	> 糸を掛けなおします。
	下糸がなくなった。	> 糸を掛けなおします。
	下糸が切れた。	> 釜を掃除します。 > 糸を掛けなおします。

ディスプレイ表示	原因	対策
	モーターが動かない。	> 釜を掃除します。 > 釜をはずして、釜の裏側の磁石部分に折れた針などが付いていないか確認します。 > 糸押さえ装置をセットアッププログラムでオフにします。
	布地が厚すぎる。	> 布地の厚さを調節します。
	振動などにより、ミシンと刺しゅう機の接続が中断された。	> ミシンと刺しゅう機が安定した平らな場所に置かれているか、確認します。 > 刺しゅう機をミシンに接続します。
 	針の位置が刺しゅう枠の中心からずれている。	> 刺しゅう枠を調整します。
	刺しゅう機が取り付けられていない。	> 刺しゅう機をミシンに接続します。 > ベルニナ正規販売代理店にミシンのチェックを依頼します。
	刺しゅう枠が取り付けられていない。	> 刺しゅう枠を取り付けます。

ディスプレイ表示	原因	対策
	刺しゅう枠が取り付けられている。	> 刺しゅう枠を取り外します。
	刺しゅう枠が動く。	> «決定»アイコンをタッチします。
	刺しゅうモチーフの一部が刺しゅう枠からは み出ている。	> 刺しゅうモチーフの位置を変えて、刺しゅうをし直します。
	刺しゅうモチーフが大きすぎる。	> 刺しゅうモチーフのサイズを小さくします。 > 大きな刺しゅう枠を取り付けます。
ベルニナUSBメモリー（オプションアクセサリー）に空き容量が不足しています。	USBメモリーに空き容量が不足している。	> ベルニナUSBメモリーを使用しているか確認します。 > USBメモリーのデータを消去します。
パーソナルデータがベルニナUSBメモリーに見つかりません。	復元用のパーソナルデータがベルニナUSBメモリーに見つからない。	> データと設定がベルニナUSBメモリーに保存されているか確認します。
パーソナルデータの復元に失敗しました。	ソフトウェアのアップデートは正常に終了したが、パーソナルデータの復元に失敗した。	> データと設定がベルニナUSBメモリーに保存されているか確認します。 > 保存データをミシンに取り込みます。
ベルニナUSBメモリーが接続されていません。自動アップデートの最中は常に同じベルニナUSBメモリーが接続されていることを確認してください。	ベルニナUSBメモリーが接続されていない。	> 十分な容量のあるベルニナUSBメモリーを使用します。
ソフトウェアのアップデートに失敗しました。	新しいバージョンのソフトウェアがUSBメモリーに見つからない。	> 圧縮(ZIP)データを解凍したか確認します。 > アップデートのデータをUSBメモリーのファイルなどに解凍せず、直接その場に解凍したか、確認します。 > ソフトウェアの更新をします。

ディスプレイ表示	原因	対策
 	ミシンのクリーニング／注油が必要である。	> ミシンのクリーニングをします。 > ミシンに注油をします。
定期点検の時期になりました。お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談ください。	ミシンの点検が必要である。前回の点検から一定の期間が経つと、お知らせの表示が出ます。 重要:ミシンを定期的に点検サービスに出していただくことで、大切なミシンを正常に機能させるだけでなく、長く、安全にお使い頂けます。この点検サービスを怠るとミシンの寿命を短くすることになりかねませんし、製品保証にも影響を及ぼしかねません。修理点検サービス料は国ごとに規定されていますので、お近くのベルニナ正規販売代理店、またはサービスショップにご相談下さい。	> ベルニナ正規販売代理店に点検を依頼します。 > お知らせ表示は«ESC»アイコンを押すと、一時的に消えます。 3回消去した後は、再び次の点検までの一定の期間が経つまで、お知らせは表示されません。

12.4 収納と処分

ミシンを収納する

ミシンは元の梱包に収納することをお勧めします。ミシンを寒い場所で保管した場合、使用する1時間前に常温の部屋に置いておきます。

> ミシンの電源を切り、電源コードをプラグから外しておきます。
> ミシンは屋外で保管しないでください。
> ミシンが気候の影響を受けないように保管してください。

ミシンを処分する

ベルニナインターナショナル株式会社は環境保護に準じることを宣言しています。私達は製品の製造に当たっては製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。

当製品がご不要になった場合には、お住まいの国の環境基準法に準じた方法で処分していただけますようお願い申し上げます。家庭用ごみとして廃棄しないようにご注意くださ い。ご不明な点があれば、お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談ください。

> ミシンを掃除します。
> それぞれのパーツは材質ごとに分別して、お住まいの市町村のルールに従って処分してください。

12.5 機械仕様

名目	数値	単位
布地の最大厚さ	12.5	mm
ソーイングライト	30	LED
最高ソーイングスピード	1000	spm/rpm
サイズ（糸立て棒を除く）	522/214/358	mm
重量	14	kg
消費電力	140	ワット
電圧	100-240	ボルト
感電保護クラス	II	

13　ステッチパターン一覧

13.1 実用縫い

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	19	20	22	23
24	25	27	29	30	32	33				

13.2 ボタンホール

51	52	53	54	56	57	59	63	69	60	61
62										

13.3 飾りステッチ

自然

101	102	103	104	108	111	112	113	114	115	119
120	121	122	123	125	128	130	136	137	143	146
147	152									

クロスステッチ

301	302	303	304	305	306	307	308	311	314	323
324	325	326								

サテンステッチ

401	402	405	406	407	413	414	415	416	417	418
419	422	423	424	425	426	427	428	439	441	442
447	461	464								

幾何学模様ステッチ

601	602	603	605	607	608	609	610	612	613	615

616	620	621	624	625	626	627	630	631	633	635
636	637	639	643	644	645	646	649	650	652	653
654	656	657	660	662	663	677	684	685		

伝統柄ステッチ

701	702	705	706	708	709	710	711	712	713	714
715	717	719	720	721	722	723	724	725	726	727
730	731	732	734	738	740	741	742	746	748	749
750	751	772	775	777	779					

キッズ柄ステッチ

902	903	904	906	907	908	911	913	914	916	917
920	921	925	926	929	930	934	935	938	939	940
942	947									

キルトステッチ

1324	1325	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335
1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346 6 / Inch 2.4 cm
1347 8 / Inch 3.2 / cm	1348 10 / Inch 4 / cm	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	

14 刺しゅうモチーフ一覧

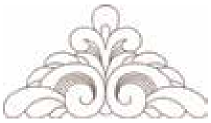
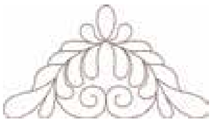
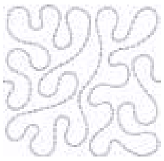
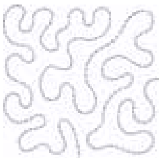
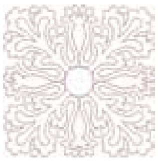
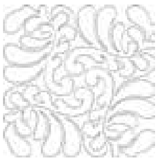
14.1 刺しゅうモチーフを編集する

あなたの創造力を発揮してください。多彩な刺しゅうモチーフが搭載されています。

刺しゅうモチーフ番号の下に以下のサムネイルが表示されています。更なる情報は
www.bernina.com/7seriesをご覧ください。

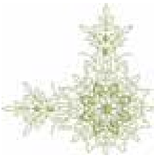
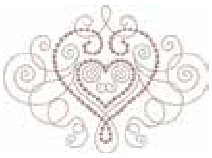
	下地のないレース刺しゅう		カットワークデザイン（モチーフ）
	穴あきレース		ペイントワークデザイン（モチーフ）
	フリンジ		クリスタルワークデザイン（モチーフ）
	アップリケ		パンチワーク

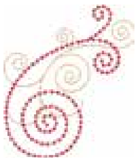
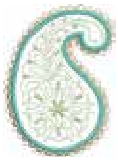
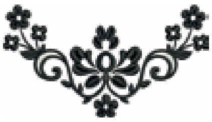
14.2 キルト

No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
12380-22		110.6 60.9	12380-09		111.6 61.6
12380-08		89.2 89.1	12380-04		83.1 89.9
BD501_48		63.5 61.1	BD502_48		61.5 60.7
BD554_48		109.9 109.9	BD837_48		123.6 123.6

No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
BD562_48		63.9 126.0	BD563_48		89.7 89.6
BD568_48		109.5 160.3	BD669_48		67.1 215.4

14.3 飾りステッチ

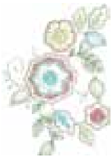
No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
82007-11		111.7 94.2	CM198_48		96.1 106.0
FB033		99.3 99.6	FB106		128.1 92.6
FB323_48		64.6 80.7	FQ871_48		132.3 170.9

No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
FB126		86.9 102.2	NA959_48		75.6 103.7
NB385_48		86.2 174.0	NB481_48		123.4 67.6
NB749_48		126.5 262.8	HE428		75.1 49.5

14.4 花

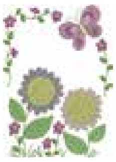
No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
FP814		88.0 84.4	FP246		65.6 61.8
BD182		58.3 83.1	FQ522_48		56.5 159.6

036045.50.10_2014-10_Manual_B720_JA

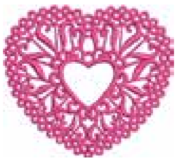
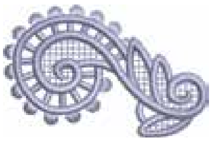
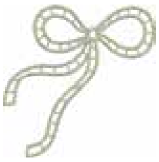
No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
FQ527_48		90.3 141.4	FQ562_48		90.3 156.3
FQ722_48		80.0 90.6	FQ808_48		123.9 142.5
HE700		103.1 162.8	WS641_48		72.6 151.4
82004-34		198.8 281.3	21009-21		64.9 107.7

14.5 キッズ

No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
CM226_48		63.3 63.1	CK738		89.1 85.7

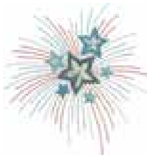
No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
BE790313		102.3 98.9	CM348_48		119.0 167.1
CM376_48		100.3 97.5	HE456		90.2 72.5
NA667		83.8 83.8	RC244		88.4 53.4
SP266		75.8 54.2	SP980		63.2 63.5
CK667		99.8 82.3	CM362_48		120.6 113.0

14.6 ボーダーとレース

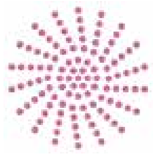
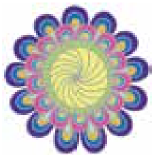
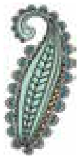
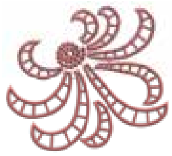
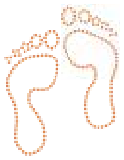
No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
NX957		97.9 88.1	FB422_48		125.5 124.7
FB423_48		132.9 53.6	FB461_48		121.7 121.6
HG341_48		63.8 63.7	NX696		91.2 90.7
FB436_48		132.8 29.2	FQ559_48		136.4 28.6
FQ741		26.4 71.1	FQ810_48		23.6 206.4
HG455_48		137.0 258.6	NB520_48		26.3 175.9

No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
NB651_48		30.7 141.0	CM473_48		31.8 209.6

14.7 季節

No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
12384-02		132.9 203.4	12417-04		84.3 97.1
BE790303		69.5 70.1	CM426_48		45.8 96.0
FQ748_48		80.8 130.9	HE543		73.4 84.2
12433-05		83.4 124.4	HG177_48		50.0 158.6
HG053_48		122.1 121.8	HG460_48		91.8 98.1

14.8 クリスタルワーク

No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm	No.	刺しゅうモチーフ 色	横×縦 mm
DW11			BE790906		
BE790905			BE790903		
BE790909			DW05		
DW10			DW08		

B

BSR押えを取り付ける 111

あ

アルファベット 95
安全にご使用いただくために 12

い

糸かけの準備をする 39
糸こま押えを取り付ける 32
糸こまネットを使用する 32
イントロダクション 15

う

上糸センサーを設定する 54
上糸調子を設定する 48
上糸をかける 39

え

エコモードについて 76
エラー表示 146

お

送り歯を掃除する 140
押え上げレバーで押え金の位置を変える 34
押え上げレバーを取り付ける 30
押え金を交換する 34
押え圧を調節する 35
お手入れとクリーニング 140

か

送り歯飾りステッチ 91
カットワーク／直線縫い用針板を取り付ける 121
釜に注油をする 142
釜を掃除する 141

き

送り歯記号について 15
キルティング 107

け

送り歯言語の設定 55

こ

コンビネーションモード 70

さ

送り歯サービスデータを保存する 62
三本針に糸を通す 42

し

送り歯刺しゅう機を取り付ける 122
刺しゅう機を接続したままでソーイングをする 126
刺しゅう針を取り付ける 119
刺しゅうモードで下糸を交換する 126
刺しゅうモチーフを選択する 124
刺しゅうモチーフ一覧 155
刺しゅう枠の位置を変える 127
刺しゅう枠の調整 51
刺しゅう枠を取り付ける 124
下糸センサーを設定する 54
下糸をかける 44
下糸を巻く 43
実用縫い 77
収納と処分 149、150

す

送り歯ステッチの密度を変更する 132
ステッチパターンを選択する 64
ステッチパターン一覧 151

せ

送り歯節電モード 76

そ

操作音の設定をする 54
ソーイングアドバイザー 47
ソーイングスピードを調節する 64
ソーイングライトの設定 56
ソフトウェアのバージョンを確認する 61
ソフトウェアを更新する 58

た

送り歯代理店情報を登録する	62
試し縫い	115
試し縫いをする	101

ち

送り歯チャイルドセーフモード	76
チュートリアルを開く	46

て

ディスプレイの明るさを設定する	55
ディスプレイの調整	56

と

送り歯留め縫いを設定する	48
トラブルシューティング	143

に

送り歯二本針に糸を通す	42

ぬ

布ガイド付き自動ボタンホール押え3Aを調整する	58

は

送り歯パーソナル画面を設定する	53
針、糸、布地	25
針停止 上／下（常時）を設定する	36
針と糸の組み合わせ	27
針板を交換する	38
針を上げる／下げる	31
針を交換する	36

ひ

送り歯標準設定に戻す	56
ピンタック	94

ふ

送り歯付属アクセサリー	20、114
フットコントローラーを接続する	29

へ

送り歯ヘルプを開く	46

ほ

送り歯ボタンホール	97
ボタンホール芯	99

み

送り歯ミシンに注油をする	60、140
ミシンのクリーニングをする	60
ミシンを処分する	149

made to create BERNINA